

2 包含層遺物

近世該当の包含層から出土した遺物は、磁器 100 点、陶器 682 点、古銭 4 点である。このうち、図化した遺物を以下に掲載する。掲載に際しては、まず各遺物を用途により大別し、その後それらを器種毎に細分する手法をとった。

(1) 食器具

食器具として、碗 55 点、皿 19 点、蓋 3 点、土瓶 15 点、徳利 6 点がある。碗・皿は、磁器・陶器別にとりあげる。

ア 磁器碗 (第 147・148 図 1090~1108)

1100・1108 以外は透明軸がかかる。胎土の多くは白色で、1093・1094・1102 は灰白色、1096・1097 は黄白色、1100 は黄灰色、1101・1103 は灰色である。

1090~1093 は、18 世紀中頃の肥前磁器の丸碗である。1090 は口縁部片で、外面に青緑軸がかかる。1092 は、高台が高く、内底面に「長命富貴 金玉満堂」、外底面に「長命富貴」の文字が描かれる。1093 は口径 9.9cm、波佐見焼の口縁~胴部片である。外面に草花文を描く。

1094~1096 は、18 世紀後半頃の碗の口縁部である。1094・1095 は肥前磁器である。1094 は口径 11.0cm の底部近くまでの破片で、外面に楼閣山水紋が描かれている。1095 は外面に杉葉文、内面に圈線が描かれる。1096 は薩摩磁器である。

1097~1102 は 18 世紀後半の筒形碗で、1100 以外は肥前磁器である。1097 は口縁部片で、1098・1099 はともに口径 8.0cm の口縁部から底部近くまでの破片である。1098 は器高 5.4cm で、外面に山水文、内面に四方禪文と圈線を描く。1099 は外面に蔓草文が描かれる。1100 は、残存部分の最大径 7.9cm の胴中央部で、内底に 2 条の圈線を描き、施軸されて灰白色を呈するが、外底に軸切れが 4 か所ある。1101・1102 は、外面に圈線を描く底部である。1101 は底径 5.0cm で、内外面ともに圈線が描かれる。1102 は底径 3.9cm、細く高い高台で、外面には圈線が描かれる。

1103~1108 は、19 世紀初めから前半の碗で、1103 は肥前、1104~1108 は薩摩の磁器である。

1103~1107 は増反碗である。1103~1106 は安定した高台の付く底部で、見込みに蛇の目刺割ぎ (1103・1105~1107)、砂目 (1107) がある。1104 は外面に岩波文が描かれる。1107 は口径 10.6cm、器高 5.4cm、底径 3.8cm で、ほぼ完形である。外面には蔓草文が描かれる。

1108 は口径 6.9cm、口縁~底部近くの破片である。

イ 陶器碗

肥前陶器 4 点、薩摩焼 26 点、その他 6 点がある。

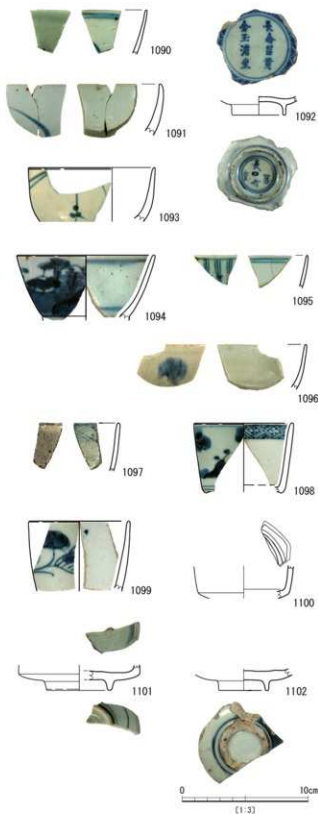
① 肥前陶器 (第 147 図 1109~1112)

1109~1112 は肥前陶器である。

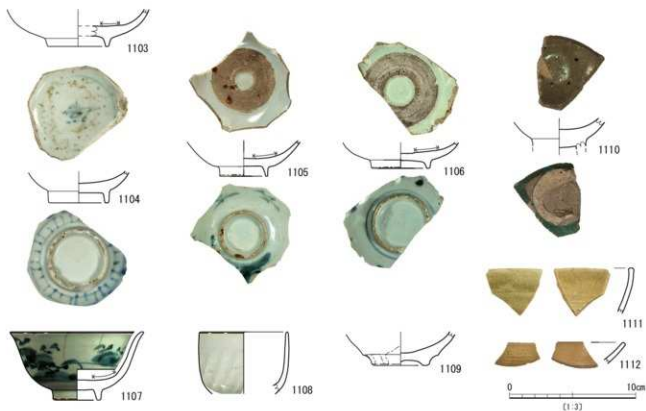
1109 は底径 4.8cm、16 世紀末から 17 世紀初頭の胴下部~高台部分で、外面下部のほとんどは露胎だが、上部は黄味を含む黒色軸が施され、下部には分厚く軸垂れが

みられる。内面は同じような軸がかかる。

1110 は 17 世紀後半から 18 世紀前半の内野山系碗の底部である。胎土は黄灰色を呈する。外底面は無軸、内



第 147 図 碗 (1)



第148図 碗(2)

面は透明軸，外面は銅緑軸がかかる。

1111・1112は口縁部片で，浅黄色の胎土に透明軸がかかる。1112は，皿の口縁部の可能性がある。

②薩摩焼(第149図 1113~1138)

1113~1138は，龍門司系の碗で，胎土の粒子は細かい。

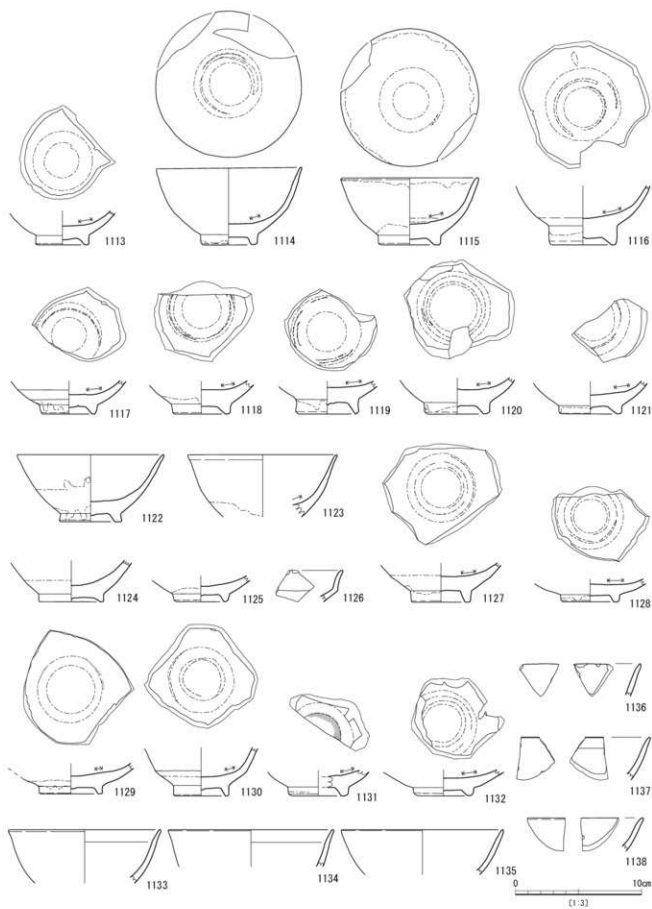
1114・1115はほぼ完形である。1114は，口径11.5cm，底径4.5cm，器高6.0cmで，分厚い底部から丸みを帯びて立ち上がり，口縁端部はとがり気味となる。畳付以外は鉄軸が施軸される。1115は，口径10.9cm，底径4.4cm，器高5.3cmで，1114と比べやや浅い器形だが，逆台形状の幅広の高台が付き，口縁端部は丸みをもっている。口縁部は内外とも厚く施軸される。1114・1115ともに，内底部は蛇の目軸割きである。胎土の色調は，1114がにぶい赤褐色で1115が黄灰色である。1114の外底面は露胎である。軸色は，1114は暗赤灰色，1115の口縁部は極暗赤褐色で鉄軸部分は赤黒色を呈する。

1113・1116~1121は胴~高台部分で，底径は，1116が5.4cm，1118が4.6cm，1119・1121が5.0cmである。1113は，底径4.2cmで外底面も施軸された古手である。1116の胎土は白色石を含む。色調は，1113は浅黄色，1116・1119・1120は赤褐色，1117・1121はにぶい褐色，1118は橙色である。1115~1121の高台は無軸で，1115・1124の畳付，1116・1131の高台~畳付，1118の外底面，1119の畳付~外底部，1120~1121の高台内と高台の一部は露胎である。施軸部分は，1113は赤褐色，1117は外面

が黒色，内面中央は極暗赤褐色で鉄軸部分が赤黒色，1118は暗オリーブ灰色，1119は黒褐色，1120はオリーブ褐色，1121は灰赤色を呈する。1116~1121は見込みにも蛇の目軸割きがある。1117は，底径4.4cm，高台内の底面下部に切り込みがある。1118の内底は暗赤褐色に施軸される。1120は，底径5.2cmである。

1122~1128は，同じく龍門司系だが白化粘土の製品である。1122は，口径11.6cm，底径5.0cm，器高5.3cmのほぼ完形である。分厚い底部から外へ開きながら直線的に伸びる器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外へ開く分厚い高台が付く。高台~畳付は露胎で，施軸部分は，内面が灰黄色，外面が一部に軸のムラがあり，下部は緑色が強い灰黄褐色を呈する。1123は口径11.8cmの口縁~胴部片で，やや丸みを帯びた器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外面下部の軸色はにぶい黄褐色である。

1124・1125・1127は胴~高台部分である。1127の高台は逆台形を呈し高い。1124は底径5.1cm，高台は低いが幅は2.5~6.0mmと広狭が顕著である。畳付から底は露胎，外面下半は透明軸がかかり灰オリーブ色，上半は白色軸がかかり，境付近で軸垂れが数か所ある。1125は底径4.2cmで高台が低い。胴下部の一部と高台は露胎，施軸部は外面は灰オリーブ色を呈し，内面は4か所の砂目がある。1126は口径10.0cm，小碗の口縁~胴部である。胴部と口縁部の境には明瞭な屈曲部がある。1127は底径4.7cm，高台~外底部は露胎，内面及び外面上部は灰



第149图 碗(3)



第150図 小鉢

色、外面下部は黒褐色に施釉される。1128は底径4.6cm、底部～高台部分で、高台内外は露胎、にぶい黄褐色に施釉される。胎土の色調は、1122・1123は赤褐色、1124は暗灰黄色、1125・1126は灰色、1128は浅黄色である。施釉部は、1122・1124の外面上部、1123の外面上部から内面、1125の内面、1126は灰白色を呈する。1122・1123・1127・1128は、見込みに蛇の目軸割ぎがある。

1129～1132は、底部から高台部分で、見込みに蛇の目軸割ぎがある。1129～1131は胴部で立ち上がる器形になる。1129は底径5.0cm、胎土は黄灰色、底部から高台部分は露胎で灰色、内外面は灰オリーブ色を呈し、見込みに砂目がある。1130は底径4.4cmで、腰折れがある。白色石を含む胎土は橙色、畳付から高台内面は露胎、化粧土と透明釉がかかり、外面下半はにぶい黄褐色、外面上半から内面は灰白色に施釉され、貫入がある。1131は底径4.7cm、胎土は赤褐色である。高台は露胎、施釉部は褐色を呈する。1132は底径4.8cm、胎土は灰白色である。畳付部分は露胎、施釉部は明オリーブ灰色を呈し、外底端に砂粒が付着する。皿の可能性もある。

1133～1138は、鉄軸が施されて黒褐色を呈する口縁部片である。丸みのある器形を呈し、口縁端部も細く丸みを帯びる。口径は12.0～13.1cmである。胎土の色調は、1133・1134が赤褐色、1135が明黄褐色、1136・1137が橙色、1138が白石を含む褐色である。

ウ 小鉢 (第150図 1139～1144)

1139～1141は、産地不明の小鉢である。1139は底径3.4cm、胴～高台部分である。底部と高台は段となり、高台端部は三角形状である。灰白色の細い胎土で、胴下半～高台は露胎、浅黄色釉がかかり貫入がある。1140は底径5.0cmの底部片で、分厚い底部に逆台形の低い高台が付く。胎土は黄白色、外底部は白濁した釉が部分的にかかる。1141は底径3.8cmの底部片で、胎土は灰色、底部は露胎、青磁釉がかかり、内面2か所にトチン痕がある。

1142・1143は底径3.0cmの小鉢の底部である。絵唐津の1142は淡赤色の胎土である。産地不明の1143の胎土は黄白色で、透明釉がかかり、見込みに目痕が1か所残る。

1144は口径8.6cm、底径4.6cm、器高6.2cmのほぼ完形で、龍門司焼系薩摩焼の鉢状を呈する碗である。外面に楓文が描かれる。胎土はにぶい黄褐色土で、高台内は無釉、内外面に化粧土を施し、外面に透明釉がかかり、灰白色またはにぶい黄褐色、鉄軸は暗褐色を呈する。

工 皿

磁器9点と陶器10点がある。

①磁器 (第151図 1145～1153)

1145～1153は、透明釉がかかった肥前系の磁器である。胎土は、白色・灰白色である。1145・1152の内面、1145・1148・1150の外面には團縁が描かれ、1146・1149・1152・1153の見込みに蛇の目軸割ぎ痕がある。

1145～1151は、18世紀代の皿である。1145・1146は、波佐見焼の皿の口縁部で、内面に菊唐草文を描く。1146は底部近くまで残り、口径12.0cm、器高1.8cmで、外面に唐草文を描く。1147～1151は底部片で、1148・1149の底径は8.0cmである。1147は底径7.0cmで、畳付に軸割ぎと砂目がある。1148は、内面に草花文状の文様を描く。1150・1151は大皿である。1150は底径11.0cmで劣化が著しい。1151は底径7.8cmで内面に十字四方襷文を描く。

1152・1153は碗の底部片で、低い高台が付き、内面には蛇の目軸割ぎ痕がある。1152は底径4.6cm、1153は底径6.0cm。

②肥前系陶器 (第151図 1154～1163)

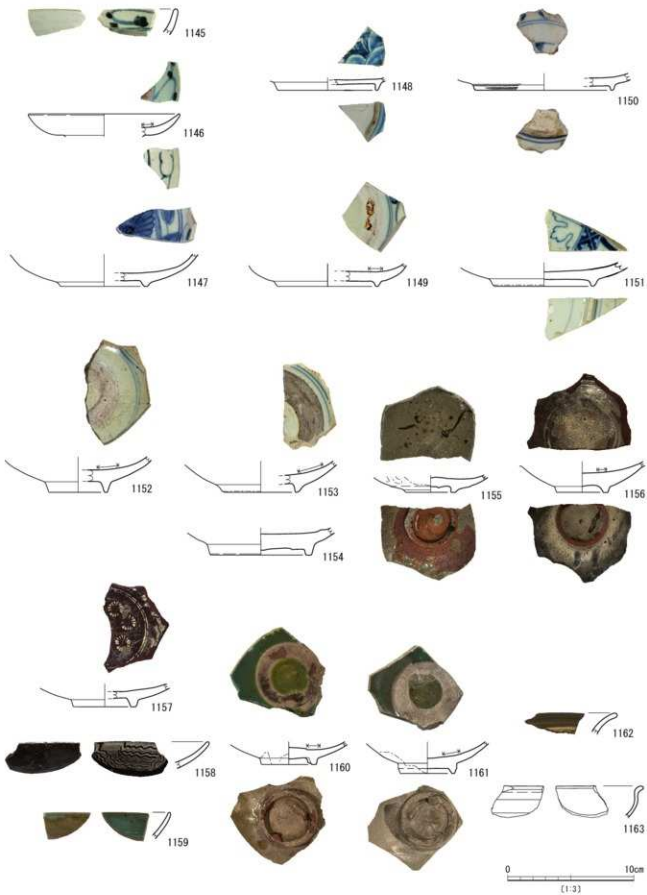
1154・1155は、16世紀末から17世紀初頭の唐津焼皿の底部である。1154は分厚い底部である。底径8.0cm、胎土は灰白色、外底面は部分的に透明釉がかかる。漳州窯の可能性もある。1155は底径4.0cm、胎土は灰色、外面下部は無釉部が目立ち、内面の一部に鉄軸がかかる。

1156・1157は、17世紀初頭から前半の三島手の唐津焼碗の底部で、見込みに2条團縁に囲まれた菊文のスタンプが押し入れ、象嵌状を呈している。胎土は赤褐色である。1156は底径4.2cmで見込みに目痕が3か所あり、1157は底径5.0cmである。

1158は、唐津焼皿の口縁部片で、内面には櫛状の波状文が施される。暗赤褐色の胎土である。

1159～1161は、内野山系の陶器碗で、外面に透明釉がかかる。1159は口縁部片で、胎土は灰色、内面は銅緑釉をかけた。1160・1161は底径4.5～4.6cmの底部で、胎土は黄灰色、外底面は無釉、内面には透明釉がかかり、見込みに蛇の目軸割ぎがある。1160は、高台内に胎土目が見え、軸割ぎの上にトチン痕が残る。

1162・1163は外反する碗の口縁部片で、胎土は、1162が黄褐色で1163が灰白色である。1163は、鉄軸が施され黒褐色を呈する。



第151图 皿

オ 蓋 (第152図 1164~1166)

1164は倒環状の蓋である。胎土は灰白色で、内面に透明釉、外面に青磁釉がかかる。1090と施軸法が似ている。

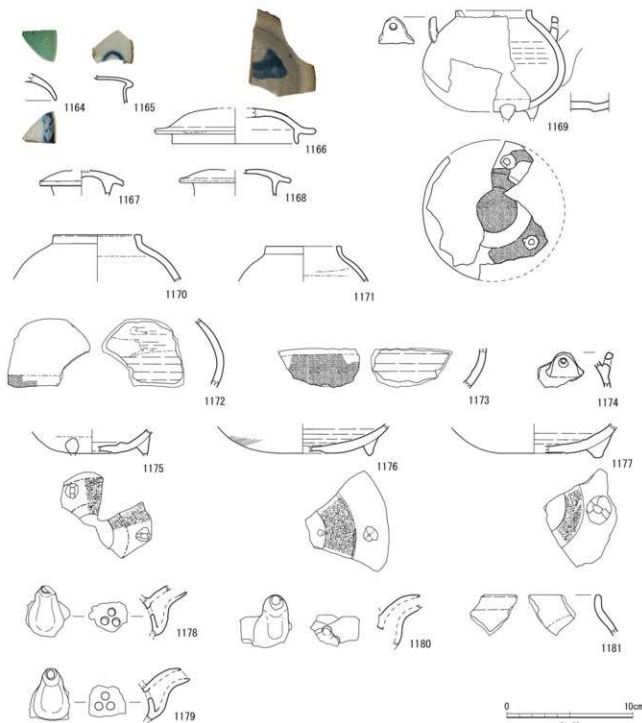
1165は肥前系磁器の蓋で、天井部が外側へ張り出している。胎土は白色、透明釉がかかる。1166は、陶器・磁器の区別が不明で、口径10.0cm、器高2.8cm、底径12.8cmである。胎土は黄色、内面は無釉で、上面に文様がある。

カ 土瓶 (第152図 1167~1181)

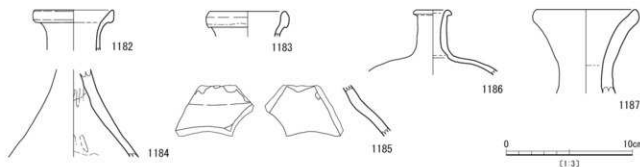
1167~1181は、18世紀後半から19世紀の苗代川系薩摩焼の土瓶である。石英・白石を胎土に含むものが多い。1173・1174・1178・1180の胎土にはぶい褐色である。1167・1172・1175の施軸部は黒褐色を呈する。

1167・1168は上面のみ施軸された蓋で、胎土は、1167が赤褐色で1168が灰色である。1168は施軸部も灰色を呈する。

1169は、口径6.0cm、底径3.6cm、器高8.7cmの完形品



第152図 蓋・土瓶



第153図 徳利

で、胎土は褐色、外面胴部下位～底部は露胎だが煤が付着しているため黒褐色を呈する。口縁部は直に立ち上がり、胴部は丸みを帯びている。両側に把手が付き、片方に注ぎ口がある。底部には3か所に低い脚が付く。

1170・1171は口縁部片である。1170は口径7.0cm、胎土はにぶい赤褐色、内面は無軸、施軸部は極暗褐色を呈し、口唇部は軸割ぎされる。1171は口径6.0cm、胎土はにぶい黄褐色、口唇部～内面上部は無軸、施軸部は暗褐色を呈する。

1172・1173は、丸みを帯びた胴部片である。1172は、胎土は赤褐色、外面下半に煤が付着する。1173は、施軸部は灰オリーブ色を呈し、腰部以下は無軸で煤が付着する。1174は、孔を穿たれた耳部分である。

1175～1177は底部で、1175は脚が2本、1176・1177は脚が1本残る。1175・1176は底径3.6cmである。1175は、胎土が灰褐色、外面の腰部以下が無軸である。1176は、胎土が褐色、施軸部が暗灰黄色で外底面の煎道具鉢と考えられる部分のみ黒褐色を呈する。1177は底径5.0cm、無軸で大きめの脚をもつ。

1178～1180は注ぎ口である。1178・1179は茶止め穴が三つあり、1180も残存形状から本来三つあったと考えられる。1178は施軸部が暗オリーブ褐色を呈する。1179は、胎土が暗褐色、施軸部が暗オリーブ灰色を呈する。1180は胎土がにぶい褐色を呈する。

1181は口縁部で、胎土は石英を含むにぶい褐色、内面下部は無軸、施軸部は灰褐色を呈する。注ぎ口内側が一つ穴で、三つの茶止め穴をもつ通常の土瓶とは用途が異なるか、土瓶に先行する鍋・釜からの派生なのか不明である。

キ 徳利 (第153図 1182～1187)

1182～1185は、17世紀後半から18世紀前半頃の苗代川系薩摩焼の徳利である。1182～1184は、堂平窯産の可能性がある。

胎土は、石英・白石を含み、1182は暗赤灰色、1183・1185は灰色、1184は灰黄色である。いずれも鉄軸が施される。1182・1183はオリーブ黒色を呈する口縁部で、1182は口径6.4cmで17世紀後半頃、1183は口径6.6cm

で17世紀のものと考えられる。1184・1185は頸部～胴部の破片で、1184の内面下部は無軸、施軸部は黒褐色を呈し、1185の施軸部はオリーブ灰色を呈し、内面には鉄分と考えられる黒斑がみられる。

1186・1187は、1182～1185より新しい薩摩焼の口縁部である。1186は口径3.1cmの細首の口縁部で、端部は外へ広がっている。肩部は外へ張っている。胎土は石英を含む褐色、施軸部は暗赤褐色を呈する。1187は口径が8.4cm、外反する分厚い龍門司系薩摩焼で壺の可能性もある。胎土はにぶい褐色、内面は無軸、化粧土に透明釉が施されている。

(2) 貯蔵具

貯蔵具は、鉢・播鉢18点、蓋2点、壺・甕16点がある。

ア 鉢 (第154図 1188～1194)

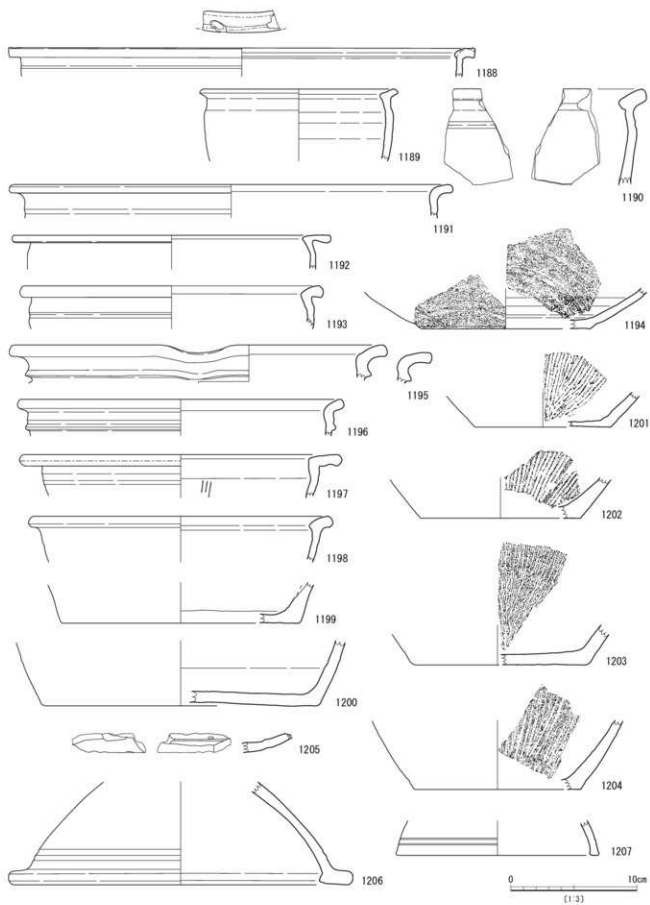
いずれも、苗代川系薩摩焼である。

1188～1190は、18世紀後半と考えられる片口鉢の口縁部片で、口唇部は無軸、施軸部はオリーブ黒色を呈する。胎土の色調は、1188・1189は暗褐色、1190は赤褐色である。1188は、口径37.7cmのL字状口縁で口唇部に貝目が残る。1189は、口径15.7cmで内側がやや下がる。1190は、1189よりもさらに内側が下がる口縁で、胎土に小礫・砂粒を含み、鉄軸を施される。

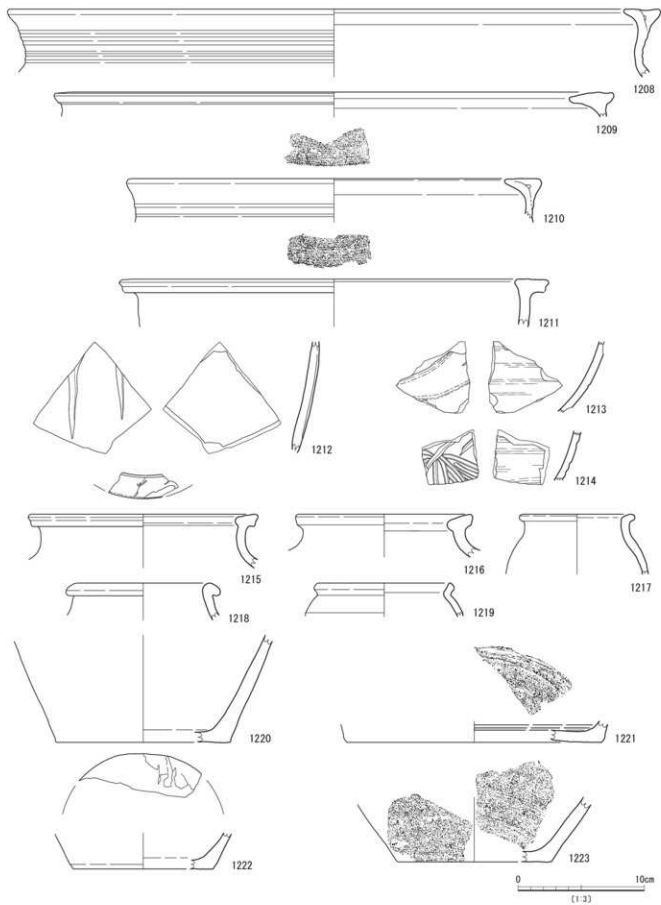
1191～1194は、施軸部がオリーブ黒色を呈する18世紀後半頃の鉢である。1191は丸みを帯びたL字状口縁、1192は鋤先状口縁、1193は端部の分厚いL字状口縁である。1191～1193は口唇部が無軸の口縁部、1194は底部である。胎土は、1192・1194は石英、1192は白石を含み、1191は暗褐色、1192～1194はにぶい赤褐色である。口径は、1191が35.1cm、1192が25.2cm、1193が24.0cmで鉄軸が施される。1194は、底径13.3cmの安定した平底で外底面から胴下部は無軸である。

イ 播鉢 (第154図 1195～1204)

1195～1198は、口縁部で内側がやや下がるL字状を呈する。いずれも胎土に石英を含み、口唇部は無軸である。口径は、1195は29.9cm、1196は25.8cm、1197は25.4cm、1198は24.0cmである。胎土の色調は、1195は赤褐色、1196は暗褐色、1197は灰黄褐色、1198は褐色である。



第154图 鉢・播鉢・蓋



第155图 甗·壶

注ぎ口をもつ1195の口縁内面は無軸である。1196の内面上部は無軸である。1197の内面に三条の摺目がある。1195・1197・1198はオリーブ黒色、1196は黒褐色に施軸される。

1199～1204は安定した平底である。底径は、1199が18.8cm、1200が22.2cm、1203が14.6cm、1204が13.2cm、1202が12.6cm、1201が10.8cmで、1201～1204は内面に摺目をもつ。胎土は、1199～1204が石英、1203・1204が白石を含む。色調は、1199が灰褐色、1200・1202～1204が赤褐色、1201が褐灰色である。1203の外底面は無軸、施軸部は1200・1201・1203がオリーブ黒色、1199・1202・1204が黒褐色を呈し、1201は部分的に剥落がみられる。

摺鉢は、ほかに、近世土坑墓4号の埋土から1075が出土している。

1205は、器種・産地とも不明であるが、鉢の底部の可能性もある。中国軸葉を施されている可能性もあり、中世にさかのぼることも考えられる。

ウ 蓋 (第154図 1206・1207)

1206・1207は苗代川系薩摩焼の器種不明の蓋である。1206は底径27.4cmのL字状、1207は底径16.0cmで肥厚する。1206は石英を含む褐色、1207は砂粒を含む赤褐色で、口唇部は無軸となり、施軸部は、1206は暗オリーブ褐色、1207は鉄軸が施されオリーブ黒色を呈する。

1206は鉢の可能性もある。

エ 壺 (第155図 1208～1214)

1208～1214は、苗代川系薩摩焼の壺である。

1208～1211は口縁部である。1208は、口径51.8cmと大型の資料で頸部から強く外反し口縁端部は内外に張り出している。外部に粘土を貼り付けている。1209は、口径44.4cmで1208と同じく内外に肥厚しているが、特に内側が鋭く突出している。1210は、口径32.8cmで内側へ強く突き出しているが、そこから粘土を外へ折り曲げている。1211は、口径34.0cmのL字状に曲がる資料で口唇部には凹線が巡る。1210と1211は天井部をハケ様の道具でナデている。

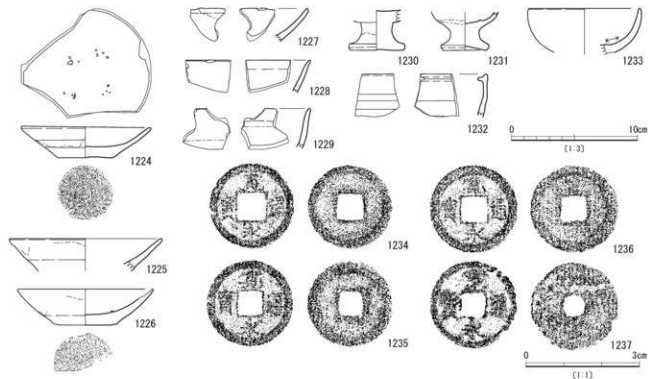
胎土には、1208が白石、1210・1211が石英を含む。色調は、1208・1210が赤褐色、1209が褐灰色、1211がにぶい黄色で、1210・1211の口唇は無軸である。1208の施軸部は暗オリーブ褐色を呈する。1210の施軸部は黒褐色を呈する。1211の施軸部は灰オリーブ色を呈する。

1208・1209は18世紀前半から中頃、1210は18世紀代、1211は18世紀後半から19世紀と考えられる。

1212～1214は胴部片で、胎土は石英・白石を含む赤褐色、鉄軸部分がオリーブ黒色を呈し、外面に掻き落とし文を施す。1213と1214は同一個体と考えられる。

オ 壺 (第155図 1215～1219)

1215～1219は、苗代川系薩摩焼の壺口縁部である。1215・1216は大型、1217～1219は中小型である。1215・1216は口縁端部が内外に張り出し、さらに1215の外面には凹線が施される。1217は、緩やかなL字状口縁でナデ肩状の器形を呈する。1218は、口唇部が下がる。1219は、くの字状口縁で胴部は外へ張る。口径は、1215が



第156図 灯明皿・仏具・古銭

18.2cm, 1216が14.0cm, 1217が9.1cm, 1218が12.2cm, 1219が11.0cmである。

白石・石英などを胎土に含む。胎土の色調は、暗褐色、にぶい褐色、灰色、にぶい橙色、にぶい赤褐色である。1216・1217の口唇部と1218の内面は無軸, 1218は鉄軸が施され、施軸部は、1215・1217はオリーブ黒色, 1215の内面は灰白色, 1216・1218は黒褐色, 1219は暗褐色を呈し, 1215・1216は口唇部に目痕が残る。1219の口縁部は、中世の中国製陶器壺の形状に似る。

カ 壺・甕の底部 (第155図 1220~1223)

1220~1223は、苗代川系薩摩焼の壺・甕の底部片だが、鉢の可能性もある。いずれも安定した平底である。1220は底径13.7cmで、底面に貝目痕をもつ。1221は底径20.0cmで、筒状に立ち上がる可能性がある。1222は底径11.0cm, 1223は底径12.2cmである。いずれも石英, 1220は白石, 1223は小礫を胎土に含む。胎土の色調は、褐灰色、暗灰黄色、にぶい赤褐色である。

施軸部分は、1220・1221はオリーブ黒色, 1222は灰オリーブ色, 1223はにぶい黄色を呈する。1220は外底面まで施軸された18世紀前半以前のもので、他は外底面が施軸されていないため、その後のものである。

(3) その他

他に灯明皿、仏具、古銭がある。

ア 灯明皿 (第156図 1224~1229)

1224~1229は、龍門司系薩摩焼の灯明皿である。1224~1227は、外面口縁付近から内面が施軸される。1224は、口径10.3cm, 器高2.5cm, 底径4.4cmで糸切り底。胎土は橙色, 施軸部は灰オリーブ色を呈し、内底4か所に砂目がある。1226は、口径10.8cm, 器高2.8cm,

胎土は灰黄褐色, 施軸部は暗オリーブ色を呈し、残存部に胡麻目痕3か所がみられ、本来は4か所あったと考えられる。糸切り底。胎土は黒褐色で施軸部はオリーブ褐色を呈する。

1228・1229の胎土は白石を含み、化粧土に褐軸を施す。胎土は、1228はにぶい褐色, 1229はにぶい黄褐色である。

イ 仏具 (第156図 1230~1233)

1230~1232は龍門司系, 1233は苗代川系薩摩焼である。

1230・1231は、高坏状仏飯具の下部から脚台部分で、胎土は細かい土で、脚台は露胎である。1230は底径4.4cmの浅い上げ底で、胎土は白石を含み、施軸部はオリーブ褐色を呈する。1231は底径3.8cmで、脚台はにぶい赤褐色で、外面上部は施軸されて灰白色を呈する。内面は赤褐色を呈し、胡麻目が付着している。

1232は、香炉の口縁部で、口唇から外面は鉄軸が施され黒褐色を呈している。1233は口径9.0cmの口縁部で、暗褐色に施軸され、見込みは蛇の目軸割ぎ取りが行われている。古手の小塊の可能性もある。

胎土の色調は、1230がにぶい赤褐色, 1231が赤褐色, 1232・1233がにぶい黄褐色である。

ウ 古銭 (第156図 1234~1237)

古銭が4枚出土している。

1234はF-27区I層から、1235・1236はE-27区I層から出土した寛永通寶である。1237は、G-41区IIb層から出土した。一部の刻字が判読しがたく、形状も他の3点とやや異なるが、寛永通寶と思われ、古寛永の可能性もある。

第8表 中世遺構出土舶来産陶磁器観察表

群回 番号	組 番号	遺構 番号 (B)	遺構 番号 (B)	層	取上 番号	器種	部位	種類	法量 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬 色調	施釉範囲	構成	底面	未分 割	分類	備考
57	131	S07	S006	①	27975	碗	胴～ 高台	青磁	直径:5.2	見込:界線	灰	灰オリーブ	胴付～高台内 無釉	負	見取 紫系	青磁 6割	上田 D-2類	
					29425	碗	底～ 高台	青磁	-	内:蓮弁文	灰白	オリーブ灰	高台内無釉	負	見取 紫系	-	-	買入
60	155	S08	S005	②	25212	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ	-	負	-	白磁 1割	IV類	
					25215	碗	口縁	白磁	-	-	濃い緑	灰黄	-	負	-	白磁 1割	IV類	買入
					29060	碗	底～ 高台	白磁	直径:(7.0)	見込:沈線	灰白	灰白	外面無釉	負	-	白磁 1割	IV類	
					25216	皿	口縁 ～ 高台	青磁	口径:(12.0) 直径:(5.4) 器高:3.3	内:三重沈線、月影文 見込:片影文	灰黄	オリーブ灰	高台内無釉	負	見取 紫系	1割	-	桜花 高台内砂粒付 蓋
65	166	S013	S023	①	19439	碗	口縁 ～ 胴	青磁	-	編蓮弁文	灰	灰オリーブ	-	負	見取 紫系	青磁 6割	上田 D-2類	
					19449	碗	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(15.8)	-	灰	オリーブ灰	-	負	見取 紫系	青磁 6割	買入	
	169	S014	S017	①	18695	皿	白磁	直径:(6.0)	-	灰	灰	見込:幅広輪状 輪紋、胴下半～ 高台無釉	負	-	白磁 5割	森田 D類		
					172	覆土	-	碗	胴～ 高台	白磁	直径:(7.0)	見込:沈線	灰白	灰オリーブ	外面無釉	負	-	白磁 1割
	173	S015	S018	②	19457	碗	口縁 ～ 胴	青磁	-	見込:沈線	灰白	オリーブ灰	-	負	見取 紫系	青磁 6割	上田 D-2類	
					18705	碗	口縁 ～ 高台	青磁	口径:(14.8) 口径:(6.0) 器高:3.6	見込:界線、蓮花文	灰黄 ～ 灰白	灰オリーブ	高台内無釉	負	見取 紫系	青磁 6割	上田 D-2類	
73	大2	SK185	②	29495	皿	ほぼ 完形	青磁	口径:11.1 直径:6.3 器高:3.2	口縁:二重界線	黄灰 高台内 無釉	暗オリーブ	外底:高台内 一面無釉	負	見取 紫系	青磁 1割	-	桜花 蓋	
				29055	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	-	灰黄	オリーブ灰	-	負	見取 紫系	青磁 5割	上田 C類		
75	197	ST2	SK30	-	ST2-1	碗	完形	白磁	口径:(17.1) 直径:6.3 器高:6.5	-	灰白	灰オリーブ	胴下～高台内 無釉	負	-	白磁 2割	V-4 類	
					ST2-2	碗	ほぼ 完形	白磁	口径:(6.5) 直径:6.6 器高:6.3	-	浅黄緑	灰黄	見込:内縁 縁取、胴部下～ 見込無釉	負	-	白磁 2割	V-4 類 小 樽類	
					ST2-3	碗	胴	青磁	-	内外:蓮葉文	濃い黄緑	黄緑	外面縁取	負	同安 紫系	青磁 1割	I-1b 類	内面買入 磁産
82	230	F1	P206	①	-	甕	胴	陶器	-	内調整:同心円当て具 外調整:格子タネ →フタナゲ	外底: 黒陶	内面:黒灰 外面:無釉	負	-	-	-	中国製	
	232	F3	F1015	①	-	碗	胴～ 高台	青磁	直径:5.4	外:青磁1条 内底:唐蓮文、界線	灰白	オリーブ灰	高台内無釉	負	見取 紫系	青磁 6割	上田 D-4類	買入
83	234	F5	P2731	①	-	碗	口縁 ～ 胴	白磁	口径:11.8	-	灰白	灰白	口唇縁縁取	負	-	白磁 4割	IV類	

※分類 森田分類は 森田勉「14～16世紀の白磁と分類と編年」『貿易陶磁研究』20, 2』1982
上田分類は 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』20, 2』1982
その他の分類は 大宰府教育委員会「大宰府発跡XV-陶磁器分類編」2000
をそれぞれ参考にした。(変更あり)

第9表 中世遺構出土石器・石製品観察表

探出 番号	発掘 番号	遺構 番号 (E)	遺構 番号 (E)	層	取上番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
28	61	S06(P2)	S047(P2)	I	-	石製品	4.0	3.4	1.2	17.4	滑石	バレン状
34	68	S1	S121	床直	7624	石製品	18.9	12.4	11.0	690.1	軟石	
	69			①	7136	磨石類	7.8	11.1	4.0	568.2	安山岩	
35	70	SK1	SK23	①	7306	石製品	(20.4)	15.5	13.3	2,012	軟石	
36	76	SK3	SK192	①	25403	石製品	13.6	8.9	9.3	391.4	軟石	
38	79	SK6	SK202	①	28151	石製品	12.2	12.1	8.9	415.3	軟石	
	104			①	13719	軟石	(8.3)	(8.9)	(6.9)	798.8	砂岩	
51	105	S03	S012	①	13749	軟石	(11.4)	(12.1)	(8.1)	1,040	凝灰岩	
	106			①	13763	石製品	20.9	14.9	5.8	302.7	軟石	
54	117	S06	S013	①	37288	石製品	4.7	4.4	2.5	61.7	滑石	
	148			①	96576	軟石	(4.4)	3.0	1.8	35.8	砂岩	
	149			①	37239	軟石	(6.3)	(3.1)	1.2	36.7	砂岩	
59	150	SD7	S006	①	27985	軟石	(13.3)	(8.8)	(3.2)	377.2	砂岩	
	151			①	29420	軟石	(8.3)	(14.0)	(8.6)	1,298	砂岩	
	152			①	29428	軟石	10.3	5.4	2.5	153.3	凝灰岩	
	160			②	25192	軟石	6.3	4.5	1.4	35.7	頁岩	
	161			②	25194	軟石	(12.0)	(8.0)	(7.6)	1,011	砂岩	
61	162	SD8	SD35	③・④	25198 + 25199 + 25203	蒸白	-	-	9.4	5,200	凝灰岩	推定直径34.0cm
	163			④	25200 + 25201	蒸白	-	-	12.2	2,600	凝灰岩	推定直径20.7cm
68	182	地2	SK148 -186	-	-	石製品	14.0	15.7	11.0	931.9	軟石	
69	185	地3	SK170	-	-	玉輪座(空輪)	12.5	14.7	13.3	2,300	凝灰岩	
71	188	火1	SK234	②	火1-Nb35	石皿・台石	19.3	17.5	11.2	3,110	凝灰岩	
	189			③	火1-Nb33	磨石	11.1	10.6	7.7	940.0	砂岩	
73	190	火2	SK30	②	28160	石皿・台石	29.0	25.6	8.7	8,700	砂岩	
78	221	ST3	SK249	-	ST3-Nb7	石製品	1.2	1.3	0.9	2.0	水産	
	222			IIa	18	石鏡	19.1	12.3	7.9	1,423	滑石	
81	228	SG7	SG7	IIb	-	玉輪座(火輪)	42.3	18.0	16.3	6,900	凝灰岩	
	229			-	-	玉輪座(地輪)	41	29	12.2		凝灰岩	
82	233	P4	P2378	-	-	石製品	(9.4)	(7.0)	(10.5)	186.4	軟石	
83	235	P6	P2805	-	37533	石製品	4.8	3.3	1.0	18.6	滑石	バレン状
	238	P8 P9	P1903 P1919	-	-	石製品	29.1	23.0	12.3	12,300	花崗岩	

第10表 中世遺構出土金属製品観察表

探出 番号	発掘 番号	遺構 番号 (E)	層	取上番号	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
34	67	S1	S121	-	刀子		右7.4 左7.3	1.6	0.3		2本揃着	
37	77	SK5	SK186	①	-	刀子		22.6	2.6	0.7	105.3	
49	186	地3	SK170	①	22961	釘玉					5.5	約90% 錆カブラホ
76	201	ST2	SK30	①	-	無表銅神鏡	-	直径12.0				表に赤錆・ベンガラ付着
77	212	ST4	SK244	①	-	砂着	-	8.9	6.0	3.5	12.4	
	214			①	-	砂着	-	8.0	4.5	4.5	23.7	

第11表 中世遺構出土渡来銭観察表

探出 番号	発掘 番号	遺構 番号 (E)	層	取上 番号	器種	分類	銭径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	時期	背面	初鋳年	書体	備考	
87				①	-	渡来銭	環式通貨	24.6	1.4	3.5	唐	上背	621年	高貴	
48	88	地2	SK257	①	-	渡来銭	環式通貨	24.6	1.4	2.3	北宋	-	1064年	高貴	
	89			①	-	渡来銭	環式通貨	24.6	1.4	3.4	北宋	-	1064年	高貴	
	90			①	-	渡来銭	環式通貨	23.8	1.4	3.2	唐	上背	621年	高貴	
	91			①	-	渡来銭	環式通貨	24.9	1.3	3.4	北宋	-	998年	高貴	
	92			①	-	渡来銭	環式通貨	24.6	1.4	2.9	北宋	-	1023年	高貴	
	93			①	-	渡来銭	環式通貨	24.9	1.2	3.1	北宋	-	1029年	高貴	
49	94	地2	SK257	①	-	渡来銭	環式通貨	24.0	1.5	3.6	唐	本朝	621年	高貴	
	95			①	-	渡来銭	不明	24.3	1.5	3.5	-	-	-	不明	
	96			①	-	渡来銭	環式通貨	23.7	1.3	1.6	北宋	-	918年	高貴	欠化
	97			①	-	渡来銭	環式通貨	25.3	1.4	3.5	北宋	-	1023年	高貴	
	98			①	-	渡来銭	環式通貨	24.0	1.8	3.8	明	-	1368年	高貴	
	99			①	-	渡来銭	環式通貨	26.0	1.0	1.8	-	-	-	高貴	銭縁付着
52	231	P2	P2921	①	-	渡来銭	環式通貨				北宋	-	1111年	高貴	

第12表 中世の土師器観察表

調査番号	発掘番号	出土状況	層	取上番号	経緯	方位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	断面		色調	胎土			焼成	備考			
										外・内面	底面		白	灰	赤			黒		
84	240	R29	II	24008 他	所	口縁～底	(17.4)	(11.8)	2.6	ナデ	ヘラ切→ナデ	埋戻灰～黒焼	○	○	○	○	良			
	241	R31	II	28454 他	所	口縁～底	(17.0)	(9.5)	3.0	ナデ	ヘラ切→ナデ	洗灰	○	○	○	○	良	緻密な土		
	242	G32	II, III	30919 他	所	口縁～底	(15.6)	8.8	3.2	ナデ	板状正底 圧痕→ナデ	灰白	○	○	○	○	良	緻密な土		
	243	F30	II	-	所	口縁～底	(15.8)	9.0	3.1	ナデ	ヘラ切→ナデ	埋	○	○	○	○	良	緻密な土		
	244	F31	II	37128 他	所	口縁～底	(15.8)	(8.6)	3.3	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:洗灰 外:埋→洗灰	○	○	○	○	○	良	緻密な土	
	245	G-R30	II	24893 他	所	口縁～底	(14.9)	(6.6)	3.2	ナデ	板状正底	内:焼灰 外:にぶい黄	○	○	○	○	○	良	細り良	
	246	G32	II	-	所	口縁～底	(13.0)	(7.7)	2.9	ナデ	ヘラ切→ナデ	にぶい黄	○	○	○	○	○	良	口實部取り	
	247	F35	III	-	所	口縁～底	-	(10.8)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	灰白	○	○	○	○	○	良	緻密な土	
	248	G31	II	27565 他	所	口縁～底	-	11.2	-	ナデ	縦なヘラ切 →ナデ	内:にぶい黄 外:埋	○	○	○	○	○	良	小窪含む, 内外スス, 細り弱	
	249	F-F 31-32	II	-	所	口縁～底	-	(12.0)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:焼灰 外:灰	○	○	○	○	○	良	内面黒色	
	250	F31	II	38418 他	所	口縁～底	-	(9.0)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:洗灰 外:埋	○	○	○	○	○	良		
	251	J29-30	I, II	25478 他	所	口縁～底	-	(10.3)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:埋 外:洗灰	○	○	○	○	○	良	小窪含む, 細り弱	
	252	R30	II	24855 他	所	口縁～底	(10.6)	(7.8)	2.6	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:灰 外:埋	○	○	○	○	○	良	外周一部褐色, 緻密な土, 細り弱	
	253	G29	II	23283 他	所	口縁～底	(13.8)	(10.0)	3.2	ナデ	糸切	内:にぶい黄 外:洗灰→灰	○	○	○	○	○	良		
	254	R29	II	23377 他	所	口縁～底	(14.0)	11.0	3.1	ナデ	糸切	にぶい黄	○	○	○	○	○	良	緻密な土, 細り良	
	255	E31	II	-	所	口縁～底	(13.0)	(8.4)	3.2	ナデ	糸切	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	細り良	
	256	R29	II	23798 他	所	口縁～底	(13.0)	(8.0)	3.0	ナデ	糸切	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	細り弱, 細り良	
	257	R37	I	-	所	口縁～底	(11.4)	(8.3)	3.4	ナデ	糸切	にぶい黄	○	○	○	○	○	良	細り良	
	258	I23	II	22428 他	所	口縁～底	(11.3)	7.3	3.4	ナデ	内:ハコ ナデ 外:ナデ	糸切→ナデ	○	○	○	○	○	良		
	259	I-J30	II, III, IIIa, IIIb	24208 他	所	口縁～底	(10.8)	6.2	3.1	ナデ	糸切	内:にぶい埋 外:灰焼～黒焼	○	○	○	○	○	良	見込曲き状のナデ	
	85	260	R36	IIIa	20960 他	所	口縁～底	(12.0)	8.8	3.5	ナデ	糸切	焼	○	○	○	○	○	良	小窪含む, 細りやや弱
		261	R36	IIIa	20930 他	所	口縁～底	(11.7)	7.9	3.3	ナデ	糸切	埋	○	○	○	○	○	良	内外磨滅, 小窪含む
		262	I29-30	II, III	26625 他	所	口縁～底	(12.9)	8.8	3.7	ナデ	糸切	にぶい黄	○	○	○	○	○	良	見込ス
		263	I29-30	II, III	-	所	口縁～底	(12.4)	(9.6)	3.1	ナデ	糸切→ナデ	にぶい黄	○	○	○	○	○	良	一部凹溝, 小窪含む
		264	I28	II	-	所	口縁～底	(11.2)	(6.6)	3.2	ナデ	糸切	洗灰	○	○	○	○	○	良	内外磨滅
		265	F32	III	23134 他	所	口縁～底	(11.0)	(7.4)	3.0	ナデ	糸切	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	
		266	I28	I	-	所	口縁～底	(11.2)	(7.7)	3.2	ナデ	糸切	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	
		267	F38	IIIa	22979 他	所	口縁～底	(11.2)	(7.6)	3.3	ナデ	糸切	内:洗灰 外:にぶい黄	○	○	○	○	○	良	内外磨滅
		268	R28	I	-	所	口縁～底	(11.6)	(7.3)	3.2	ナデ	糸切	埋	○	○	○	○	○	良	
269		R35	IV	23928 他	所	口縁～底	(11.2)	(7.4)	3.1	ナデ	糸切→ナデ	洗灰埋→にぶい埋	○	○	○	○	○	良	内外磨滅, 小窪含む	
270		R37	I	-	所	口縁～底	(10.6)	(7.5)	3.2	ナデ	糸切→ナデ	埋	○	○	○	○	○	良	内外磨滅, 小窪含む	
271		I28	I	-	所	口縁～底	(11.4)	(8.8)	3.1	ナデ	糸切	にぶい黄	○	○	○	○	○	良		
272		I40-41	II	14383 他	所	口縁～底	(11.0)	(6.8)	3.9	ナデ	糸切→ナデ	洗灰	○	○	○	○	○	良	内外磨滅	
273		R25	II	-	所	口縁～底	(10.8)	(8.0)	2.1	ナデ	糸切	内:洗灰 外:灰	○	○	○	○	○	良		
274		E31	IIIa	16302 他	所	口縁～底	-	(9.6)	-	ナデ	糸切	埋	○	○	○	○	○	良		
275		R29	II	26398 他	所	口縁～底	-	(10.0)	-	ナデ	糸切→ナデ	洗灰	○	○	○	○	○	良	内面凹溝	
276		L37	III	28761 他	所	口縁～底	-	(9.6)	-	ナデ	糸切	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	磨滅ムラ	
277		G31-32	I, III	-	所	口縁～底	(16.5)	-	-	ナデ	-	にぶい埋	○	○	○	○	○	良		
278		F31	II	39633 他	所	口縁	(15.6)	-	-	ナデ	-	内:洗灰 外:埋	○	○	○	○	○	良		
279		F31	II	36887 他	所	口縁	(14.0)	-	-	ナデ	-	洗灰	○	○	○	○	○	良	細り不揃	
280		R31	II	28523 他	所	口縁～底	(14.0)	-	-	ナデ	-	灰白	○	○	○	○	○	良		
281		R31	II	28413 他	所	口縁	(15.0)	-	-	ナデ	-	にぶい黄	○	○	○	○	○	良		
282		F32	II	36611 他	所	口縁～底	(13.6)	-	-	ナデ	-	内:焼灰～にぶい黄 外:埋	○	○	○	○	○	良		
283		G31	II	27630 他	所	口縁	(13.6)	-	-	ナデ	-	洗灰	○	○	○	○	○	良		
284		F30	II	-	所	口縁	(15.2)	-	-	ナデ	-	にぶい埋	○	○	○	○	○	良		
285		G25	II	-	所	口縁～底	(12.4)	-	-	ナデ	-	にぶい埋	○	○	○	○	○	良		
286		G31	II	27378 他	所	口縁～底	(13.4)	-	-	ナデ	-	洗灰	○	○	○	○	○	良		
287		I29	II	-	所	口縁	(11.4)	-	-	ナデ	-	にぶい埋	○	○	○	○	○	良	細り不揃	
288		F41	II	11297 他	所	口縁～底	(13.5)	-	-	ナデ	-	埋	○	○	○	○	○	良	細り不揃	
289	G30-31	II	23933 他	所	口縁～底	-	(8.8)	-	ナデ	不明	にぶい埋	○	○	○	○	○	良			
290	G43	II	4024 他	所	口縁～底	-	(8.0)	1.7	ナデ	板状正底 →ナデ	洗灰	○	○	○	○	○	良	内面スス		
291	I29	II	33891 他	所	口縁～底	-	(8.0)	2.0	ナデ	不明	洗灰	○	○	○	○	○	良	内外磨滅・スス, 緻密な土		
292	F39-29-30	II	24305 他	所	口縁～底	-	5.8	-	ナデ	不明	にぶい黄	○	○	○	○	○	良			

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

所定 掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	類別	法集 (cm)	形状		色調		胎土						焼成	備考		
								外面	内面	外面	内面	白 石	灰 石	黒 石	赤 石	黒 石	黒 石			黒 石	黒 石
481	G25	Ⅲa	22120	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐色	赤灰	○	○						良好	煎茶, 1器	
482	F30	I	-	甕鉢	口縁	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	暗赤灰	暗赤灰	○	○						良好	器内底・埋赤 褐色, 煎茶, 1器	
483	F31	I	-	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰 口縁・底	焼灰	○	○	○	○				良好	2器	
484	E26	I	-	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○				良好	2器	
485	G41	Ⅱa	9136	甕鉢	口縁	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰赤	灰赤	○	○						良好	口縁に淡黄色結 晶, 小倉倉, 2器	
486	E37	I	-	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰	焼灰	○							良好	2器	
487	F28	I	-	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰	灰赤	○				○			良好	小倉倉, 3器	
488	D31	Ⅱa	15063	甕鉢	胴	備前	-	横ナデ	横ナデ	焼灰	焼灰	○			○				良好	白っぽい硝子, 小倉倉, 3器	
489	E26	I	18011	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	横ナデ	横ナデ	煙 口縁・灰赤	煙	○	○	○	○				良好	口縁外部, 3器	
490	J38	I	-	甕鉢	口縁～ 胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰赤 口縁・焼灰	灰赤	○	○						良好	口縁外部, 使 痕, 4器	
491	J28	I	-	甕鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤 口縁・灰赤	灰赤	○		○					良好	内底, 4器	
492	L35	I	-	甕鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐色	赤褐色	○				○			良好	黄変・灰赤, 5 器	
493	H34	I	-	甕鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○						良好	外底欠損, 在口 内底に結晶, 5器	
494	K27	Ⅱ	24128	蓋	口縁～ 肩	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○						良好	肩外部結晶	
495	I32	I	-	蓋	胴～底	備前	底径:(11.5)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい赤褐色	灰褐色	○			○	○			良好	蓋凹凸, 小倉倉	
496	G23	I	-	蓋	胴～底	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐色	焼灰	○	○	○	○				良好	外面と底に硝子	
497	G22, J28	I, Ⅱ	20900 他	蓋	肩～胴	備前	最大径:(18.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰, 灰褐色	焼灰	○	○	○	○				良好	肩部に淡黄色の 硝子	
498	J33	I	-	壺	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	暗赤褐 釉・オリブ 灰	にぶい 煙, 赤灰	○	○	○	○				良好	口縁自然釉で光 沢あり	
499	J38	Ⅲa	-	鉢	口縁～ 底	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○	○	○				良好	口唇釉で光沢あ り	
500	F21	I	-	蓋	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ→ 煎茶目直流	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	○				良好	煎茶, 501と同一 形状	
501	H26	I	18184	蓋	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ→ 煎茶目直流	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	○				良好	煎茶, 500と同一 形状	
502	E21	Ⅱ	19557	蓋	胴～底	常滑	底径:(7.6)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰 輪・煙	○	○	○	○				良好	内面自然灰釉	
503	J35	I	-	壺	口縁～ 胴	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい焼～埋 赤褐色 釉・灰オリ ブ	にぶい焼 ～埋赤褐色 釉・灰オリ ブ	○	○						良好	内外深い自然灰 釉, 焼きぶくれ	
504	E31	I	-	壺	口縁	常滑	-	横ナデ	横ナデ	灰 輪・灰オリ ブ	灰 輪・灰オリ ブ	○				○			良好	内外自然灰釉	
505	E22	Ⅱ	19619	壺	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰・赤 褐色, 輪・ オリブ 灰, 赤	焼灰・赤 褐色, 輪・ オリブ 灰, 赤	○	○		○				良好	外深い自然灰 釉, 焼きぶくれ	
506	H27	I	-	壺	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	埋赤 輪・煙	焼灰	○			○				良好	外面自然灰釉, 小倉倉む	
507	D29, F28	I, Ⅱ	17134 他	壺	胴～底	常滑	底径:(23.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	○				良好	内底灰白の硝子	
508	L29	Ⅱ	33902	壺	胴～底	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰質焼	煎茶オリ ブ灰	○		○	○	○			良好	内面自然灰釉, 小倉倉む	
509	D25, E25, F21	I, Ⅱ	17999 他	壺	胴～底	常滑	底径:(16.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい焼～明 黄褐色	にぶい黄 褐色	○	○	○	○	○				良好	
510	E31, G30 H27・29 J27・29 K30 瀬物集中 1号	I, Ⅱ	23378 他	壺	胴下～ 底	常滑	底径:16.0	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	焼灰・赤 褐色・ 煙	焼灰 焼灰～ 浅黄	○	○		○				良好		
511	D18	Ⅱ	18944	煎豆	口縁～ 胴	灰釉陶器	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白 輪・オリブ 灰	灰白 輪・オリブ 灰	○							良好	内外薄い釉	
512	L36	Ⅲa	-	煎豆	胴	灰釉陶器	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白	灰白 輪・オリ ブ灰	○							良好	外面破損, 内面 薄い釉	
513	G27	I	17899	煎豆	底	灰釉陶器	底径:10.6	ヘラ横ナデ→高 台内格子ヘラ 横ナ	ヘラ横ナデ	焼灰 輪・オリブ 灰	焼灰 輪・オリブ 灰	○							良好	高台内は磨 蝕, 4ヶ所に目 底, 小倉倉む	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

押印 番号	英数 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色澤		窯輪磁洞	焼成 温度	形状	分類	備考	
										胎土	釉面						
102	514	301-32 F30-31-32 F31-32 R30-34, J28	I, II, III Ⅱ	23852 他	口縁	青磁	口縁: (17, 0)	-	外・扉位線文 内・弧状線文, 押印 文	灰白	オリーブ黄	胴下平無輪	良好	同安 系	同編 2類	I-1b類	
	515	332	Ⅱb	16128	口縁	青磁	-	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 系	同編 1類	I類	
	516	G31	Ⅱ	27332	口縁	青磁	-	-	内・横位線文, 線磁 文	灰	オリーブ灰		良好	同安 系	同編 1類	I-1a類	
	517	E22-31 F31, K36	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ	19633 他	口縁	青磁	-	-	-	灰	灰オリーブ		良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	
	518	F30	Ⅱb	36333 他	口縁	青磁	-	-	-	灰白	オリーブ灰		良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	買入
	519	303, E31 F32, G30-31 K31	I, II, III Ⅱ	24914 他	口縁	青磁	口縁: (17, 0)	-	内・浅沈線2条	灰白	浅黄		良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	買入
	520	G31, L34	Ⅱ, Ⅲ	27492 他	口縁	青磁	口縁: (15, 6)	-	内・浅沈線1条	灰	暗オリーブ	胴下平無輪	良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	買入
	521	F29	Ⅱb	-	口縁	青磁	-	-	外・斜位線文	灰白	オリーブ灰		良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	外反, 内面買入
	522	R32-34 F31, K36	I, II	-	口縁 ~胴	青磁	口縁: (18, 2)	-	外・斜位浅沈線文	灰白	オリーブ黄		良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ類	6cm大の石英 質礫含む
	523	R29-31 J28-31 J28	I, II	24738 他	口縁 ~底	青磁	口縁: (18, 1)	-	外・粗い線文, 昇線 内・弧状線文	浅黄	にぶい黄	外面磨切	良好	同安 系	同編 2類	Ⅱ-1cカ 類	足込み焼有
	524	L33	I	-	口縁	青磁	-	-	外・扉位線文 内・点文	灰白	灰オリーブ		良好	同安 系	同編 2類	I-1cカ 類	525と同一
	525	G31, K30	I, II	24849 他	口縁	青磁	-	-	外・扉位線文 内・点文	灰白	灰オリーブ		良好	同安 系	同編 2類	I-1cカ 類	524と同一
	526	H-1 J31	I, II	26364 他	口縁	青磁	-	-	外・線文	灰	オリーブ黄		良好	同安 系	同編 2類	I-1cカ 類-1類	
	527	G43	Ⅱ	5047	口縁	青磁	-	-	外・横位平行線片彫	灰白	オリーブ黄	胴下平無輪	良好	同安 系	同編 2類	I-1cカ 類-1類	
	528	O42	I	-	底	青磁	底径: (5, 0)	-	-	灰	オリーブ灰	底部無輪	良好	同安 系	同編 1類	I-1a類	内買入
	529	R29-30, L30	Ⅱ	24793 他	口縁 ~底	青磁	口縁: (18, 2) 底径: (4, 8) 器高: 1, 9	-	内・線文, ヘラ片彫文	灰白	灰オリーブ	底部無輪	良好	同安 系	同編 2類	I-1a類	
	530	G31	Ⅱ	27660	口縁	青磁	-	-	内・片彫文	灰	オリーブ灰		良好	同安 系	同編 2類	I-1b類	
	531	F43	Ⅱ	5825	底	青磁	底径: (5, 4)	-	内・線文, ヘラ片彫文	灰白	明オリーブ灰	底部無輪	良好	同安 系	同編 2類	I-1b類	底に浅い穴
	532	F31	Ⅱb	36642	口縁	青磁	口縁: (10, 4)	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 系	同編 2類	I-1b類	
	533	L30	Ⅱ	34776	口縁	青磁	口縁: (18, 0)	-	-	灰	オリーブ黄		良好	同安 系	同編 2類	I類	
	534	K37	Ⅲ	24564	口縁	青磁	口縁: (13, 6)	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 系	同編 2類	I類	
	535	E41	I	-	大皿	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ黄		良好	同安 系	同編 2類	I類	買入
	536	F32	I	-	口縁	青磁	口縁: (16, 4)	-	-	灰白	明緑灰 口縁: 明るい明 緑灰		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	537	E30, F31	I, II, III	36633 他	口縁	青磁	口縁: (16, 4)	-	-	灰白	明緑灰		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	538	E24	捜査	-	口縁	青磁	口縁: 16cm?	-	-	灰白	明オリーブ灰		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	539	F31	Ⅱb	36779	口縁 ~胴	青磁	-	-	-	灰白	オリーブ黄 口縁: オリーブ 灰		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	540	J29	Ⅱ	23387	口縁	青磁	-	-	-	灰白	灰オリーブ		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	541	O31	Ⅲ	15983	口縁	青磁	-	-	-	にぶい赤 地	黄褐		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	542	O32	Ⅱ	-	口縁	青磁	-	-	-	灰	灰オリーブ 口縁: 明青灰		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	543	O33	Ⅱ	-	口縁	青磁	-	-	-	灰	灰オリーブ		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	544	E32	Ⅱb	16149	口縁	青磁	-	-	-	灰	緑灰 口縁: 明るい		良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	545	G31, L36	I, II	27318 他	口縁	青磁	底径: 6, 5	-	-	灰 底: 橙	灰オリーブ	髷付~高台内無 輪, 内外磨切多	良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
	546	K29	I	-	口縁	青磁	底径: (6, 5)	-	-	灰白	灰	髷付~高台内無 輪, 内外磨切多	良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	
547	O29	Ⅱ	17136	口縁	青磁	底径: (6, 4)	-	-	灰	暗オリーブ	高台~高台内無 輪	良好	同安 系	青編 1類	I-1a類	買入, 日痕	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探出 番号	英載 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色澤		窯輪破面	焼成	産地	本号 分類	備考
										胎土	釉色					
	548	D32	II	-	瓶	口縁	青磁	-	内:花文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	549	E31-32, B59 B.a	II	11472 他	瓶	口縁	青磁	-	内:片断蓮華文	灰白	オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	550	E31	II	-	瓶	口縁	青磁	-	内:片断蓮華文	灰	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	551	E29, J31	II	39429 他	瓶	口縁	青磁	-	内:片断蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	552	D52	II	-	瓶	口縁	青磁	-	内:片断蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	553	F32, G31	I	-	瓶	口縁	青磁	-	内:片断蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	554	G31, J29	II	24204 他	瓶	胴	青磁	-	内:片断と懸輪で蓮華 文文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	555	K30	I	-	瓶	胴下	青磁	-	内:片断キノコ状文	灰白	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	556	G32-43	I	-	瓶	胴	青磁	-	内:片断と懸輪で蓮華 文	灰	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	557	E24	IIa	20046 他	瓶	底	青磁	底径:(6.2)	内:片断と懸輪で蓮華 文	灰	灰オリーブ	高台内無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	558	F30, G31, J21	II	28924 他	瓶	胴へ 底	青磁	底径:5.8	内:浅い圓縁, 片断蓮華 文か片断キノコ状文	灰	灰オリーブ	高台内無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入 足込み砂目
	559	E32, G31 I, B.a	I, B.a	11417 他	瓶	口縁	青磁	口径:(17.2)	内:2本分列した, 片断 蓮華文	灰白	灰白		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	560	G31	II	27879 他	瓶	口縁	青磁	-	内:不明文	灰白	オリーブ灰, 口 縁:内外明青灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-4類	
	561	J37	IIIa	24345 他	瓶	底	青磁	底径:(5.6)	見込み・圓縁, 片断蓮華 文か片断キノコ状文	灰白	灰オリーブ	高台内無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2-4類	
	562	F27	I	17907 他	瓶	底	青磁	底径:(6.2)	見込み・圓縁, 片断蓮華 文か片断キノコ状文	灰	灰オリーブ	高台内無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2-4類	
	563	J26	I	18197 他	瓶	底	青磁	-	見込み・圓縁, 片断蓮華 文か片断キノコ状文	灰	灰オリーブ	高台内無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2-4類	
	564	E30	III	16019 他	瓶	口縁	青磁	口径:(16.2)	-	灰赤	オリーブ黄		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	565	F31	I, B.a	36653 他	瓶	底へ 高台	青磁	底径:(5.4)	-	灰白	灰オリーブ	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	買入
	566	E21	I	-	瓶	底へ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰白	灰オリーブ	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	髷付に砂
	567	J29	II	23614 他	瓶	底へ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰白	オリーブ灰	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	髷付
	568	F32, H30 II, B.b	II, B.b	24050 他	瓶	底へ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰	オリーブ灰	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	小瓶?
	569	G27-28	I	-	瓶	底	青磁	底径:(4.8)	見込み・幾何学文	灰白	オリーブ灰	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	570	D33	II	-	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(17.2)	外:片断蓮華文	赤褐	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	571	H30	II	24842 他	瓶	口縁	青磁	口径:(16.1)	外:片断蓮華文	灰	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	572	F32	II	-	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	573	H30	II	24819 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	オリーブ黄		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	574	H30	II	24838 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	暗オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	575	H41	捜査	-	瓶	胴	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	灰白		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	576	G30	II	23651 他	瓶	口縁	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	577	G32	I	-	瓶	胴	青磁	-	外:片断蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	578	E28-30 IIa-b	IIa-b	17918 他	瓶	胴へ 底	青磁	底径:(5.8)	外:片断蓮華文	灰	暗オリーブ	高台内分的に無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	高台内砂目
	579	F32, J26 II, B.a	II, B.a	22252 他	瓶	胴へ 底	青磁	底径:5.4	外:片断蓮華文	灰	灰オリーブ	高台内分的に無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	高台内砂目
	580	F30	I	-	瓶	底	青磁	底径:(5.1)	外:片断蓮華文	赤褐	灰オリーブ	高台無輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	581	E-J28 II, B.a	II, B.a	17919 他	瓶	完形	青磁	口径:16.0 底径:5.0 器高:7.3	外:編蓮華文 内:花型模様の文様 見込み・圓縁, ヘタ縁模 様の学文	灰	オリーブ灰	髷付～高台内無 輪	良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	582	J30	II	23685 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(16.4)	外:編蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	583	H29	II	26434 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(15.4)	外:編蓮華文	にじみ・褐	灰オリーブ		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	584	J29	II	24639 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(16.2)	外:編蓮華文	灰白	オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	585	G30	II	23629 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(16.2)	外:編蓮華文	灰白	明オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	586	E-J30 II, B.a	II, B.a	23655 他	瓶	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(16.0)	外:編蓮華文	灰白	明オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	
	587	J29	II	26372 他	瓶	口縁	青磁	口径:(17.2)	外:編蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	鹿児島 青磁 Ⅱ-2類	Ⅱ-2類	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	英数 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色澤		窯輪破面	焼成	産地	本号 分類	備考
										胎土	釉色					
104	588	109	II	24611	瓶	口縁	青磁	口径:(16.5)	外・編蓮弁文	灰	暗オリーブ		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	589	136, 228	II	23447 他	瓶	口縁 ~胎	青磁	口径:(16.0)	外・編蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	590	425	II	23312	瓶	口縁 ~胎	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	オリーブ黄		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	591	F30	IIb	36042	瓶	口縁 ~胎	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	592	F41	IIb	-	瓶	口縁	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	593	G30	II	23959	瓶	口縁 ~胎	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	594	H21	II	21019	瓶	口縁	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	595	126	I	18758	瓶	口縁 ~胎	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	596	302	II	-	瓶	口縁 ~胎	青磁	-	外・編蓮弁文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯3型	II-9型	買入
	597	F32, H29	II	23341 他	瓶	胴 ~胎	青磁	底径:6.0	外・編蓮弁文 見込み・草花文	灰	オリーブ灰	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	買入 高台内砂目
105	598	G24	II	-	瓶	底	青磁	底径:5.4	見込み・圓縁, 蓮華文	灰白	オリーブ灰	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	買入 高台内砂目
	599	H30	II	24870	瓶	胴 ~底	青磁	底径:5.8	外・編蓮弁文	灰	明緑灰	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	600	L38	II	-	瓶	底	青磁	底径:5.7	-	灰白	灰オリーブ	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	601	F28	I	18770	瓶	胴 ~底	青磁	底径:(5.6)	外・編蓮弁文 見込み・草花文	灰	緑灰		良好	龍泉 窯3型	II-9型	
	602	F21	II	18007	瓶	青磁	底径:(5.0)	見込み・草花文	灰	オリーブ		良好	龍泉 窯3型	II-9型	買入 高台砂目	
	603	F27	II	-	瓶	底 ~高台	青磁	底径:5.7	外・編蓮弁文 見込み・蓮華文	灰	オリーブ灰	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	高台砂目
	604	J31	I	-	瓶	胴 ~底	青磁	底径:5.8	外・蓮華文 見込み・草花文	灰	灰オリーブ	髷付~高台内無 輪	良好	龍泉 窯3型	II-9型	買入
	605	K30	II	-	瓶	胴 ~底	青磁	底径:4.8	外・蓮華文 見込み・魚と雲?	灰白	明オリーブ灰	高台内輪削	良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	高台内砂目
	606	J28	I	-	瓶	胴 ~底	青磁	底径:(5.4)	外・蓮華文 見込み・圓縁	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	
	106	607	G22	IIa	19613	瓶	口縁	青磁	-	外・蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- III型
608		F42	IIa	-	瓶	口縁	青磁	-	外・蓮華文	灰黄	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- III型	
609		F-830	II	22442	瓶	口縁	青磁	-	外・蓮華文	灰黄	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- III型	
610		H22	IIa	-	瓶	口縁	青磁	-	外・蓮華文	灰白	黄緑 に深い黄緑		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	
611		L29	I	-	瓶	口縁	青磁	-	外・蓮華文 内・圓縁	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	
612		K29	I	-	瓶	口縁	青磁	口径:(14.0)	外・蓮華文	黄	に深い黄緑		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	
613		J28	I	-	瓶	口縁	青磁	口径:(12.0)	外・蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	
614		G32+1	I, IIa	-	瓶	口縁	青磁	口径:(14.0)	外・蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	
615		E41	IIa	-	瓶	口縁	青磁	口径:(15.0)	外・蓮華文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- IV型	買入
107		616	F30	I	-	瓶	口縁	青磁	口径:(15.0)	外・雲文帯 内・雲文+	灰白	緑灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型
	617	F41	Ia	-	瓶	口縁	青磁	口径:(15.0)	外・雲文帯 内・雲文+	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	
	618	F30	I	-	瓶	口縁 ~胎	青磁	口径:(15.4)	外・雲文帯, フォニイ 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	
	619	J30	I	-	瓶	口縁	青磁	-	外・雲文帯	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	
	620	G32	I	-	瓶	口縁	青磁	-	外・雲文帯小	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型?	
	621	J31	I	-	瓶	口縁	青磁	-	内・沈黙文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型?	買入
	622	D32	IIa	19952	瓶	胴	青磁	-	外・雲文帯, フォニイ 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型	
	623	F21	I	-	瓶	胴	青磁	-	外・雲文帯, フォニイ 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型?	外買入
	624	K29	I	-	瓶	胴 ~底	青磁	底径:(6.1)	外・草花文 見込み・圓縁, 草花文	灰白	オリーブ灰	高台内輪削	良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型?	
	625	L38	II	-	瓶	胴 ~底	青磁	底径:(5.8)	外・草花文 内・圓縁, スタンツ文	灰白 高台内: に深い	オリーブ灰	高台内輪削	良好	龍泉 窯3型	上IIIc- II型?	高台内砂目
107	626	I-J26-27	I	-	瓶	口縁	青磁	口径:(13.0)	見込み・圓縁	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- I型	
	627	L28	I	-	瓶	口縁	青磁	口径:(13.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- I型	外買入
	628	F30	I	-	瓶	口縁	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯3型	上IIIc- I型	内外買入

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	英 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色調		窯輪破面	焼成 産地	本号 分類	備考		
										胎土	釉色						
107	629	I22	II	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 類	内外貫入		
	630	E32	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(18.4)	外面:洗肉刷1条	灰白	明オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 5中-2類	1.6所貫入・段		
	631	I43	IIb	15610	碗	口縁	青磁	口径:(18.4)	-	灰白	明オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 類			
	632	J38	IIb	23031	碗	口縁	青磁	口径:(13.4)	-	灰白	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類			
	633	J38	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.0)	-	灰白	明オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	内外貫入		
	634	J28	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.6)	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	内外貫入		
	635	I20	II	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.6)	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	内外貫入		
	636	J38	IIIa	23120	碗	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	内外貫入		
	637	G25	I	18738	碗	口縁	青磁	-	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	内外貫入		
	638	K37	IIb	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類			
	639	C27-28	I	-	碗	胴	青磁	-	内:印花文?	灰白	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類?			
	640	J28	I	-	碗	口縁 ~胴	青磁	口径:(16.0)	-	灰白	明緑灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-2 類	貫入		
	641	J38	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.4)	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 5中-3類			
	642	I09	II	J7137	碗	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白 高台・基	オリーブ灰	高台内無釉	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 5中-3類		
	643	J38	I	-	碗	底	青磁	-	見込み:草花スタンプ 文	靑灰	オリーブ灰	高台内無釉	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 5中-3類	内面貫入 高台欠損	
	644	J32	I	-	碗	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:草花スタンプ 文	灰白	オリーブ灰	高台内無釉	良好	焼染 青磁 1類	土印D-1 5中-3類		
	645	I25, J28	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.5)	見込み:園縁, 草花ス タンプ文	灰白	明緑灰	髹付~高台内 一部無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV-I類		
	646	J28	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.6)	-	灰白	明オリーブ灰	高台外~高台内 無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV-I類		
	647	J38	IIIa	23109	碗	底	青磁	底径:6.2	内外2本組の履洗 見込み:草花スタンプ 文	灰	オリーブ灰	高台内純の目状 無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV類?		
	648	F29	IIb	36398	碗	底	青磁	底径:(6.0)	見込み:草花スタンプ 文	灰白	明オリーブ灰	髹付~高台内 無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV-I類		
	649	I21, K29 I, II	23809	碗	底	青磁	底径:5.2	見込み:草花スタンプ 文	灰白	オリーブ灰	髹付~高台内 無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV-I類			
	650	J38	IIb	23030	皿?	底	青磁	底径:(6.6)	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	土印?~4 群			
	651	I23	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.0)	-	灰白 高台・基	オリーブ灰	髹付輪割	良好	焼染 青磁 1類	IV類	貫入	
	108	652	K28	I	-	碗	底	青磁	底径:(9.4)	見込み:髹付蓮花文	に青い黄 緑	オリーブ灰	髹付~高台内 無釉	良好	焼染 青磁 1類	IV類	
		653	J29	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(13.0)	-	灰	オリーブ黄 口縁:浅黄	良好	焼染 青磁 1類	青磁?		
		654	G21	IIa	18085	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	-	灰~黄緑	黄灰	良好	焼染 青磁 1類			
		655	F21	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	-	灰	オリーブ灰 口縁:灰色	良好	焼染 青磁 1類		貫入	
		656	K38	II	23921	皿	口縁 ~胴	青磁	口径:(13.1)	-	灰	灰オリーブ	良好	焼染 青磁 1類			
		657	I21	II	19050	皿	口縁	青磁	口径:(13.0)	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類		貫入	
		658	I21	IIa	19050	皿	口縁	青磁	口径:(11.6)	-	灰	オリーブ	良好	焼染 青磁 1類		光沢なし	
		659	I26	I	18290	皿	口縁 ~胴	青磁	口径:(13.2)	-	灰	灰オリーブ	良好	焼染 青磁 1類		貫入	
		660	I21	II	19058	皿	口縁 ~底	青磁	-	-	灰	オリーブ灰	高台内無釉	良好	焼染 青磁 1類		貫入
661		F21	II	18000	皿	口縁	青磁	-	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類		貫入		
109	662	I26	I	-	皿	口縁 ~底	青磁	口径:12.3 底径:5.7 高さ:3.1	内:園縁, 蓮花文 見込み:園縁, 桜花文と 「寿」字	灰	オリーブ灰	高台内無釉	良好	焼染 青磁 1類		桜花蓋	
	663	I09	II	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.9)	内口縁:沈澱2条	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類		貫入, 桜花蓋		
	664	G40	IIa	9178	皿	口縁 ~胴	青磁	-	外:點列字文 内:園縁2条, 草花文	灰白	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類	IV類	内面貫入, 桜 花蓋		
	665	G43	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.8)	内口縁:沈澱2条	灰	灰オリーブ	良好	焼染 青磁 1類		貫入, 内面砂 目, 桜花蓋		
	666	G24	II	22143	皿	口縁	青磁	-	内口縁:沈澱2条	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類		貫入, 桜花蓋		
	667	D41	IIa	-	皿	口縁	青磁	-	内口縁:沈澱2条	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類		貫入, 口縁砂 粒, 桜花蓋		
	668	G41	I	-	皿	口縁	青磁	-	-	灰	オリーブ灰	良好	焼染 青磁 1類				

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	英数 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	色塗 (cm)	文様	色調		窯輪磁質	焼成	産地	水占 分率	分類	備考
										胎土	釉色						
109	669	000	I	-	皿	口縁	青磁	-	内: 沈澱が1条	灰	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		桜花蓋	
	670	542	Ⅱa	-	皿	口縁	青磁	-	内: 沈澱が2条	灰	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		桜花蓋	
	671	K37	Ⅱb	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.0)	外: 漆非文 内: 片彫文	灰白	明オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		幕笛蓋?	
	672	K21	Ⅱ	17977	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	外: 漆非文 内: 片彫文	灰白	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		幕笛蓋?	
	673	F43	Ⅱa	-	皿	口縁	青磁	口径:(9.4)	-	灰	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		青白磁	
	674	K00	Ⅱ	24051	皿	口縁	青磁	口径:(10.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		青白磁	
	675	C12	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.5)	見込み: 蘭輪, 草花文	灰白	オリーブ灰	高台内一部無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	676	K24	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.2)	見込み: 花スタンプ文	灰	暗オリーブ	養付~高台内無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	677	J29	I	-	皿	底	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰	見込み: 輪状無釉, 外側下~高台内 無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	678	K37	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	見込み: 輪状無釉, 養付~高台内無 釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	679	L28	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.6)	-	灰白	オリーブ灰	見込み: 輪状無釉, 高台内無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	680	J28	I	-	皿	底	青磁	底径:4.6	-	灰白	黄黒	見込み: 輪状無釉, 養付無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	681	140	I	-	皿	底	青磁	底径:4.8	外: 緑沈澱 見込み: 菊並文	灰白	明緑灰色 外: オリーブ灰	養付~高台内一 部無釉	良好	徳島 窯系 白磁			
	682	K21	Ⅱ	18676	杯	口縁 ~底	青磁	口径:(13.0)	外: 片彫漆非文	灰	明オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		IV類	口縁外反
	683	L29	Ⅱ	23491	小瓶	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		I-3類	
	684	F32	I	-	小瓶	口縁	青磁	-	口縁: 縁位のみ1条	灰白	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁			幕笛蓋? 外貫入
	685	F23	Ⅱ	21987	小瓶	底	青磁	底径:3.0	-	灰白	明オリーブ灰	外面胴上~底無 釉	良好	徳島 窯系 白磁			幕笛蓋 外貫入 内面貫入
	686	K27	I	18108	瓶	口縁	青磁	-	-	灰色	オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁		IV類以高貫入	
	687	J26-27	I	-	瓶	胴下 ~平~ 高台	青磁	底径:5.6	見込み: 浅い雲雀スタ ンプ文	灰色	オリーブ灰	胴下平~高台内 無釉	良好	徳島 窯系 白磁			見込み: 砂目 高台: 砂付着 外: 破損部?
688	F30	I	-	瓶	胴~ 底	青磁	底径:(4.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	徳島 窯系 白磁			外: に近い貫 入, 高台: 砂目 破損部?	
689	J28	I	-	瓶	胴~ 底	青磁	底径:4.4	-	黄灰	オリーブ灰	外面無釉	良好	徳島 窯系 白磁				
110	690	F31, K30	I, Ⅱ	27566 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(16.0) 底径:(6.0) 器高:6.5	-	灰白	灰白	胴下平~高台内 無釉	良好	白磁 1類	IV-1		
	691	C27-28, G25	I	20376 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(16.0) 底径:(7.2) 器高:6.5	-	灰白	灰白	胴下平~高台内 無釉	良好	白磁 1類	IV類		
	692	306, 101 J29-30 L29, S206	①②	23721 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(17.0) 底径:7.0 器高:6.6	-	灰白	灰白	胴下平~高台内 無釉	良好	白磁 1類	IV類		
	693	L29	Ⅱ	24681	瓶	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	694	L29	Ⅱ	26370 Ⅱa	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	695	K29	Ⅱ	25380 他	瓶	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	696	L35	Ⅱa	-	瓶	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	697	G22	Ⅱa	18189	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	698	F30	I, Ⅱ	27462 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1類	IV類		
	699	G31, K30	Ⅱ	24902 他	瓶	口縁	白磁	口径:(16.8)	-	灰白	灰白	胴下平無釉	良好	白磁 1類	IV類		
	700	J30, K29	I, Ⅱ	25242 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(18.4)	-	灰白	灰白	胴下平無釉	良好	白磁 1類	IV類		
	701	K31	Ⅱ	19025	瓶	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ	胴下平無釉, 口縁 部平に無釉	良好	白磁 1類	IV類		
	702	J29	Ⅱ	25525	瓶	底	白磁	底径:5.3	-	灰白	オリーブ	外面無釉	良好	広東	Ⅱ-4類c	内面: 黄黒斑 目貫入	
703	K30	Ⅱ	30043	瓶	底	白磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰オリーブ	外面無釉	良好	広東	Ⅱ-4類c			
704	G30, J29	Ⅱ	23925 他	瓶	口縁 ~底	白磁	口径:(18.0)	-	灰白	灰白	胴下平無釉	良好	白磁 1類	IV類			

第 15 表 青磁・白磁・青白磁観察表

碑号 番号	英数字 番号	出土区	期	取上 部位	器種 部位	種類	口径 (cm)	文様	色澤		裏輪破損	焼成 程度	表面 状態	分類	備考		
									胎土	釉色							
112	705	G32, I29-30 B, Bb	22909 世	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期			
	706	G20-31	22961 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期			
	707	E21-22	19953 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.7)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1期	IV期			
	708	F31, G32	36729 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期			
	709	J26	I	-	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1期	IV期		
	710	K35	Ba	34023 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1期	IV期		
	711	I30, J29	B	22625 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	712	F32, G31	I, II	27524 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	713	H31, J28 K29	B	22605 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1期	IV期		
	714	F32, G30-31	B, Bb	22922 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	715	I30, I30 J29	I, II	21596 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.4)	-	浅黄	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	716	I31	B	28273 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白		良好	白磁 1期	IV期		
	717	F31-32	Bb	36708 世	瓶	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	浅黄	灰白		良好	白磁 1期	IV期		
	718	G43	Bb	19099 世	瓶	口縁	白磁	口径:(18.1)	-	灰白	浅黄		良好	白磁 1期	IV期		
	719	F32	Ba	11392 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(15.4)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	720	E32	Ba	16255 世	瓶	口縁	白磁	口径:(14.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	721	D32	B	-	瓶	底	白磁	底径:7.2	-	灰白	灰白	外面無釉	良好	白磁 1期	IV期		
	113	722	G31, J30	B	25122 世	瓶	底	白磁	底径:6.7	見込身・沈線	灰白	灰白	内面無釉, 外面無 釉	良好	白磁 1期	IV期	
		723	H33, G41	B, Bb	19923 世	瓶	底	白磁	底径:6.8	見込身・沈線	灰白	灰黄	外面無釉	普通	白磁 1期	IV期	
		724	K28	B	22926 世	瓶	底	白磁	底径:6.4	-	灰白	浅黄	外面無釉	普通	白磁 1期	IV期	
		725	E27, G31-32 H, Bb, 胎	I, II, III, 胎	18336 世	瓶	底	白磁	底径:7.6	見込身・沈線	黄黄	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期	
726		F32, G31	Bb	39208 世	瓶	底	白磁	底径:7.0	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期		
727		F27	B	18961 世	瓶	底	白磁	底径:6.5	見込身・沈線	灰白	灰白	外面無釉	良好	白磁 1期	IV期		
728		F31, G40	Bb	14571 世	瓶	底	白磁	底径:6.9	見込身・沈線	灰白	灰白	高台無釉	良好	白磁 1期	IV期		
729		H43	Ba+B	11924 世	瓶	底	白磁	底径:6.8	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期		
730		F30-31	I, II, B	37388 世	瓶	底	白磁	底径:5.6	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉, 内面一部無 釉	良好	白磁 1期	IV期		
731		J30	B	25129 世	瓶	底	白磁	底径:7.0	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期		
732		G32	I	-	瓶	底	白磁	底径:6.4	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期		
733		D32	B	-	瓶	底	白磁	底径:(7.5)	見込身・沈線	灰白	灰白	外面無釉	良好	白磁 1期	IV期		
734		G31, J28	B	20224 世	瓶	底	白磁	底径:(6.7)	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期		
735		D38, E30-31	Ba+B	14633 世	瓶	底	白磁	底径:(6.8)	-	灰白	灰白	外面無釉	良好	白磁 1期	IV期		
736	F32, H30-31	B, Bb	24052 世	瓶	底	白磁	底径:6.5	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 1期	IV期			
114	737	F31 G31-32 I30	I, II, III, Bb	24116 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.4) 底径:(6.0) 器高:6.5	内口縁・見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 2期	V-4期		
	738	J35	B	36262 世	瓶	外形	白磁	口径:17.6 底径:6.0 器高:7.4	見込身・沈線	黄黄	浅黄	胴下半~高台内 無釉, 見込一部無 釉	良好	白磁 2期	V-6期	貫入	
	739	F31 G30-31 H29-30-31	I, II, Bb	24832 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:17.2 底径:5.0 器高:6.5	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好	白磁 2期	V-4期		
	740	J29	B	26350 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.4)	見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 2期	V-4期	内外面灰点	
	741	H31, I30	B	26670 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.4)	内口縁・沈線	灰白	灰白		良好	白磁 2期	V-4期	外面灰点	
	742	G-400	B	24800 世	瓶	口縁	白磁	口径:(16.5)	見込身・沈線	灰白	灰白		良好	白磁 2期	V-4期		
	743	G-J30	B	22609 世	瓶	口縁 ~ 胎	白磁	口径:(16.0)	内口縁・見込身・沈線	灰白	灰白	胴下半無釉	良好	白磁 2期	V-4期a		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探頭 番号	英数 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色澤		窯輪磁洲	焼成	産地	本古 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
114	714	G31-32	I, II	28609 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.4)	-	灰	オリーブ灰	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類	775と同一	
	745	E32, F31	II, IIb	10900 他	瓶	口縁	白磁	底径: (6.0)	見込み・沈澱	灰	オリーブ灰	胴下~高台無輪 見込み 部無輪	良好	白磁 2類	V-4類	774と同一	
	746	K29-30-32	II	23769 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.4)	見込み・沈澱	灰白	明オリーブ灰	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類		
	747	G31, J30	II	27490 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (18.6)	見込み・沈澱	灰白	灰	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類		
	748	J29-30	II	23306 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.1)	内・懸紋文	灰黄	灰オリーブ		普通	白磁 2類	V-4類か 3類		
	749	F31-32, K29	II, IIb a-b	23797 他	瓶	口縁	白磁	-	内・懸紋文	灰白	浅黄		普通	白磁 2類	V-4類	貫入	
	750	ID0	II	24797 他	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類		
	751	F31, G30	II, IIb	-	瓶	口縁	白磁	-	内・懸日文 見込み・沈澱	灰白	灰白	胴下平~高台内 無輪	良好	白磁 2類	V類		
	752	K30	II	25249 他	瓶	口縁	白磁	-	内・懸日文 見込み・沈澱	灰白	灰白	高台無輪	良好	白磁 2類	V類	外面気泡	
	753	L35	I	-	瓶	底	白磁	底径: (6.2)	-	灰白	明オリーブ灰	胴下平~高台内 無輪	良好	白磁 2類	V類		
	754	J26	II	-	瓶	底	白磁	-	-	灰黄	灰黄	高台無輪	普通	白磁 2類	V類	貫入, 能熱で 一部黒色化	
	755	F31, J29	II, IIb	24306 他	瓶	底	白磁	底径: (6.0)	-	灰白	灰白	胴下平~高台内 無輪	良好	白磁 2類	V類		
	756	L30-31, J30	I, II	29243 他	瓶	口縁	白磁	底径: (6.3)	見込み・沈澱	灰白	灰白	胴下平~高台内 無輪	良好	白磁 2類	V類		
	757	G41, J34	I, II, IIa	9170 他	瓶	底	白磁	底径: (5.5)	見込み・沈澱	灰白	灰白	胴下平~高台内 無輪	良好	白磁 2類	V類	外面気泡	
	758	G31 ID0-31 J29	II, IIb	24851 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.0)	-	にぶい黄	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	貫入	
	759	F30, G31-32 J30	I, II, IIb	36473 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
	760	F31-32	I	-	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.0)	見込み・沈澱	灰白	灰白	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
	761	F-G32, L30	II, IIb	24986 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.8)	-	灰黄	灰黄	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類か 3類	貫入 外面気泡	
	762	J29 J-K29-30	II, IIb	23762 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.0)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	貫入 外面気泡	
	763	E31	IIIa	16300 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.2)	-	灰白	上層: 灰白 下層: 灰 口縁: 灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
	764	F31	IIIb	37223 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (18.8)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
	765	L31	II	29281 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (18.2)	内・沈澱	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
	766	E30	IIIb	36439 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
	767	K37	I, IIIa	24563 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.2)	-	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
	768	F31	III	-	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	-	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	貫入 外面気泡	
	769	F-G30	II	27466 他	瓶	口縁	白磁	-	見込み・沈澱	灰白	灰白	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
	115	770	F31, L30	II, IIb	24119 他	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下平無輪	良好	白磁 2類	V-4類か 3類	
771		G30	II	23943 他	瓶	口縁	白磁	-	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類 3類		
772		J30, L35	III, IIIa	-	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
773		H31	III	-	瓶	口縁	白磁	-	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
774		E-F31	I, IIIa	-	瓶	口縁	白磁	口縁: (17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
775		F31	IIIb	36794 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (18.5)	-	灰オリーブ	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
776		ID0, J29	II, IIb	24906 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	見込み・内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	気泡・貫入	
777		F32	IIIb	36673 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	内・沈澱	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
778		F31	IIIb	36793 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	-	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
779		E32	IIIb	16499 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.8)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類	外面気泡	
780		L30	III	29619 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	内・沈澱	灰	灰		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
781		F30, J29-30	II, IIb, III	24190 他	瓶	口縁	白磁	口縁: (16.0)	内・沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 2類	V-4類か 3類		
782		E30	IIIb	36453 他	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 2類	V-4類 3類		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	英数 番号	出土区	期	器種	部位	種類	口径 (cm)	文様	色澤		裏輪絶縁	構成	産地	分類	備考	
									胎土	釉色						
110	783	F30, J29	Ⅱ B, Bb	23569 他	瓶	口縁 白磁	口径: (14.4)	内: 沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	貫入	
	784	J29, K30	Ⅱ	23730 他	瓶	口縁 白磁	口径: (16.0)	内: 沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	786と同一?	
	785	G43	Ⅱa	9065 他	瓶	口縁 白磁	-	-	灰白	灰白~オリーブ 黄		良好	白磁 3類	Ⅱa-類		
	786	J30	I	-	瓶	口縁 白磁	口径: (16.0)	内: 沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	784と同一?	
	787	C27-28	Ⅱ	-	瓶	口縁 白磁	口径: (17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	外面気泡	
	788	H30, I31	Ⅱ	24058 他	瓶	口縁 白磁	口径: (17.4)	外: 二重罫線 内: 草文文	灰白	オリーブ黄		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	桜花画? 内面白磁	
	789	H29	Ⅱ	23354 他	瓶	口縁 白磁	-	内: 草文文	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	790と同一	
	790	1-J31	I, Ⅱ	26303 他	瓶	口縁 白磁	-	内: 草文文	灰白	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類	789と同一	
	791	E-F31	Ⅱ, B, Bb	27684 他	瓶	底	白磁	底径: (4.8)	-	浅黄	浅黄	胴下半~高台内 無胎	普通	白磁 3類	Ⅱa-類	外面鉄分付着
	792	I30	Ⅱ	24888 他	瓶	口縁 白磁	-	-	灰黄	灰白~灰オ リーブ		胴下部無胎	普通	白磁 3類	Ⅱa-類?	貫入, 気泡
	793	G30-31	Ⅱ	26524 他	瓶	口縁 白磁	口径: (15.0)	-	灰黄	灰		胴下部無胎, 見込 み縁取	良好	白磁 3類	Ⅱa-類?	貫入, 高台割 産
	794	D32	Ⅱb	19949 他	瓶	口縁 白磁	口径: (15.5)	-	灰	灰オリーブ~ 灰白		胴下部無胎, 見込 み縁取	良好	白磁 3類	Ⅱa-類?	
	795	F-G31	Ⅱ, B, Bb	28602 他	瓶	口縁 白磁	口径: (13.0)	-	灰	灰白		良好	白磁 3類	Ⅱa-類?		
	796	E30, F31	Ⅱb	37493 他	瓶	口縁 白磁	口径: (16.0)	内: 沈澱	灰白	灰白		胴下部は無胎	良好	白磁 3類	Ⅱa-類?	
	797	J38	Ⅱa	26889 他	瓶~ 高台	白磁	底径: 5.9	-	灰白	-		胴付~高台内無 胎	良好	白磁 3類	Ⅱa-類	貫入, 胎面に 砂(被熱?)
	798	J30, K29	Ⅱ	25337 他	瓶	底	白磁	底径: (6.5)	見込み: 沈澱	灰黄	明緑灰	見込み輪状無胎, 胴 下半~高台内無胎	良好	白磁 3類	Ⅱa-類	見込み重焼痕
	799	J30	Ⅱ	24099 他	瓶~ 底	白磁	底径: (6.7)	-	灰白	灰白		見込み輪状無胎, 外 面無胎	良好	白磁 3類	Ⅱa-類	見込み重焼痕
	800	I21	Ⅱ	19566 他	瓶	口縁 白磁	口径: (14.0)	外: 二重罫線	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	底面	口先: 浅黄
	801	J30	Ⅱ	23712 他	瓶	口縁 白磁	-	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	底面	口先: 浅黄
	802	K29	Ⅱ	23788 他	瓶	口縁 白磁	口径: (14.0)	内: 沈澱	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	底面	口先: 浅黄
	803	D21	Ⅱ	19753 他	瓶	口縁 白磁	口径: (11.8)	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	底面	口先: 灰黄, スス
	804	D32	Ⅱa	-	瓶	口縁 白磁	口径: (11.2)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	底面	口先: 灰白, スス
	805	I30, J31	Ⅱ	24742 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.4)	-	灰白	オリーブ黄		胴下半無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-1類	
	806	K29	Ⅱ	25937 他	瓶	口縁 白磁	口径: (11.0)	-	灰白	灰白		胴下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入
	807	J28	I	-	瓶	口縁 白磁	口径: (11.0)	-	灰白	灰白		胴下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入
	808	I40	Ia	-	瓶	口縁 白磁	-	-	灰白	灰白		胴下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	
	809	F30	I	-	瓶	口縁 白磁	-	-	灰白	明緑灰		内外口縁付近縁 無胎	やや 良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入, スス
	810	F31	I	-	瓶	口縁 白磁	-	-	灰白	明緑灰		内外口縁~外面無 胎	やや 良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入, スス
	811	H30-33	I, Ⅱ	24943 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.8)	-	灰白	灰白		胴下半無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入?
	812	F41	Ⅱb	-	瓶	口縁 白磁	口径: (11.4)	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入	
	813	G22	Ⅱa	18192 他	瓶	口縁 白磁	口径: (9.6)	-	灰白	灰白		胴下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入
	814	G31	Ⅱ	27610 他	瓶	口縁 白磁	口径: (9.4)	-	灰白	灰オリーブ		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入	
815	I30	Ⅱ	26946 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.8)	内面: 沈澱	にぶい黄 緑~灰黄	灰白		普通	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入		
816	I30	Ⅱ	24094 他	瓶	底	白磁	底径: (4.6)	-	灰白	灰白	見込み輪状無胎, 胴 下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	見込み目跡	
817	E-F-G31, I30	I, Ⅱ, Ⅱa	16644 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.4) 底径: 5.4 器高: 2.2	-	灰白	灰白		胴下半~高台内 無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	内面筋線	
818	F31	Ⅱb	-	瓶	口縁 白磁	口径: (10.0)	内面: 罫線	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	内面筋線		
819	I29, K30	Ⅱ, B, Bb	25256 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入		
820	I30, J29	I, Ⅱ	26650 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.0)	内面: 罫線	灰白	明オリーブ灰		見込み輪状無胎, 胴 下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入	
821	I30	Ⅱ	24090 他	瓶	口縁 白磁	口径: (10.0)	-	灰白	灰白		見込み輪状無胎, 胴 下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入	
822	I27	I	-	瓶	口縁 白磁	口径: (12.0)	-	灰白	灰白		見込み輪状無胎, 胴 下部無胎	良好	白磁 4類	Ⅱa-類	貫入	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	発掘 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色澤		窯輪痕跡	焼成	産地	水石 目録	分類	備考
										胎土	釉色						
823	G41	Ba	9171	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.6)	-	灰黄	灰白	見込み輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 4類	Ⅲ類	
824	J29	B	24396	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	見込み・沈線	オリーブ 黒	灰白	見込み輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 4類	Ⅲ類	貫入
825	032	B	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(5.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉, 外面無釉	良好		白磁 4類	Ⅲ類	内外重焼痕
826	130-31	B	24722 他	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(11.4)	内面沈線	灰白	灰白	見込み輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 4類		
827	130, J29	B	23795 他	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	-	-	灰白	灰白	見込み輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 4類		
828	G50	B	23929 他	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(4.6)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉, 胴下部~高台内無釉	良好		白磁 4類		見込み遺焼の砂, 貫入
829	F30-31+ 32, G30- 31, H30	I, B, Bb	23923 他	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:10.3 底径:2.6 器高:2.6	-	灰黄	オリーブ	胴下部~底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	
830	G33	B	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	-	見込み・草花文	灰	オリーブ黄	胴下部~底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	貫入
831	G30	B	23914	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(4.0)	見込み・沈線	灰白	オリーブ黄	胴下部~底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	
832	130, J31	I, B	24753 他	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:3.4	-	灰白	オリーブ黄	胴下部~底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	
833	F31	Bb	36848	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(3.2)	-	灰	オリーブ黄	底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	
834	G31	B	27829	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.3)	-	灰白	オリーブ黄	胴下部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1A類	薄釉
835	G21	B	19555	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(5.4)	内面・草花文	灰・淡黄	灰オリーブ	底部無釉	良好	広東	白磁 5類	IV-1b類	内面に貫入
836	141	Ba	9201	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:(10.8)	見込み・沈線	灰白	灰	口縁輪状釉	良好		白磁 7類		口先:灰白
837	K29	I	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(9.6)	見込み・沈線	灰白	灰白	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:灰黄
838	E22	B	19615	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(9.4)	-	灰白	灰白	口縁輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:灰白
839	F31-32	I, Bb	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.6)	-	灰白	灰白	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:明黄釉
840	F31	Bb	37180	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.6)	-	灰白	灰オリーブ	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:灰白
841	F30	I	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(11.8)	-	灰白	灰オリーブ	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:淡黄
842	F30	Bb	36495	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(11.6)	-	灰白	灰オリーブ	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:淡黄
843	F31-32	Bb	36768 他	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白	口縁輪状釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	口先:明黄釉
844	F31	Bb	36782	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	全面施釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	
845	G51	Bb	16159	Ⅲ	皿	口縁	白磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰白	底部無釉	良好		白磁 7類	Ⅲ類	底部目録
846	G21	Ba	18596	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:(8.0) 底径:(6.0) 器高:2.1	胴下部:突線	灰白	白	底部中央無釉	良好		白磁 8類	森田0類	
847	J29	Bb	36419	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(9.4)	-	灰黄	灰白	胴下部~底部無釉	良好		白磁 9類	森田0類	貫入
848	K37	Ba	23241	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(9.2)	-	灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白磁 9類	森田0類	貫入, 外面重焼痕
849	J28	I	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.4)	-	暗灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白磁 9類	森田0類	
850	G22	Ba	18600	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(11.4)	-	灰白	灰白		良好		白磁 9類	森田0類	貫入
851	J38	I	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	-	-	灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白磁 9類	森田0類	貫入
852	E41	Ia	-	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	普通		白磁 9類	森田0類	貫入
853	G33	I	-	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:(12.7)	-	灰	灰白		良好		白磁 9類	森田0類	
854	J38	Ba	22965	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.9)	-	灰白	灰白		良好		白磁 9類	森田0類	貫入
855	F32	Bb	-	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:(9.0) 底径:(4.0) 器高:2.8	-	灰白	灰白	見込み輪状釉, 胴下部~高台内無釉	良好		白磁 9類	森田0類	見込み砂目
856	G31	Bb	37035	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	内外:沈線	灰白	灰オリーブ	見込み輪状釉, 胴下部無釉	良好		白磁 9類	森田0類	外面スス
857	030-J29	B	23622 他	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.7) 底径:(4.7) 器高:2.8	-	灰	灰オリーブ	見込み輪状釉, 胴下半無釉	良好		白磁 9類	森田0類	見込み・高台重焼痕, 白泥, 外口縁付石小礫付着
858	J28	B	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(10.4)	-	灰白	灰オリーブ		良好		白磁 9類	森田0類	
859	J28	I	-	Ⅲ	皿	口縁	白磁	口径:(12.0)	内:沈線	白	灰白		良好		白磁 9類	森田0類	貫入
860	J30	B	25170	Ⅲ	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:10.6 底径:4.4 器高:2.9	-	淡黄	明オリーブ灰	見込み輪状釉, 胴下部~高台内無釉	良好		白磁 9類	森田0類	見込み・曇付白泥

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

探回 番号	英数 番号	出土区	期	取上 番号	器種	部位	種類	数量 (個)	文様	色調		裏輪範囲	構成	産地	水石 分類	分類	備考	
										胎土	釉色							
118	861	032	Ⅱ	-	Ⅲ	底	白磁	底径:3.7	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	862	338	Ⅱb	23004	Ⅲ	底	白磁	底径:3.8	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	863	027	I	-	Ⅲ	底	白磁	底径:4.7	内:沈澱	浅黄	灰白	見込ノ輪状釉引。 胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	864	828	I	-	Ⅲ	底	白磁	底径:(4.4)	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	865	343	Ⅱb	19611	Ⅲ	底	白磁	底径:4.0	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	866	738	I	-	Ⅲ	底	白磁	底径:3.4	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	867	331	Ⅱ	29161	Ⅲ	底	白磁	底径:(4.8)	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	貫入	
	868	542	Ⅱa	10029	Ⅲ	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	口縁4~5割 胴高台	
	869	1022	Ⅱ	-	不明	底	白磁	底径:4.4	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	口縁2~5割 胴高台	
	870	837	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	黄黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	口縁2~5割 胴高台,貫入	
	871	341	Ⅱa	-	不明	底	白磁	底径:(4.4)	-	白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	口縁1.5~5割	
	872	829	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白磁 9割	森田田	口縁4~5割 貫入	
	873	043	Ⅱa	-	Ⅲ	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白		良好		白磁 10割	森田田		
	874	028	I	-	Ⅲ	口縁	白磁	口径:(13.2)	-	灰白	灰白		良好		白磁 10割	森田田		
	875	830	Ⅱb	-	Ⅲ	口縁	白磁	口径:(14.7)	-	灰白	灰白		良好		白磁 10割	森田田		
	876	129	Ⅱ	33888	Ⅲ	口縁 ~底	白磁	口径:(11.6) 底径:(5.8) 胴高:2.5	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	口縁付近一部 磨割	
	877	032	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:浅黄,高 台に砂付着	
	878	829	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(6.2)	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:灰黄	
	879	731	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:灰白	
	880	831	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:灰黄	
881	731	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(6.7)	-	灰白	灰白	雲付輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:灰黄		
882	127	I	-	Ⅲ	胴~ 底	白磁	底径:(3.2)	-	灰白	灰白	一部輪削	良好		白磁 10割	森田田	釉引:灰黄		
119	883	128	Ⅲ	29792	Ⅲ	完形	白磁	口径:10.5 底径:4.5 胴高:2.6	-	黄黄	浅黄~灰白	見込ノ輪状輪削	良好				Ⅲ~Ⅰ割	
	884	136	Ⅲa	29564	Ⅲ	口縁	白磁	口径:(20.0)	-	灰黄	灰白		普通				福岡県,貫入 大型製品?	
	885	131	Ⅱ	28186	Ⅲ	底	白磁	底径:6.5	-	灰黄	灰白		普通				福岡県,見込 口縁,貫入, 大型製品?	
	886	130	Ⅱ	24726	Ⅲ	蓋部	白磁	胴径:(6.6)	-	灰	明オリーブ灰		良好				口縁ニ耳割露 底	
	887	332-33 E31-32 F28-31 G29-29-30-31 H30, I29 J28-30, L33	I, II, Ⅲ, Ⅳ, a-b- c- d	Ⅲ	18822	Ⅲ	胴下 ~底	白磁	最大径:(18.0) 底径:(10.0)	-	灰白	浅黄,一部赤	内面の胴下~底 に輪,雲付~高台 内一部無釉	良好				内面凹凸が目 立つ
	888	F30	Ⅱb	36322	合子 (身)	上蓋 ~受	青白 磁	-	外:草花文型押し,葉草 文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好				c~0割	型づくり
	889	F31	I	-	合子 (身)	胴~ 底	青白 磁	-	外:葉草文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好				c~0割	型づくり
	890	E31	Ⅱa	16028	合子 (身)	口縁	青白 磁	口径:(6.6)	-	灰白	明オリーブ灰	蓋受部~胴下部輪 削,内面一部無釉	良好					縁取にふい 黄泥,白磁の 可能性
	891	G30	Ⅱ	24908	合子 (身)	口縁 ~底	青白 磁	-	-	灰白	灰白	外面無釉	良好					
	892	333	I	-	Ⅲ	好~ 交付	青白 磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰白		良好					貫入
	893	134	I	-	Ⅲ	口縁	青白 磁	口径:(9.0)	胴高部内面:沈澱	灰白	明緑灰		良好					蓋口蓋?

第 16 表 染付観察表

障子番号	高紙番号	出上氏	刷	取上番号	印種	部位	種類	色量 (cm)	文様	胎土色調	輪葉色調	墨輪範囲	焼成	産地	未古分類	分類	備考
	304	J17	I	-	襷	口縁	染付	-	外:牡丹唐文 内:四方唐文	灰白	灰白	-	良好	-	-	B群	
	305	K29	I	-	襷	口縁	染付	-	外:昇龍2条, 矢羽根状文 内:昇龍2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	306	I32	II	-	襷	口縁	染付	-	外:昇龍1条, 下2条, 波濤文帯 内:昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	307	F32	I	-	襷	口縁	染付	-	外:下昇龍上1条, 下2条, 波濤文帯, 牡丹文 内:昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	308	G32	I	-	襷	口縁	染付	-	外:昇龍上下2条, 波濤文帯 内:昇龍2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	309	G43	IIa	-	襷	口縁	染付	-	外:昇龍上下2条, 列点文, 蓮華文 内:昇龍1条	灰白	明青灰	-	良好	-	-	-	
	300	K37	I	-	襷	口縁	染付	-	外:昇龍1条, 牡丹唐文 内:昇龍2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	301	L28	I	-	襷	口縁	染付	-	外:波濤文, 博覧文 内:昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	302	F31	I	-	襷	口縁	染付	-	外:花文 内:昇龍1条	灰黄	灰黄	-	良好	-	-	-	
	303	L38	IIb	-	襷	口縁	染付	-	外:唐草文 内:昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	304	E29	I	-	襷	割	染付	-	外:雲文帯, 芭蕉葉文	灰白	明青灰	-	良好	-	-	-	
	305	R21	I	-	襷	割	染付	-	外:雲文帯?, 芭蕉葉文(波濤文?)	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	306	O27	I	-	襷	裏	染付	直径: (6.0)	割: 唐草文, 昇龍2条 襷: 昇龍1条 見込み: 圓縁2条, 花文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	
121	307	H30	I	-	襷	裏	染付	直径: (5.0)	割: 昇龍1条 高台: 昇龍2条 割: 不明文 見込み: 不明文字	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	
	308	G32	I	-	襷	裏	染付	直径: (7.0)	高台: 昇龍2条 割: 波状文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	
	309	K25	I	-	襷	裏	染付	直径: (7.0)	割: 蓮華文 見込み: 圓縁1条, 法螺貝文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	
	310	H32	I	-	襷	裏	染付	直径: (5.0)	割: 高台: 昇龍1条 見込み: 圓縁1条, 法螺貝文	白	明青灰	墨付輪郭	良好	-	-	-	
	311	F31	I	-	襷	口縁	染付	口径: (14.0)	外: 昇龍1条, 夜叉文 内口縁: 昇龍1条 見込み: 昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	312	E29	I	-	襷	口縁	染付	口径: (10.0)	外: 昇龍1条 内口縁: 四方唐文帯 見込み: 昇龍1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	313	F31	I	-	襷	口縁	染付	-	外口縁: 圓: 昇龍1条 内口縁: 四方唐文帯 割内面: 圓縁2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	314	G32	I	-	襷	裏	染付	直径: (3.0)	外: 芭蕉葉文, 昇龍2条 見込み: 圓縁1条, 唐草文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	幕間底
	315	B-842	I, IIa	-	襷	裏	染付	直径: (2.0)	外: 芭蕉葉文 割内: 蓮点文, 昇龍2条 見込み: 菊花文	灰白	明青灰	墨付輪郭	良好	-	-	-	幕間底, 法部砂目縁
	316	L26	II	-	襷	裏	染付	直径: (3.0)	見込み: 圓縁2条, 唐草文	灰黄	灰白	底部輪郭	良好	-	-	-	幕間底, 見込み縁, 墨付見込み砂目縁
	317	H30	I	-	襷	裏	染付	直径: (8.0)	割: 圓縁2条 見込み: 花唐文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	
	318	H30	I	-	襷	裏	染付	直径: (12.0)	見込み: 圓縁2条, 法螺貝文	灰白	灰白	墨付輪郭	良好	-	-	-	

第17表 中国陶器観察表

標記番号	編年番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	類別	口径 (cm)	調整				色調				胎土				焼成	備考											
									外面	内面	外面	内面	白	黄	赤	黒	赤黒	灰	青	緑			紫	茶									
																									外面	内面	外面	内面	白	黄	赤	黒	赤黒
122	919	F31, G42, J29~30, K29~30~36, L28~29	I, II, IIa-b, IIIa	23761他	甌	口縁~底	中国陶器	口径:9.8 底径:7.8 胴径:20.6 胴最大径:15.4	ろくろ	ろくろ	釉:暗オリーブ	釉:暗オリーブ	○								良好	釉施, 外面に肉線3条 底部肉線											
	920	D32	IIb	15941	甌	口縁	中国陶器	口径:(15.6)	-	-	釉:暗オリーブ	釉:オリーブ	○								○	良好	釉施, 口縁内砂目跡										
	921	I41	IIa	9191	甌	口縁	中国陶器	口径:(7.2)	横ナデ	横ナデ	釉:灰青	釉:灰青	○									○	良好	釉施, 胎土に熟成色 胎土:澄									
	922	E31, F31~33, G31~32, H29~32, I30	I, II, IIa-b	36581他	甌	口縁~胴	中国陶器	口径:(11.2)	丁寧な横ナデ	丁寧な横ナデ	にぶい黄緑 釉:淡黄	にぶい黄緑 釉:淡黄	○	○									普通	釉施, 胎土に熟成色 底部肉線									
	923	F31	I	-	他	肩	中国陶器	-	横ナデ	横ナデ	灰白 釉:黒釉	灰白	○										○	良好	釉施, 外面釉施 底部肉線2条								
	924	S-H30, I29	I-II	23290	甌	肩~胴	中国陶器	最大径:13.6	横ろくろ	横ろくろ	釉:オリーブ	淡黄緑釉	○	○										○	良好	四耳並, 外面釉施							
	925	E31, F31, G30~31, H30~31	II, IIb, III	16020	甌	胴~底	中国陶器	最大径:28.0 底径:(16.6)	横ナデ	ろくろ	釉:黄灰緑	オリーブ黄	○												○	良好	胎土黄緑 胎土:灰~にぶい黄						
	926	G43	I	-	他	胴~底	中国陶器	口径:(7.6)	ろくろ	-	暗灰黄 釉:明黄釉	暗灰黄	○	○											○	良好	釉施, 外面釉施						
	927	D32, E31~32, F31~32, G32, I30, J29, K29	I, II, IIa-b, IIIa	11389他	甌	口縁~胴	中国陶器	口径:(23.0)	横ナデ	横ナデ	釉:黄釉	にぶい黄	○	○												○	良好	底部肉線, 口縁内砂目 外面光沢あり					
	928	E30, F31, G30, H30~31, I31	I, II, IIa-b	26373他	甌	口縁~胴	中国陶器	胴径最大径:(23.9)	-	-	釉:オリーブ	灰	○	○												○	良好	外面中央砂目22ヶ 内外光沢あり 口唇部欠損					
	929	E27, G41~42	I	13076	甌	底	中国陶器	口径:8.8	横方向へラナデ	横方向へラナデ	にぶい青 釉:オリーブ	にぶい青 釉:オリーブ	○														○	良好	釉施, 部分的に釉残 器底或は粘土目跡1ヶ 存在				
	930	G41	IIa	9146	甌	底	中国陶器	口径:(3.8)	底:垂直	横ナデ	澄	釉:暗オリーブ	○	○													○	良好	縁施, 内外とも胎土目痕 はっきり				
931	H31, I31, II	II	28426	甌	底	中国陶器	口径:3.0	ろくろ	-	釉:灰	釉:黒	○	○														○	良好	器底中央目輪 外面釉施く一部釉施				
123	932	F31, I29, J28~29, K29	I, II	23552他	甌	肩	中国陶器	胴径:19.7	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具 ・糸痕→ →ナデ	灰 痕跡:にぶい 赤釉	○	○	○													○	良好	底部付近に肉線薄く残 存 無彫造物				
	933	I29	II	24658	甌	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉	胎施	○															○	良好	光沢あり			
	934	G41	IIa	9157	甌	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉 釉:にぶい黄	胎施 釉:にぶい黄	○																○	良好	内外釉施, 光沢あり		
	935	E31	IIa	16056	甌	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉 釉:にぶい黄	胎施 釉:にぶい黄	○																	○	良好	内外釉施, 光沢あり	
	936	D31	III	10986	甌	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉 釉:にぶい黄	胎施 釉:にぶい黄	○																	○	良好	内外釉施, 光沢あり	
	937	F42	IIa	9636	甌	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉 釉:にぶい黄	胎施 釉:にぶい黄	○																		○	良好	内外釉施, 光沢あり
	938	D31	II	-	他	胴	中国陶器	-	格子印き又は糸痕 →ナデ	同心円当具	釉:赤釉 釉:にぶい黄	胎施 釉:にぶい黄	○																		○	良好	内外釉施, 光沢あり

第18表 土製品観察表

押出番号	再販番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	質量 (g)	調整		色調	胎土					焼成	備考			
									外面	内面	外・内面	白灰	灰岩	質白灰	石英	灰岩			黒石	礫石	
124	939	B1	II	17964	土師	宛形	土製品	径:2.9 長さ:3.3 孔径:1.0	ヘラナデ		灰白		○		○			普通	重さ:29g		
	940	I30	I	-	円盤形土製品	宛形	土製品	径:2.3 厚:0.8			灰白							普通	磨耗		
	941	B20	II	-	円盤形土製品	宛形	土製品	径:1.8 厚:0.7	ミガキ	ミガキ	灰白							普通	研転用		
	942	B29	II	26453	円盤形土製品	宛形	土製品	径:3.4 厚:1.2	打欠盤形		灰白		○			○	○	普通	研転用		
	943	J28	II	23372	円盤形土製品	-	土製品	径:7.5 厚:0.9	丁寧なミガキ 蓋:ヘラ切		灰白						○	○	普通	研転用	
	944	B30	II	24861	円盤形土製品	-	土製品	径:11.0 厚:0.8			灰白		○				○	○	普通	磨耗	
	945	B36	IIb	29063	円盤形土製品	-	土製品	径:7.5 厚:0.9	打欠ミガキ 蓋:ヘラ切		灰白			○				○	○	普通	研転用、磨耗
	946	B30	II	24848	紡錘車	宛形	土製品	径:6.5~7.3 厚:0.5~0.9 孔径:0.4	打欠→丁寧な ミガキ 蓋:角切		外:にぶい赤橙~橙 内:橙			○		○		○	普通	研転用	
	947	G29	II	24582	紡錘車	宛形	土製品	径:8.4~9.1 厚:1.0 孔径:0.7	打欠→丁寧な ミガキ		灰色			○		○		普通	内面コグ (灯明蓋に転用?)		
	948	I30	II	33872	縄目口	先周	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:増成 内:赤		○		○	○		普通	小籠含む、外面軟洋付着		
	949	J30	II	25131	縄目口	先周 付込	土製品	孔径:3.0程度	ヘラナデ	ヘラナデ	外:増成 内:橙~赤黒		○		○	○	○	普通	小籠含む、外面軟洋付着		
	950	I30	II	26660 他	縄目口	先周	土製品	孔径:2.8以上	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰白~増成 内:橙~赤黒		○		○	○	○	普通	小籠含む、外面軟洋付着		
	951	F31	Bb	37098	縄目口	先周	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰 内:橙赤橙		○		○	○		普通	小籠含む、外面一部軟洋付着		

第19表 石器・石製品観察表

押出番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
125	952	I30・31	II	24721・29218	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	179.4	口縁~踵
	953	I30	II	24697	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	105.0	踵
	954	F32	II a	11404・28360	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	112.4	踵
	955	E31	II a	16301	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	140.8	口縁~踵
	956	I31	II	28280	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	36.4	口縁
	957	J29	II	25114	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	87.8	口縁~踵
	958	F30	II	37389	滑石製石鏡	滑石	25.0	-	-	61.6	口縁
	959	F31	II	30790・39243	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	34.8	口縁・穿孔途中
	960	G31	II	26494	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	60.7	口縁
	961	F26	I b	18371	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	76.2	胴部
962	J28	II	25223	滑石製石鏡	滑石	-	(16.5)	-	101.6	胴部	
963	F31	II	37153	滑石製石鏡	滑石	-	(17.4)	-	69.1	胴部	
964	F31	II	27515	滑石製石鏡	滑石	-	-	-	66.5	胴部	
126	965	G31	II	28998	滑石製石製品	滑石	9.7	6.3	3.0	191.7	
	966	R08	II a	13657	滑石製石製品	滑石	4.2	3.9	1.6	21.2	
	967	G32	II b	39356	滑石製石製品	滑石	1.9	1.5	1.3	4.1	バレン状
	968	F31	II b	39444	滑石製石製品	滑石	2.9	2.2	1.0	4.6	バレン状
	969	G30	II	23949	滑石製石製品	滑石	3.0	1.9	1.2	6.7	
	970	I36	I	2014・296	滑石製石製品	滑石	9.9	8.4	2.4	278.8	
	971	G31	II	28075	滑石製石製品	滑石	6.9	2.7	1.7	31.4	穿孔
	972	J31	I	-	滑石製石製品	滑石	3.4	4.5	1.1	20.7	穿孔
	973	F31	II b	39246	滑石製石製品	滑石	4.4	6.2	1.9	50.4	穿孔
	974	F31	II b	36757	滑石製石製品	滑石	5.0	4.9	2.6	108.5	
127	975	R29	II	26422	滑石製石製品	滑石	3.5	4.8	1.8	46.6	
	976	F31	II b	36744	滑石製石製品	滑石	7.4	4.9	1.5	64.8	
	977	J28	II	23544	滑石製石製品	滑石	7.0	4.8	1.9	81.4	
	978	G30	II	24930	滑石製石製品	滑石	6.8	2.1	1.8	34.2	
	979	J29	II	-	滑石製石製品	滑石	5.1	1.9	1.6	18.0	
	980	F30	II	27468	滑石製石製品	滑石	3.5	2.2	1.9	14.3	
	981	R43	II a	-	滑石製石製品	滑石	2.3	2.0	1.0	7.9	
	982	R32	II	-	滑石製石製品	滑石	3.1	1.4	0.7	3.3	
	983	J29	II	-	滑石製石製品	滑石	3.2	1.8	0.8	6.9	
	984	E32	I	18359	滑石製石製品	滑石	4.8	5.1	1.7	58.0	縁部割
128	985	G26	II	19251	磁石	砂岩	(14.3)	(11.4)	(9.4)	2,399.8	
	986	R20	II	19789	磁石	砂岩	(8.6)	8.7	7.9	791.4	
	987	J28	II	23849	磁石	砂岩	(12.3)	(6.4)	3.9	520.6	
129	988	F29, G32, R27	I, II, II b	23501・18506・36930	磁石	砂岩	(11.5)	(5.6)	(5.0)	526.7	
	989	R37	II a	13538	磁石	砂岩	(8.1)	4.3	4.7	277.2	
	990	J28	II	23575	磁石	流紋岩	(3.8)	(6.1)	(5.0)	145.5	
	991	J32	I	-	磁石	流紋岩	(5.8)	3.10	(3.70)	78.7	
	992	G24	I	-	磁石	流紋岩	7.50	7.50	2.90	251.6	実重
	993	F27	I	-	磁石	流紋岩	(7.5)	(7.20)	(3.90)	247.8	実重
	994	L35	I	31585	磁石	流紋岩	(10.60)	(7.00)	(2.50)	224.8	実重
	995	R29	II	23810	磁石	砂岩	(5.6)	8.30	(2.2)	150.4	
	996	R28	II b	17175	磁石	砂岩	(8.3)	(6.3)	2.2	109.1	
	997	E27	I	18094	磁石	凝灰岩	6.9	7.5	2.0	92.1	
130	998	G30	II	24896	磁石	砂岩	(5.1)	4.2	1.1	27.0	
	999	E32	II a	11418	磁石	凝灰岩	(5.2)	3.2	1.2	21.6	
	1000	R30	II	-	磁石	砂岩	(4.1)	(4.2)	(1.1)	28.1	
	1001	R20	II	17987	磁石	頁岩	(4.1)	3.1	(0.9)	17.5	
	1002	G43	II a	9094	磁石	砂岩	(4.5)	2.9	0.8	20.1	
	1003	R30	II	24047	磁石	砂岩	(5.2)	3.5	0.9	28.3	
	1004	G30	II	26541	磁石	砂岩	(5.9)	(3.9)	(2.0)	64.1	
	1005	G32	II b	36902	磁石	砂岩	(6.40)	3.30	1.20	39.1	
	1006	J28	I	-	磁石	砂岩	(4.30)	(2.80)	(1.20)	24.5	
	1007	R27	II	23835	手水鉢	凝灰岩	15.7	9.4	4.3	660.0	
	1008	R29	II	17142	磁石製品	磁石	17.6	10.5	5.9	229.0	
	1009	R27	I	17893	磁石製品	磁石	12.0	4.8	2.5	51.7	
	1010	G31	II	27555	磁石製品	磁石	7.1	4.6	2.6	31.4	
1011	G31	II	27637	磁石製品	磁石	6.9	5.1	2.8	36.4		

第20表 鉄製品観察表

押出番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
	1012	H21	II	21023	不明	刀先	(4.8)	2.3	2.5	7.2	薄い作り 背筋は藤の背のように外反
	1013	I29	II a	29403	刀子	柄～刀部	9.8 柄1.8	1.1 柄0.7		24.3	先端欠損
	1014	K37	III a	23234	刀子	刃	(5.3)	1.4	0.2	8.5	
	1015	K28	II	24398	刀子	刃	(4.8)	1.8	0.3	4.5	
	1016	I29	II	24039	小刀	刃先欠損	(13.7) 柄3.5	2.5 柄1.2～1.5	0.4 柄0.30	38.2	
	1017	I28	II	33912	鎌	柄部一部欠損	(5.5) 柄0.3	(2.5) 柄0.8	-	44.5	想定最大幅3.3cm長さ5.5cm以上
	1018	H29	II	23329	鎌	完形	4.3	1.6	0.5	7.2	
	1019	E31	II b	16181	鎌	完形	(6.55)	1.3	0.5 鏝0.9 鏝0.3	8.2	
	1020	H43	II b	14179	鎌	完形	8.0	0.9	0.4, 鏝0.6	12.4	
	1021	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(8.0)	0.5	0.8	9.6	
	1022	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(3.9)	0.7	0.6		
	1023	H30	II	26590	鎌	基部欠損	8.9	0.8	0.8	10.4	基部は径0.3cm
	1024	E21	II	19587	鎌	基部	(6.7)	0.5	0.5	4.3	基部は径0.3cm
	1025	G22	II a	18616	棒状鉄製品	柄部? (折れ)	4.5	0.5	0.5	3.9	
	1026	G29	II	24581	棒状鉄製品		4.4	0.6	0.3	3.1	
	1027	J28	II	23549	鏝	光部	外径約4.0	内径2.0～2.2	0.8	14.3	内外ともに鍍金行
	1028	I29	II	24678	板状鉄製品		3.0～7.0	6	0.9	16.1	
	1029	F41	II a	9978	鉄製品	基わずかに欠損	16.6	0.8	0.8	38.6	刃部幅0.6cm厚さ0.6cm基部幅0.5cm厚さ0.5cm
	1030	I30	II	26668	釘?		4.0	0.6	0.8	3.9	基部は径0.4cm
	1031	021	II	19787	不明		2.7	1.8	0.7	6.2	
	1032	E31	II a	16369	鉄製品	完形	3.9	1	1.1	7.9	くさび状
	1033	I27	I	18827	板型洋	完形	直径9.5×10.0		4	478.9	

第21表 渡来銭観察表

押出番号	掲載番号	出土区 (遺構)	層	取上番号	器種	分類	時期	初铸年	書体	背文	直径 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	1034	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				
	1035	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				
	1036	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				欠損
	1037	I29	II b	25405	渡来銭	開元通寶	唐	960年	真書	-	24.2	1.1	2.2	
	1038	I29	II b	25406	渡来銭	至道元寶	北宋	995年	行書	-	24.9	1.3	1.8	1/8欠損
	1039	I29	II b	25408	渡来銭	嘉祐通寶	北宋	1056年	真書	-	25.1	1.0	1.5	
	1040	I29	II b	25407	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	篆書	-	24.9	1.1	2.3	
	1041	I29	II b	25409	渡来銭	元豊通寶		1078年	篆書	-	24.0	1.2	2.5	欠付書
	1042	(S033)	-	29791	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	真書	-	(22.9)	1.1	1.3	裏面木片?付着
	1043	F25	I	18024	渡来銭	大觀通寶		1107年	真書	-				

第 22 表 近世遺構出土遺物観察表

探検 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	分類	数量 (cm)	調整	粘土色割	釉の色割	底割範囲	形状	備考	
137	1044	S01	①	24479	壺小瓶	胴～底	近世陶器	底径:(22.0)	ふくろ	明透釉	オリーブ黒	-	良好	備後(近代川系)
	1045	S04	①	-	茶	蓋部	土師器	底径:(7.0)	楕円ナブ	塗敷	-	-	普通	備後(近代川系)
139	1046	S04	①	-	鉢	口縁	東海系	-	ヘア横ナブ	灰白、 外口縁:地灰	-	-	普通	筑紫
	1047	S04-F24	I	-	灯明皿	口縁	近世陶器	口径:(11.2)	楕円ナブ	灰/灰赤	黄釉	-	良好	備後(鏡門可志)
	1048	F24-G25	I	19333	皿	胴～高台	青磁	底径:(7.2)	-	灰黄、高台付 近:赤橙	外底中央釉刺	-	良好	備後(鏡門可志)
	1049	S04-F24	I	-	瓶	底割	青磁	底径:(6.2)	-	灰白	明透釉 施:透明	-	良好	青磁首飾
	1050	S00	-	-	皿	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	-	良好	備後備
1051	S04-F24	I	-	瓶	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白 施:透明	-	良好	備後	
144	1073	SK+J33	①+ II	22954	土瓶	径口	陶器	-	-	褐	オリーブ黒	内面縁台近無 輪	良好	備後(近代川系) 胴～胴縁上止
	1074	SK+J26	①+ II	22953	燗鉢	口縁～底	陶器	底径:(12.0)	-	にぶい赤褐	オリーブ黒	内面上部無輪	良好	備後(近代川系) 内面・底割目録
146	1089	PI	-	2398	壺	受火筒	近世陶器	底径:(9.2)	ナブ	にぶい橙	赤/灰 内:黄灰	外底無輪	良好	備後(鏡門可)

第 23 表 近世遺構出土銭観察表

探検 番号	発掘 番号	層位	取上番号	器種	分類	貨幣	銭径 (mm)	厚さ (mm)	重さ (mg)	備考
141	SK162	-	23865	古銭	東水滲寶	古	25.3	1.2	2.0	
		-	23865	古銭	東水滲寶	新	24.7	1.3	3.3	
		-	23865	古銭	東水滲寶	新	23.3	1.3	2.8	
		-	23865	古銭	東水滲寶	新	25.3	1.5	4.0	
		-	23865	古銭	東水滲寶	新	23.8	1.1	2.8	
		-	23865	古銭	東水滲寶	新?	24.7	1.2	2.5	
142	SK163	-	-	古銭	東水滲寶	新?	22.3	1.0	1.5	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	25.2	1.5	3.1	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	25.2	1.6	3.6	縁部付着
		-	-	古銭	東水滲寶	新	23.4	1.1	2.4	
		-	-	古銭	東水滲寶	新?	23.7	1.3	2.9	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	22.9	1.3	1.6	縁部付着
143	SK164	-	23864	古銭	東水滲寶	新	24.3	1.4	2.6	
		-	-	古銭	東水滲寶	古	24.9	1.1	3.1	
		-	-	古銭	東水滲寶	古	24.2	1.3	3.7	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	23.2	1.0	2.6	
		-	23866	古銭	東水滲寶	新	24.6	1.5	3.2	
		-	23866	古銭	東水滲寶	新	24.3	1.1	2.4	
144	SK165	-	23866	古銭	東水滲寶	新	23.3	1.1	2.5	
		-	23866	古銭	東水滲寶	新	23.7	1.1	2.6	
		-	-	古銭	東水滲寶	古	25.2	1.3	3.1	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	23.6	1.3	3.3	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	25.0	1.6	4.2	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	23.6	1.3	2.5	
145	SK167	-	-	古銭	東水滲寶	新	22.1	1.5	2.7	
		-	23862	古銭	東水滲寶	新	23.3	1.2	2.9	
		-	23862	古銭	東水滲寶	古?	23.5	1.1	2.2	
		-	-	古銭	東水滲寶	古	24.4	1.2	3.1	
		-	-	古銭	東水滲寶	新?	22.3	1.0	1.9	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	23.2	1.3	2.5	
145	SK167	-	23863	古銭	東水滲寶	新	24.2	1.5	3.6	
		-	23863	古銭	東水滲寶	新?	22.5	1.3	2.5	
		-	-	古銭	東水滲寶	新	25.1	1.2	3.5	
		-	-	古銭	東水滲寶	古	23.9	1.1	2.8	

第24表 近世出土遺物観察表

神代 番号	出土区 番号	出土 層	出土 番号	器種	部位	分類	径長 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬色調	窯跡	産地	保存 状況	備考		
1090	G43	I	-	甌	口縁	磁器	-	内:墨線,不明文 外:赤文	白	青	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C中葉	
1091	I33	I	-	甌	口縁	磁器	-	内:赤文	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C中葉	
1092	J29	I	-	甌	底	磁器	直径:(4.2)	見込み:「長命喜書,金 玉脚堂」,帯状又 高台:「長命喜書」 高台内:「長命喜書」	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C中葉	
1093	H32	I	29654	甌	口縁	磁器	口径:(10.0)	外:草花文	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系 (佐佐見)	良好	肥前系 18C中葉	
1094	G41	I	-	甌	口縁	磁器	口径:(11.0)	内:墨線 外:桜山火文	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1095	G23	I	-	甌	口縁	磁器	-	内:墨線	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1096	G25	V	-	甌	口縁	磁器	-	内:墨線	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1097	F43	IIa	-	甌	口縁	磁器	-	内:四方唐文	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1098	I33	I	-	甌	口縁	磁器	口径:(8.0)	内:四方唐文 外:墨線,山水文	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1099	E24	II	-	甌	口縁	磁器	口径:(8.0)	外:草花文	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1100	F43	IIa	8949	甌	底	磁器	-	墨:墨線2条	灰白	灰白	外面輪切40°形	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1101	D19	I	-	甌	底	磁器	直径:(5.2)	内外:墨線	灰	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1102	F24	I	-	甌	底	磁器	直径:(3.9)	外:墨線	灰白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1103	J32	I	-	甌	底	磁器	直径:(4.9)	-	灰	透明	見込み 底の目輪割	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半
1104	I37	I	-	甌	底	磁器	直径:(4.8)	見込み:墨線,御説文	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半	
1105	D27, E43	I, IIa	-	甌	底	磁器	直径:(3.8)	-	白	透明	見込み 底の目輪割	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半
1106	F41	I	-	甌	底	磁器	直径:4.6	-	白	透明	見込み 底の目輪割	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半
1107	G25	I	19364	甌	口縁	磁器	口径:10.0 直径:3.8 脚高:5.4	外:山水文	白	透明	見込み 底の目輪割	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半 見込み砂目
1108	H35	I	-	甌	口縁	磁器	口径:(7.0)	-	白	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 19C初～前半	
1109	G27-28	I	-	甌	底	陶器	直径:4.6	-	黄褐色	黄みを含む 割下～高台縁部	分厚い釉 肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 16C末～17C初	
1110	I28	I	-	甌	底	陶器	-	-	黄灰	外:墨線 内:透明	底面縁部	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 17C後半～18C前半
1111	C12	I	-	甌	口縁	陶器	-	-	黄灰	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1112	H31	I	-	甌	口縁	陶器	-	-	黄褐色	透明	肥前系	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半	
1113	D27	I	-	甌	底	陶器	直径:4.2	-	灰黄	赤黒	裏付無釉,見込み 底の目輪割	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1114	J26	I	17937	甌	口縁	陶器	口径:11.0 直径:4.0 脚高:6.0	-	にぶい 赤褐色	緑赤焼	裏付無釉,見込み 底の目輪割	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1115	J26	I	17930	甌	口縁	陶器	口径:10.9 直径:4.4 脚高:5.3	-	黄灰	緑赤赤焼	部分的に釉割,見 込み底の目輪割, 裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1116	G24	IIa	-	甌	底	陶器	直径:5.4	-	明赤焼	赤黒	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1117	F28	II	19366	甌	底	陶器	直径:(4.4)	-	明焼	黒焼	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1118	J26	II	-	甌	底	陶器	直径:4.6	-	焼	埋オリーブ 灰	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1119	I26	IIa	-	甌	底	陶器	直径:5.0	-	明赤焼	黒焼	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1120	H27	I	-	甌	底	陶器	直径:5.2	-	にぶい 赤焼	オリーブ焼	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1121	G33	I	-	甌	底	陶器	直径:(5.0)	-	にぶい 焼	灰赤	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1122	J26	II	-	甌	底	陶器	口径:11.0 直径:5.0 脚高:5.3	-	埋赤焼	透明 白化粧:灰 黄	見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1123	J26	埋灰	-	甌	口縁	陶器	口径:11.8	-	にぶい 赤焼	透明 白化粧:灰 白	見込み 底の目輪割	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1124	H27	I	-	甌	底	陶器	直径:5.1	-	埋灰黄	透明 白化粧:灰 白	釉薬数少,高台 内縁部	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1125	L32	I	-	甌	底	陶器	直径:4.2	-	灰	透明 白化粧:灰 オリーブ	割下～高台縁部	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1126	H33	I	-	小甌	口縁	陶器	口径:10.0	-	灰	透明 白化粧:灰 白	-	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1127	E27	I	17913	甌	底	陶器	直径:4.7	-	にぶい 赤焼	透明 白化粧:灰 白	内面輪切20°形, 見込み底の目輪 割,裏付無釉	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半
1128	L27	I	-	甌	底	陶器	直径:4.6	-	にぶい 赤焼	透明 白化粧:黄 灰	見込み底の目輪 割,高台内縁部	肥前系 (焼内可)	良好	肥前系	良好	肥前系 18C後半

第24表 近世出土遺物観察表

標記 番号	調査 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	分類	径長 (cm)	文様	胎土 色調	軸葉色調	取柄	蓋地	形状	備考
149	1129	J37	I	-	甕	底～ 高台	陶器	底径:5.0	-	黄灰	透明 白化粧:灰 オリーブ	見込み 絞の目輪 刺,高台無輪	薩摩 (鶴門町)	良好	外面上部～内面白化粧土,兼付と見込み砂目
	1130	I26	I	-	甕	底～ 高台	陶器	底径:4.4	-	にぶい 煙	透明 白化粧:灰 白	見込み 絞の目輪 刺,高台内無輪	薩摩 (鶴門町)	良好	外面上部～内面白化粧土,兼入
	1131	J37	Ⅱa	23133	甕	底～ 高台	陶器	底径:(4.7)	-	にぶい 赤褐色	外:焼 内:明黄焼	見込み 絞の目輪 刺,兼付無輪	薩摩 (鶴門町)	良好	見込み砂目
	1132	J33	I	-	甕	底～ 高台	陶器	底径:4.6	-	灰白	明オリーブ 灰	見込み 絞の目輪 刺,兼付無輪	薩摩 (鶴門町)	良好	高台内砂粒付
	1133	H24	Ⅱ	-	甕	口縁	陶器	口径:(12.0)	-	にぶい 赤褐色	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1134	E-P24	I, II	-	甕	口縁	陶器	口径:(13.1)	-	煙赤焼	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1135	F40	Ia	-	甕	口縁	陶器	口径:(12.8)	-	明黄焼	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1136	F33	I	-	甕	口縁	陶器	-	-	煙	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1137	J37	Ⅱb	-	甕	口縁	陶器	-	-	煙	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1138	E21	Ⅱ	-	甕	口縁	陶器	-	-	黄灰	黒焼	-	薩摩 (鶴門町)	良好	鉄軸
	1139	J22	I	-	坪	底～ 高台	陶器	底径:(3.4)	-	灰白	浅黄	胴下中～高台無 輪	不明	良好	兼入
	1140	E31	Ⅱ	-	坪	底～ 高台	陶器	底径:(5.0)	-	黄白	白焼	兼付～高台内無 輪	不明	良好	
	1141	H34	I	-	坪	底～ 高台	陶器	底径:(3.8)	-	灰	明オリーブ 灰	底筋無輪	不明	良好	青磁軸,内面トチン 痕2か所
1142	H35	I	-	小坪	底～ 高台	陶器	底径:3.0	-	鉄赤	灰白	底筋赤	良好	良好		
1143	H34	I	-	小坪	底～ 高台	陶器	底径:(3.1)	-	黄白	透明	-	不明	良好	目跡10ヶ所	
1144	I25	I	18207 紙	甕	1818 口縁	陶器	口径:(8.6) 底径:4.6 器高:6.2	外:模文	にぶい 黄焼	透明 白化粧:灰 白	兼付～高台内無 輪	薩摩 (鶴門町)	良好	内面土～外面白化粧 土,跡状	
150	1145	I32	I	-	皿	口縁	磁器	-	内:菊唐草文	白	透明	-	肥前系	良好	18C,該他見
	1146	D23	I	-	皿	口縁	磁器	口径:(12.0)	内:菊唐草文,雲 外:唐草文,雲	白	透明	見込み 絞の目輪刺	肥前系	良好	18C,該他見
	1147	F30	I	-	皿	底	磁器	底径:(7.0)	内:唐草文	白	透明	-	肥前系	良好	18C
	1148	J28	I	-	皿	底	磁器	底径:(8.0)	内:唐草文 外:雲	白	透明	-	肥前系	良好	18C
	1149	H44	Ⅱ	-	皿	底	磁器	底径:(8.0)	内:唐草文	白	透明	見込み 絞の目輪刺	肥前系	良好	18C
	1150	H37	I	-	皿	底	磁器	底径:(11.0)	-	白	透明	-	肥前系	良好	18C
	1151	I35	I	-	皿	底	磁器	底径:(7.8)	内:十字方格文 外:雲	白	透明	-	肥前系	良好	18C
	1152	I37	Ⅱa	29239	皿	底	磁器	底径:(4.6)	-	灰白	透明	見込み 絞の目輪刺	肥前系	良好	
	1153	G42	I	-	皿	底	磁器	底径:(6.0)	内:雲	白	透明	見込み 絞の目輪刺	肥前系	良好	
	1154	J28, E28	I	-	皿	底	陶器	底径:8.0	-	灰白	透明	底筋無輪	肥前系 (唐津系)	良好	16C末～17C初
	1155	H32	I	29652	皿	底	陶器	底径:4.0	-	灰	灰オリーブ, 一筋黒	底筋無輪	肥前系 (唐津)	良好	16C末～17C初
	1156	F28	I	-	甕	底	陶器	底径:4.2	三島平	赤褐色	灰～灰白	兼付無輪	肥前系	良好	17C初～前半,見込み トチン痕3か所
	1157	G33	I	-	甕	底	陶器	底径:(5.0)	三島平	赤褐色	外:埋赤褐色 内:埋赤褐色, 灰白	-	肥前系	良好	見込み2ヶ所残存,兼 付に砂目
1158	F31	I	-	皿	口縁	陶器	-	-	埋赤褐色	外:黒焼 内:灰白・黒 焼	-	肥前系	良好		
1159	J27	Ⅱa	-	甕	口縁	陶器	-	-	灰	外:透明 内:細砂	-	肥前系 (内野山系)	良好		
1160	I26	I	-	皿	底	陶器	底径:4.5	-	黄灰	外:浅黄 内:細砂	見込み 絞の目輪 刺,胴下～高台無 輪	肥前系 (内野山系)	良好	高台に3～4ヶ所砂 目,見込みトチン痕4 ヶ所	
1161	I26	I	-	皿	底	陶器	底径:4.6	-	黄灰	外:浅黄 内:細砂	見込み 絞の目輪 刺,兼付無輪	肥前系 (内野山系)	良好	見込みと高台に砂目	
1162	G33	I	-	皿	口縁	陶器	-	-	黄褐色	外:埋黄灰 ～黄褐色 内:黄褐色・灰 白	-	肥前系	良好		
1163	I41	Ia	-	皿	口縁	陶器	-	-	灰白	黒焼	-	肥前系	良好	鉄軸	
152	1164	G33	Ⅱb	-	蓋	蓋	磁器	-	内:四方模文	灰白	外:明緑灰 内:透明	-	肥前系	良好	青磁軸
	1165	I23	I	-	蓋	蓋	磁器	-	外:不透明	白	透明	-	肥前系	良好	
	1166	H27	I	-	蓋	蓋	磁器	口径:(10.0) 器高:(2.8) 底径:(12.8)	-	黄	灰・灰白	-	肥前系	良好	
	1167	I41, I42	Ia, Ⅱa	-	土瓶 蓋	蓋	陶器	底径:(6.6)	-	にぶい 赤褐色	外:黒焼	上面無輪	薩摩 (近代川系)	良好	
	1168	F23	I	-	土瓶 蓋	蓋	陶器	底径:(8.8)	-	外:灰	外:灰	上面無輪	薩摩 (近代川系)	良好	
	1169	E28, F27-28	I, Ⅱ	18651 他	土瓶 蓋	口縁～ 底	陶器	口径:(6.0) 底径:3.6	-	焼	黒焼	上面無輪	薩摩 (近代川系)	良好	胴下～底縁はスチ付 着で黒褐色を呈する

第24表 近世出土遺物観察表

押込番号	発掘番号	出土区	層	取上り番号	器種	部位	分類	径長(m)	文様	胎土色調	釉薬色調	裏地	産地	形状	備考	
152	1170	H38	I	-	土瓶	口縁	海部	口径(7.0)	-	にぶい赤焼	外:緑瑠璃内:下駄式白	口唇部輪刻,内面上部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1171	K37	I	-	土瓶	口縁	海部	口径(8.0)	-	にぶい赤焼	暗焼	口唇へ内面下部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1172	J27	I	-	土瓶	胴	海部	-	-	赤焼	黒焼	外面胴下部,内面胴上部無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸	
	1173	C51	I	-	土瓶	胴	海部	-	-	にぶい赤焼	灰オリーブ	胴部から無釉	薩摩(當代川流)	良好	厚くスズ付着	
	1174	J41	Ia	-	土瓶	底	海部	-	-	にぶい赤焼	黒焼	-	薩摩(當代川流)	良好		
	1175	H32 J33	I	-	土瓶	底	海部	底径(3.6)	-	にぶい赤焼	灰焼	外面胴部から無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1176	I27	Ⅱa	22525	土瓶 小鉢	底	海部	底径(3.6)	-	-	焼	外内:緑瑠璃 裏面:黒焼	-	薩摩(當代川流)	良好	
	1177	L35	I	-	鉢小	底	海部	底径(5.0)	-	-	明赤焼	オリーブ黒	-	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸
	1178	J33	VI	27972	土瓶	口縁	海部	-	-	にぶい赤焼	埋オリーブ	-	薩摩(當代川流)	良好	茶止め穴3つ	
	1179	D27	I	-	土瓶	口縁	海部	-	-	にぶい赤焼	埋オリーブ	外・内口縁埋オリーブ 灰	薩摩(當代川流)	良好	茶止め穴3つ	
	1180	G43	I	-	土瓶	口縁	海部	-	-	にぶい赤焼	淡紫	接合部付近無釉	薩摩(當代川流)	良好	茶止め穴3つ	
	1181	C50	I	-	土瓶	口縁	海部	-	-	にぶい赤焼	灰焼	内面下部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
153	1182	J31	I	-	徳利	口縁	海部	口径(8.4)	-	埋赤灰	オリーブ黒	-	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,17C後半 蓋:早瀬の可能性	
	1183	H22	Ⅱa	-	徳利	口縁	海部	口径(8.6)	-	埋赤灰	オリーブ黒	-	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,17C	
	1184	F21	I	-	徳利	胴	海部	-	-	灰黄色	外:黒焼	内面無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,17C後半~18C前半	
	1185	D32	I	-	徳利	胴	海部	-	-	灰	オリーブ灰・黒の斑点: 鉄分?	-	薩摩(當代川流)	良好	17C後半~18C前半	
	1186	H33-25	I	-	徳利	口縁	海部	口径3.4	-	埋赤灰	埋赤焼	-	薩摩	良好		
	1187	D07	I	-	徳利	口縁	海部	口径(8.4)	-	にぶい赤焼	外:透明	白化粘土	緑瑠璃(内面)	薩摩	良好	蓋の可能性
154	1188	J32	Ⅱ	-	片口鉢	口縁	海部	口径(37.7)	-	灰焼	黒焼	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,18C後半 口唇部に貝目	
	1189	D27	I	-	片口鉢	口縁	海部	口径(15.7)	-	埋赤焼	オリーブ黒	口唇部部分的に無釉	薩摩(當代川流)	良好	18C後半	
	1190	I-J 26-27	I	-	片口鉢	口縁	海部	-	-	赤焼	外:オリーブ黒 内:灰焼	口唇部輪部あり	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,18C後半 口唇部に貝目,内面 白色がかる	
	1191	H33	I	-	鉢	口縁	海部	口径(35.1)	-	埋赤灰	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸,18C後半 内面口縁下に貝目	
	1192	G33	I	-	鉢	口縁	海部	口径(25.2)	-	にぶい赤焼	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好	18C後半	
	1193	E22	Ⅱ	17995	鉢	口縁	海部	口径(24.0)	-	にぶい赤焼	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸, 内面白色がかる	
	1194	H26	I	18526	鉢	底	海部	底径(13.3)	-	にぶい赤焼	外:オリーブ黒 内:埋赤焼	胴下部~底面無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1195	F28	I	-	埋赤鉢	口縁	海部	口径(29.9)	-	赤焼	外:黒焼 内:埋赤焼	口縁内面無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1196	J27	I	-	埋赤鉢	口縁	海部	口径(25.8)	-	埋赤焼	黒焼	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1197	L20	Ⅱ	-	埋赤鉢	口縁	海部	口径(25.4)	-	灰黄焼	オリーブ黒	口唇部に無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1198	J27	I	-	埋赤鉢	口縁	海部	口径(24.0)	-	埋赤焼	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
	1199	D27	Ⅱb	20579	埋赤鉢	底	海部	底径(18.6)	-	埋赤焼	外:黒焼 内:埋赤焼	-	薩摩(當代川流)	良好		
1200	F24	I	18170	埋赤鉢	底	海部	底径(22.2)	-	赤焼	外:オリーブ黒 内:灰焼	-	薩摩(當代川流)	良好			
1201	F31	I	-	埋赤鉢	底	海部	底径(10.8)	-	埋赤焼	オリーブ黒	外面輪部あり	薩摩(當代川流)	良好			
1202	J27	I	-	埋赤鉢	底	海部	底径(12.6)	-	にぶい赤焼	外:黒焼 内:埋赤焼	-	薩摩(當代川流)	良好			
1203	G21	Ⅱa	18588	埋赤鉢	底	海部	底径(14.6)	-	にぶい赤焼	オリーブ黒	底面無釉	薩摩(當代川流)	良好			
1204	E28	Ⅱa	-	埋赤鉢	底	海部	底径(13.2)	-	にぶい赤焼	黒焼	-	薩摩(當代川流)	良好			
1205	L34	Ⅱa	-	鉢小	底	海部	-	-	-	灰	外:灰焼,白 砂裏 内:埋赤焼	-	不明	良好	中使の可能性 底:黒焼	
1206	I-J 26-27	I	-	蓋	口縁	海部	底径(27.4)	-	-	埋赤焼	埋オリーブ	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好		
1207	L33	I	-	蓋	口縁	海部	底径(16.0)	-	埋赤焼	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩(當代川流)	良好	鉄軸		

第 24 表 近世出土遺物観察表

探頭番号	発掘番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	分類	径長 (cm)	文様	胎土色類	軸差色類	寫輪	産地	状況	備考
155	1208	H7	I	-	製	口縁	海粉	口径:(31.9)	-	灰褐色	オリーブ黒	口唇部一部無軸	薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸, 18C前半~中頃
	1209	K35	I	-	製	口縁	海粉	口径:(44.4)	-	黄灰	褐色		薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸, 18C前半~中頃
	1210	I27	I	-	製	口縁	海粉	口径:(32.8)	-	にぶい赤褐色	黒褐色	口唇部無軸	薩摩 (當代川添)	良好	18C
	1211	F28	II	19360	鉢	口縁	海粉	口径:(34.0)	-	にぶい黄	灰オリーブ	口唇部無軸	薩摩 (當代川添)	良好	18後半~19C
	1212	G31	I	-	製	胴	海粉	-	外面に薩摩文	赤褐色	オリーブ黒		薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸
	1213	J26	覆土	-	製	胴	海粉	-	外面に薩摩文	赤褐色	オリーブ黒		薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸 1214と同一
	1214	I27	I	-	製	胴	海粉	-	外面に薩摩文	赤褐色	オリーブ黒		薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸 1213と同一
	1215	F28	I	18813	蓋	口縁	海粉	口径:(18.2)	-	暗褐色	外:オリーブ黒 内:灰白	口唇部無軸あり	薩摩 (當代川添)	良好	口唇部に貝目跡 大型
	1216	J32	I	-	蓋	口縁	海粉	口径:(14.0)	-	にぶい黄	黒褐色	口唇部無軸	薩摩 (當代川添)	良好	口唇部に貝目跡 大型
	1217	I27	I	-	蓋	口縁	海粉	口径:(9.1)	-	灰	オリーブ黒	口唇一部無軸	薩摩 (當代川添)	良好	中小型
	1218	D31	II	-	蓋	口縁	海粉	口径:(12.2)	-	にぶい黄	外:黒褐色		薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸, 中小型
	1219	J38	I	-	蓋	口縁	海粉	口径:(11.0)	-	にぶい赤褐色	暗褐色	内面無軸	薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸, 中小型 口唇~内口縁砂目
	1220	B~J 26	I	17900	蓋か 他	胴~ 底	海粉	底径:(13.7)	-	黄灰	オリーブ黒		薩摩 (當代川添)	良好	底面に目跡 跡の可能性
	1221	E29	I	-	蓋か 底	底	海粉	底径:(20.0)	-	にぶい赤褐色	オリーブ黒	底面に軸が まだら	薩摩 (當代川添)	良好	現状?
	1222	I53	I	-	蓋か 底	底	海粉	底径:(11.0)	-	暗灰黄	灰オリーブ		薩摩 (當代川添)	良好	
1223	F28	I	-	新	底	海粉	底径:(12.2)	-	にぶい赤褐色	にぶい黄	底面無軸	薩摩 (當代川添)	良好		
156	1224	1-J 26-27	I	-	灯明 皿	底面	海粉	口径:10.3 底径:4.4 器高:2.5	-	褐色	灰オリーブ	外面底~底面 無軸	薩摩 (鶴岡町)	良好	底面赤褐色 内面砂目40~50
	1225	G32	I	-	灯明 皿	口縁	海粉	口径:(12.2)	-	灰	外:内口縁: オリーブ黒	外口縁~内面軸, 外面無軸	薩摩 (鶴岡町)	良好	外面スス
	1226	F23	I	-	灯明 皿	口縁 ~底	海粉	口径:(10.8) 底径:(5.0) 器高:2.8	-	灰黄褐色	暗オリーブ		薩摩 (鶴岡町)	良好	底面赤褐色, 砂目跡 跡3か所残存
	1227	H35	I	-	灯明 皿	口縁	海粉	-	-	黄灰	オリーブ黒	外面~内面に軸, 外底面~底面無 軸	薩摩 (鶴岡町)	良好	底面赤褐色 底面スス付着
	1228	J31	I	-	網	口縁	海粉	-	-	にぶい黄	暗褐色		薩摩 (鶴岡町)	良好	網軸
	1229	H28	V	-	網	口縁	海粉	-	-	にぶい黄褐色	オリーブ黒	内外上面 白化粘土	薩摩 (鶴岡町)	良好	白粘土に網軸
	1230	F32	I	-	高坪 皿~ 部台	海粉	底径:4.4	-	-	にぶい赤褐色	オリーブ黒	胴部下~底面無 軸	薩摩 (鶴岡町)	良好	仏教具
	1231	G33	I	-	高坪 皿~ 部台	海粉	底径:3.8	-	-	赤褐色	外:灰白 内:赤褐色	胴部無軸, 白化粘土	薩摩 (鶴岡町)	良好	仏教具 内面砂目
	1232	L37	皿a	29757	網	口縁	海粉	-	-	にぶい黄褐色	外:黒褐色	内面無軸	薩摩 (當代川添)	良好	鉄軸, 仏具
	1233	J23, K25	覆土 I	-	不明	口縁 ~底	海粉	口径:(9.0)	-	にぶい黄褐色	暗褐色	底面に網の目 跡あり	薩摩 (鶴岡町)	良好	古手の小網?

第 25 表 近世出土銭観察表

探頭番号	発掘番号	出土区	層	取上番号	器種	分類	表面	径長 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
156	1234	F27	I	18363	銭	寛永通寶	新?	-	22.5	0.9	1.8
	1235	E27	I	17912	銭	寛永通寶	新	-	23.0	0.9	1.9
	1236	E27	I	17908	銭	寛永通寶	新	-	23.4	1.0	1.9
	1237	G41	皿b	12009	銭	寛永通寶	古?	-	23.8	1.8	4.8

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の種類と目的

第2地点における自然科学分析は、平成25年度に「種実同定」と「放射性炭素年代（AMS測定）」、平成26年度に「出土試料の自然科学分析（年代測定、樹種同定）」を行った。

「種実同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」では、堅穴住居跡・堅穴建物跡4基から採取した5試料の種実同定により、当時の植物利用に関する資料を得るとともに、種実同定作業を経て年代測定に適した試料を選定した上で、試料の年代を測定することによって、遺構の年代を知る手がかりとした。「出土試料の自然科学分析（年代測定、種実同定）」では、堅穴住居跡4基、土坑1基、溝状遺構1条から検出した炭化物10点について、放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代を知る手がかりとするとともに、一部の試料は種実同定を行い、当時の植物利用に関する資料を得たが、種実同定については、本報告書対象年代とは異なる時代の遺構から採取された試料である。

分析結果については、第2節以降に詳細に記載してあるので、譲ることとしたい。なお、今回は第2地点の古代・中世・近世に関する科学分析を対象とした。第1地点については、平成27年度刊行報告書に、第2地点（旧石器時代・縄文時代編）は平成28年度刊行報告書にそれぞれ記載済みで、第2地点（縄文晩期・弥生・古墳時代編）及び第3地点については、今後刊行する報告書において報告する予定である。このため、納品された報告書を基に第2地点（古代・中世・近世編）のみ再編を行い、体裁を整えて掲載している。また、平成25年度自然科学分析委託の「樹種同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」については、委託業務の際には樹種同定によって分析対象となった炭化物に対して年代測定を行っているが、本報告書掲載に際しては、年代測定で対象試料を示した上で樹種同定の分析報告を記載する。

自然科学分析に関する一覧

掲載節	分析の内容	分析委託業者
第2節	放射性炭素年代（AMS測定）	株式会社加速器分析研究所
第3節	種実同定	株式会社加速器分析研究所
第4節	放射性炭素年代測定	株式会社バレイオ・ラボ

第2節 永吉天神段遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

永吉天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれた標高約35mの河岸段丘及び標高約50mのシラス台地に立地する。測定対象試料は、SI10、SI13、SI19、SI21から出土した炭化物や炭化種実の合計5点である（表1：表は、本報告書掲載遺構SI21＝中世堅穴建物跡のみ掲載）。試料は、調査現場にて採取された土の中からフローテーションにより回収され、種実同定（別稿種実同定報告参照）を行った後、年代測定に適した試料を選定した。試料5は、炭化イネ穎・胚乳（完形）3点のうち1点を測定試料とした。

試料が出土した遺構はⅢ層で検出され、弥生時代と推定されている。Ⅱ層は弥生時代、Ⅴ層は縄文時代早期の遺物包含層と捉えられている。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (第26表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として第27表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線

および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCal4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第27表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

5 測定結果

試料の測定結果を第26、27表に示す。 ^{14}C 年代は、5点のうち、試料5は明瞭に異なる年代値を示している。暦年較正年代 (1σ) は、1が縄文時代後期前葉頃、2~4が弥生時代中期頃、5が中世から近世頃に相当する (小林編 2008, 藤尾 2009)。試料の炭素含有率はすべて60%以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51 (1), 337-360
- 藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣 9-54
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会 アム・プロモーション
- Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radio-

第26表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-130195	5	SI21 P2 III層	炭化イネ穎・胚乳	AaA	-26.20 \pm 0.42	390 \pm 20	95.23 \pm 0.29

[#5806]

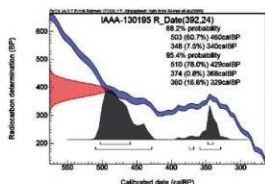
第27表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-130195	410 \pm 20	94.99 \pm 0.28	392 \pm 24	503calBP - 460calBP (60.7%) 348calBP - 340calBP (7.5%)	510calBP - 429calBP (78.0%) 374calBP - 368calBP (0.8%) 360calBP - 329calBP (16.6%)

[参考値]

carbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51 (4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363



第157図 暦年較正年代グラフ (参考)

第3節 永吉天神段遺跡における種実同定

(株)加速器分析研究所

はじめに

永吉天神段遺跡は鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれる河岸段丘および台地上に位置する。本分析調査では、弥生時代と推定される遺構から出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を得る。

1 試料

試料は、SI10より1試料、SI13より1試料、SI19より2試料、SI21より1試料の合計5試料である(試料1～5)。以下では、本報告書該当試料である試料5:SI21試料1点のみを掲載する)。土壌のフローテーションによって回収され、乾燥した状態でポリ袋やアルミホイルに収納されている。各試料の詳細は結果とともに第28表に示す。なお、これら5試料の中から各1点について放射性炭素年代測定が実施されている(年代測定報告参照)。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、吉崎(1992)等を参考に実施し、個数を数えて一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群毎に容器に入れて保管する。

3 結果

全5試料を通じて、被子植物5分類群(草本のイネ、イネ科、カヤツリグサ属、マメ科(アズキ類?)、エノキグサ)14個の種実が抽出・同定された(第28表)。以下に試料5のみ状況を述べる。

・SI21 P2 (試料5)

炭化した栽培種のイネの穎・胚乳が3個、胚乳が6個と、栽培種の可能性があるマメ科(アズキ類?)の種子が1個、計10個が確認された。種実以外では、炭化材(最大33mm)が多く、植物片、砂礫などが確認され、軽石類も多く含まれる。

以上の結果を踏まえ、検出された種実の形態的特徴を以下に述べる。また、炭化種実の写真を図版1に示す。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と胚乳を包む穎(果)は、炭化しており黒色。胚乳は、長さ3.7～5.2mm、幅1.5～2.8mm、厚さ1.5～2.1mmのやや偏平な長楕円体。基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2～3本の縦隆条がある(図版1-1～7)。SI21 P2より出土した胚乳9個中3個の表面には、穎の破片(初殻)の付着が確認された(図版1-1～3)。

穎は、完形ならば、長さ6～7.5mm、幅3～4mm、厚さ2～3mm程度のやや偏平な長楕円体。基部に大きさ1mm程度の斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言ふ場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の穂軸を構成する。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が縦列する。

・マメ科 (Leguminosae)

第28表 種実同定結果

試料名	出土位置	重量	同定結果				計測値 (mm)			備考		
			分類群	部位	状態	個数	枝番	高さ	幅		厚さ	
5	SI21 P2 Ⅲ層	6.671kg	イネ	胚乳	完形	炭化	3	1	4.3	2.8	2.1	・イネ胚乳:枝番3は別袋より確認 ・マメ科:半分厚、初生葉欠損 ・炭化材多い(最大33mm)、植物片、砂礫(軽石類多い)
								2	5.2	2.8	1.7	
								3	4.4	2.5	1.5	
				胚乳	完形	炭化	3	1	4.4	2.3	1.6	
								2	4.9	2.5	1.9	
				3	3.7	1.5	1.5					
				破片	炭化	3	-	-	-			
			マメ科(アズキ類?)	種子	破片	炭化	1	-	4.4	+3.4	1.6	+

種子は、炭化しており黒色。出土種子は、子葉の合わせ目から割れた半分未満の破片で、残存長4.4mm、幅3.4mm、半分厚さ1.6mmを測り、完形ならばやや扁平な楕円体となる。

子葉合わせ目から半割した面はやや平滑で、胚軸跡の溝が確認される。半割面は、北大基準(吉崎, 1992)の「アズキグループ(幼根が莢の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる)」に該当する初生葉を欠損するが、その痕跡(図版1-8b)が確認されることから、アズキ類(*Vigna* subgen. *Ceratotropis*(Piper) Verdc.: ササゲ属)である可能性が高い。種皮は薄く、表面はやや平滑~粗面で、断面は横状。

4 考察

種実同定の結果、SI21 P2から炭化した穀類のイネ、SI21 P2から栽培種の可能性があるマメ科(アズキ類?)が確認された。これらは、周辺で栽培されていたか、近

辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時の本遺跡周辺域で利用された植物質食料と考えられ、火を受けて炭化したとみなされる。

また、SI21 P2から出土したイネには、胚乳表面に穎の付着が確認されたことから、穎(粃)のついた生米の状態です火を受けたと判断される。

文献

石川茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p.

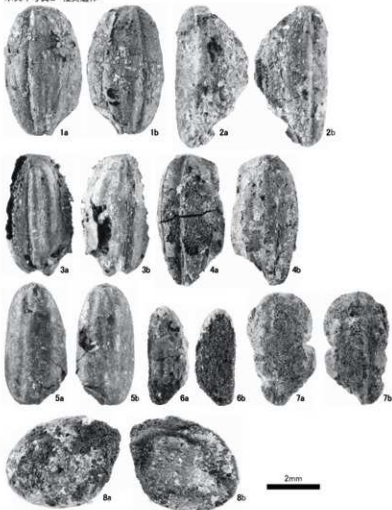
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p.

吉崎昌一 1992『古代雑穀の検出』『月刊考古学ジャーナル』No.355, 2-14.

※ 本分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

※ SI21は、本報告書掲載の中世堅穴建物1号である。

本文中写真2 種実遺体



- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2) | 2. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2) |
| 3. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2) | 4. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2) |
| 5. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2) | 6. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2) |
| 7. イネ 胚乳(試料2.SI13 西ベルト 床着 ①層) | 8. マメ科(アズキ類?) 種子(試料5.SI21 P2) |

第4節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・安昭 焜・佐藤正教
廣田正史・山形秀樹・小林絏一
Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani
・小林克也

1 はじめに

鹿児島県大崎町に位置する天神段遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

試料は、SI45 から炭化材 2 点、SI34 の床直から炭化種実 1 点、SI34 の SK1 から炭化材 1 点、SI35 から炭化材 1 点、SI43 から炭化材 1 点、SI47 の SK4 から炭化材 1 点、SK99 から炭化材 2 点、SD25 から炭化材 1 点 (試料 No. 10: PLD-27798) の炭化材の、計 10 点である。以下は、本報告当該試料である試料 No. 10 について記載する。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

表 5 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った暦年代に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C 年代を、図 2 に暦年代較正結果をそれぞれ示す。暦年代較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年代較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年代較正を行うために記載した。

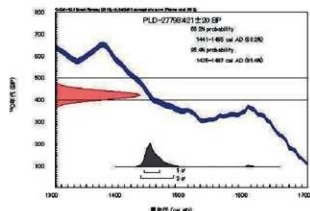
¹⁴C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C 年代 (yrBP) の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した¹⁴C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C 年代がその¹⁴C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年代較正の詳細は以下のとおりである。暦年代較正とは、大気中の¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された¹⁴C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C 濃度の変動、および半減期の違い (¹⁴C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。¹⁴C 年代の暦年代較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された¹⁴C 年代誤差に相当する 68.2% 信

頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。

4 考察

測定結果を暦年代較正結果に示した (第 158 図)。以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して結果を整理する。SD25 の試料 No. 10 (PLD-27798) は 1435-1487 cal AD (95.4%) で、15 世紀代の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。



第 158 図 暦年代較正結果

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編「新弥生時代のはじまり」第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代」9-54, 雄山閣。
- 中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Halldason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.
- ※ SD25 は、発掘調査時に SD18 に統合された。本報告書では中世溝状遺構 15 号として掲載した。

第 29 表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	資料データ	前処理
PLD-27798	遺構：SD25 試料 No.10 遺物 No.19456	種類：炭化物（タケ亜科） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 N、水酸化ナトリウム：1.0 N、 塩酸：1.2 N）

第 30 表 放射性炭素年代測定及び暦年校正の比較

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-27798 SD25 試料No10	-27.51 \pm 0.19	421 \pm 20	420 \pm 20	1441-1465 cal AD (68.2%)	1435-1487 cal AD (96.4%)

第6章 総括

第1節 古代について

日向国から4郡を割いて設置された大隅国は、鹿児島湾奥の曾於郡に国府が置かれ、日向・肥後・薩摩国と結ぶ駅路は曾於郡のみを通り、豊前・豊後両国から公民200戸を移住させて律令制度の浸透・定着が図られた。奈良時代のうちに曾於郡から菱刈・桑原両郡が分置されたのに対し、半島部の大隅・始羅・肝属3郡は、郷の帰属郡域・位置が流動的で、日向国との国境も不明瞭である。

大崎町周辺は近代以前には日向国に属していたが、奈良時代の断片的情報である「大隅国風土記逸文」に見える海村的な「必志里」は、大崎町斐田を遺跡とする可能性があり、その場合、大崎町城が大隅国に含まれることになる。考古資料においても、鹿児島湾奥並びに都城盆地周辺では、東九州自動車道建設に伴う調査等によって当時の様相が判明しつつあるが、大隅半島中・南部については、いまだに不明な点が多いのが現状である。

永吉天神段遺跡のうち、櫛ヶ山集落南東端の持留川を臨む第1地点で、掘立柱建物跡6棟と土坑7基などからなる、9世紀から10世紀前半頃の古代集落の存在が明らかとなった。その性格については、「交通の要衝地の一つとして、水漬や焼塩土器・鉄製品など特殊なものをもつ識字層が居住したと考えられる」としている（埋調査セ2016）。

第1地点の北西側にある第2地点では、古代の可能性がある柱穴が多数検出されたものの、古代の遺構と特定したのは黒色土器の可能性のある土器片を伴う1基のみであった。包含層出土遺物としては、土師器（耳皿状のものを含む）・黒色土器・内赤土師器・須恵器が29～32区の谷部分から集中して出土したが、第1地点の古代集落との関連については今後の課題である。

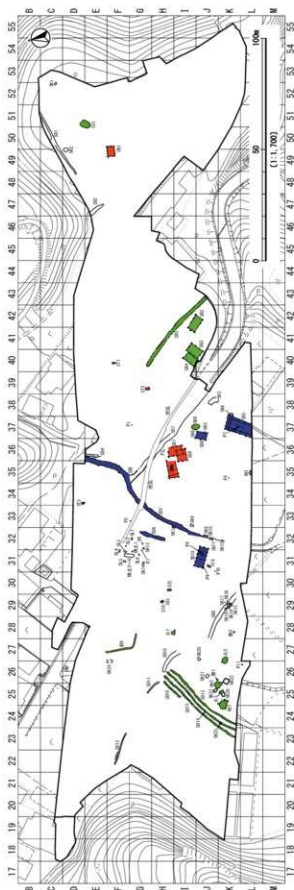
第2節 中世について

1 中世遺構について

掘立柱建物跡が10棟検出されたが、その主軸の向きから3グループに分かれ、さらに主軸と関連すると考えられる溝状遺構等からおおよその時期を推定する。

(1) 平安時代末の遺構

第2地点北東の微高地に独立している掘立柱建物跡1号、中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡7～9号の4棟は、ほぼ南北方向の主軸をもつ。この時期の遺構には、土坑墓2・4～6号の4基がある。土坑墓4～6号は、11世紀後半～12世紀前半のへら切底の土師器が副葬された墓である。土坑墓2号は、糸切底の土師器のミニチュア羽釜、白磁の瀕反碗、潮州六花鏡が出土しており、12世紀中頃の土坑墓と考えられる。



第159図 中世の遺構の推定年代（平安時代、鎌倉時代、室町時代以降）

(2) 鎌倉時代の遺構

中央微高地東側斜面の掘立柱建物跡5・6号、西側斜面の掘立柱建物跡10号は、3棟にバラツキがあるが、おおむね北東-南南西方向を主軸とし、掘立柱建物跡10号と平行する溝状遺構5・6号の2条との関係が考えられる。掘立柱建物跡10号の土師器は13世紀代と考えられる。溝状遺構5号は、遺構内遺物から13世紀後半～15世紀の時期設定ができる。土坑墓1・3号は、13世紀後半～14世紀前葉の糸切底の土師器が副葬されている。

(3) 室町時代以降の遺構

中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡2～4号の3棟は、N46°50'Eとなる北東-南西方向の軸を持ち、これと平行に走る溝状遺構3号と同時期のものと考えられる。これらの遺構は、本遺跡周辺の現在の区画割りに近い主軸方向をもつ。溝状遺構3号は、東播系須恵器の鉢や白磁碗、竊運弁青磁碗の破片が出土しており、遺跡が所在する柵ヶ山集落南麓の柵ヶ山古石塔群へ通じていたと考えられる。中世に遡る遺跡である。また、ほぼ同じ軸をとる溝状遺構13～16号(西側微高地の南側斜面)中の溝状遺構15号から検出された炭化材の放射性炭素年代は、15世紀代の暦年代を示している。室町時代以降の区画と捉えておく。

この時期の遺構に祭祀遺構がある。祭祀遺構2号は、明代(1368～1644)に鋳造を開始した洪武通寶を含む壺着した古銭7枚と完形の備前焼銅鉢が伏せられた状態で出土した14世紀末～15世紀の遺構であり、祭祀遺構1号は、遺構中央で、完形の糸切底の土師器小皿が底部を上に向けて出土した15世紀の遺構である。

火葬土坑については、3号は鎌倉時代まで遡る可能性があるが、概ね14～15世紀のものと考えられ、祭祀遺構や地下式坑とともに、中世の人々の精神世界を解明していくための貴重な資料となる。

また、南北方向を主軸とする掘立柱建物跡1号の近くに堅穴建物跡があるが、その主軸は北東-南西方向をとる。遺構内遺物から14世紀後半以降の堅穴建物跡と考えられる。柱穴内埋土中からも、16世紀前半～17世紀後半の炭化したイネ、栽培種の可能性があるマメ科が検出されている。

(4) 祭祀遺構について

祭祀遺構2号から出土した伏せた状態の備前焼銅鉢は、笠下遺跡(宮崎県延岡市)や油須木城跡(鹿児島市郡山町)に類似がある。笠下遺跡では、一頭分の牛の歯と明銭を伴って完形品が伏せた状態で出土しており、密教や修験道との関連が指摘されている。油須木城跡では、15世紀後葉から16世紀前葉に相当する完形品が伏せた状態で出土しており、城普請等に伴う祭祀との関連が検討されている(有川2004)。また、長田遺跡(志布志市有明町)では、土坑墓と推定される楕円形の遺構から、

12世紀の玉縁口縁の白磁碗を覆って伏せた土鍋片が出土している(関東の「鍋被り葬」とは直接関係しないとしている)。15世紀～19世紀にかけて東日本でもみられる鍋被り葬については、特定の病気の罹患者や旅行死亡者が村落境などに埋葬された可能性が指摘されている(櫻井・小中2016)。鉢・鍋類を伏せて埋納する行為については、南九州での類似の増加による検討の深化が期待される。

(5) 地下式坑について

本遺跡では、本県初の事例となる地下式坑が、第2地点で3基、第2地点北西の第3地点で7基検出された。第3地点の地下式坑については、別途作成される報告書にて掲載される。

地下式坑は、関東地方を中心に、九州北部では筑豊地域の英彦山神宮が所在する英彦山周辺などにみられるが、遺構内遺物の大半が後世の流れ込みによるものと考えられ、遺構構築時期に伴う遺物の出土例が少ない遺構である。そのため、その使途も定説が定まっていない。本遺跡では、表土除去後の検出面においては堅坑部分の埋土がシラス混じりで確認されることが多く、近現代のものと思定していたが、調査の進行に伴い本体部分が検出され、再考をせまられた。

この遺構については、第2地点調査時に福岡大学崎崎祐輔教授から地下式坑の可能性を示唆され、第3地点調査時には、鹿児島大学大学院理工学研究科井村隆介准教授に自然作用ではなく人為的なものとの所見を得、さらに大分県立博物館原田昭一企画普及課長から中世後期の地下式坑との指摘を受けた。堅坑平面の検出状況からすると、過去には、近現代のものとして調査されなかった場合もあった可能性がある。また、性格不明の大壘土坑として報告された例(宮崎県都城市松原第1遺跡18号土坑)もみられ、他の地下式坑の立地環境との共通性や使途等、今後の検討が必要である。本遺跡が所在する柵ヶ山集落の東端の持留川を臨む丘上には、天文四年(1535)再興棟札を収める彦三所大権現があり、信仰関連の立地・使途も検討する必要がある。

2 遺物について

遺物は、29～32区の谷部から集中して出土している。ヘラ切底の土師器や白磁は、谷部にはみられるが、西側微高地にはみられない。一方、糸切底の土師器は西側微高地にもみられる。中世前期は中央微高地から谷部までの範囲で人々の活動がみられ、中世後期に進むにつれて、人々の活動範囲が谷部西方の西側微高地に広がっていったと考えられる。

(1) 土師器について

本報告書では、土師器の坏・皿について、口径が10.5cm以上のものを坏、以下のものを小皿とした。日向国では、12世紀中葉以降、糸切底の土師器が出現するが、本遺跡

の12世紀相当の土坑墓4～6号から出土した土師器
 環・小皿はいずれもヘラ切底で、13～14世紀相当の土坑
 墓1・3号出土の土師器環・小皿は糸切底である。12世
 紀相当の土坑墓2号からは糸切底の土師器のミニチュア
 羽釜がみられるが、その他の遺構内遺物や包含層出土遺
 物を含めても、本遺跡の土師器の底部切離し技法がヘラ
 切から糸切へ移行する経過は不明である。本報告書掲載
 分の土師器環・小皿の法量は第31表のとおりである。
 出土遺物の範囲では、ヘラ切底と糸切底の法量を比較す
 ると、ヘラ切底の環・小皿の法量は明確であるのに対
 し、糸切底の環・小皿の法量は不明瞭である。ヘラ切
 底に対し糸切底の環・小皿は、口径・底径は小型化し、
 器高は深くなる。

第31表 中世土坑墓出土土師器法量

	底面	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
環	ヘラ切	12.8～15.1	9.0～11.5	2.1～3.25
	糸切	10.8～12.5	6.3～8.6	3.2～3.5
小皿	ヘラ切	8.25～10.0	6.6～8.0	1.1～2.0
	糸切	6.0～10.0	5.3～8.0	1.3～3.4

(2) 煮炊具について

本県出土の中世前半期の煮炊具に関する以前の検討
 では、中世前半期の資料は種類・数量ともに限られたも
 のであった(上床2004)。その後、調査件数の増加に伴
 い種類・数量とも増加してきた。県内出土資料を集成・
 検討した結果、以下のとおりの特徴がうかがえる。

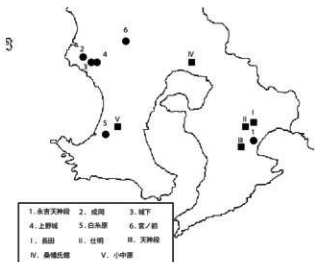
ア 釜に関しては、ほとんどの資料が白色を基調とする
 色調を呈する。これは、「畿内系土製煮炊具」の特徴で
 あり、本県資料群もその可能性が高いと考える。ただ
 し、さつま町宮ノ前遺跡出土例は茶褐色を呈しており、
 東海系の可能性がある。

イ 鍋に関しては、桑嶋氏館出土のものが「京都産」だ

が、ほかの3点は産地不明である。いずれも、土坑墓
 もしくは土坑から出土していることが特徴といえる。

以上のことから、本県内においては「釜」「鍋」ともに
 畿内産のものが多く傾向にある。このような中で、本遺
 跡出土393(第91図)は、内面の口縁端付近が膨らみ、
 胎土に灰色石・茶色石・輝石などの小石が含まれ、これ
 までの本県出土例とは異なる形態・手法・胎土であった。
 そこで、西日本各地で実地調査を行い学識経験者の所見
 も得た結果、上述した特徴は、紀伊産の土師質釜、いわ
 ゆる「紀伊型釜」であることが判明した。

また、これまでの紀伊産土師質釜の出土地の南限は上
 ノ村遺跡(高知県土佐市新居)であり、本遺跡出土資料
 は国内の南限新たに塗り替えるものであることも判明
 した。これまでの研究で、「畿内系土製煮炊具」や紀伊産
 土師質釜は、「広域流通品ではない」(徳永2009、池澤
 2010・2013)という指摘がされていたが、本遺跡の事例
 は、再検討を促す遺物の一つとして注目すべきである。

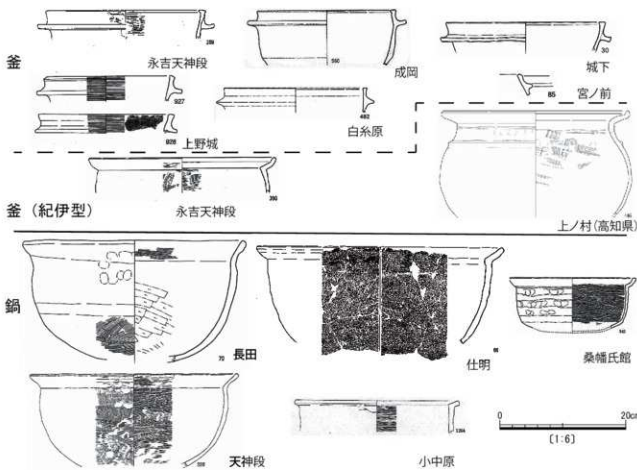


第160図 中世前半期土製煮炊具分布図

第32表 鹿児島県内の土製煮炊具

釜	番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
	1	永吉天神段	鹿児島県大崎町永吉宇天神	13世紀後葉頃か	紀伊産土師質釜	
	2	成洞	鹿児島県内市中西島町成洞	遺2は12～13・不明(近世?)	羽釜・滑石製石鍋も出土	白色
	3	城下	鹿児島県内市百次町城下	中世前半	羽釜	白色
	4	上野城	鹿児島県内市百次町上野城	中世前半	羽釜・2点出土	黒色・浅黄色
	5	白糸原	南さつま市金峰町大字宮崎字白糸原	13世紀後半の瀬戸飯子も同一遺構内出土	羽釜・古遺(溝状遺構)内から出土	灰白色
	6	宮ノ前	鹿児島県さつま町求名字宮ノ前	土師質 瀬戸前期Ⅱ～Ⅲ頃(中世前半)か	羽釜・瀬戸おろし煎出土・薬海系か	茶褐色

鍋	番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
	I	長田	志布志市有明町原田字長田	12世紀後半～13世紀前半	2号土器中玉縁白磁と併存	褐色
	II	住明	志布志市有明町蓮原字住明	12世紀後半	16・17号土坑において青白磁合子と併存	褐色
	III	天神段	曾於郡大崎町野方天神段	13世紀	土坑墓1号中出土・同安楽系青磁碗等と併存	褐色
	IV	桑嶋氏館	南島市華人町神宮二丁目	13世紀(同一遺構内出土の土師器の年代観から)	第8号土坑内出土	
	V	小中屋	南さつま市金峰町大字新山字小中屋	中世前半か		



第161図 鹿児島県出土の中世前半期土製炊具

第3節 近世について

1 遺構

近世の遺構は、第2地点の中央微高地周辺と、西側微高地の南側斜面及び西側斜面上に点在する。

(1) 溝状遺構

近世の溝状遺構1～3・6号の4条は概ね北東-南西方向に軸をもち、溝状遺構4・5号の2条は、これに直交する方向の軸をもつ。第2地点を北西から南東に通じる現道と集落各戸の区画は、これを基軸としているようにみえる。溝状遺構4号は、中世末～近代まで利用されていたと考えられ、中世後期の溝状遺構も概ね似た軸をもっていることから、本遺跡一帯では、中世のある時期以降、この基軸が意識されていたと考えられる。

(2) 土坑墓

J-26区では、土坑1基と、いずれも人骨と六道銭と考えられる古銭を伴う平面円形の土坑墓5基が、密集して検出された。六道銭は全て寛永通寶で、土坑墓1号は6枚、土坑墓2～5号は7枚が出土した。いずれも「文」字をもたない新寛永（铸造期間は1697～1712年）を主体とし、土坑墓1・3～5号は寛永13年（1638）铸造開始の古寛永を、土坑墓1・2・4・5号は寛文8年（1668）

铸造開始の背文銭を、土坑墓1・3号は背文銭と同時期の文無背銭を、土坑墓4号は寛保年間（1741～44）铸造の背元銭を含み、元文4年（1736）铸造開始の鉄銭は出土しないことから、概ね18世紀前半の銭貨流通状況を反映した土坑墓群と考えられる。このうち、土坑墓2・4号との切合い関係から土坑墓5号が最も古く、背元銭が出土した土坑墓4号が最も新しい可能性があるが、他の新旧関係は不明である。いずれも18世紀前半～中頃の土坑墓と考えられる。

いずれの土坑墓も木棺の痕跡を確認できなかったが、人骨の残存状況から、木棺内の空間が保たれている段階で頭骨が朽ちて棺底に落下したと考えられる。早稲タイプの木棺に埋葬された成人の可能性が高いと推測され、土坑墓1・5号は西向き、土坑墓2号は北向きに埋葬であったことがわかる（鹿児島女子短期大学下野真理子助手御教示）。本県近世墓の発掘調査成果によれば、平面円形の墓壇の場合は、遗体収納容器の平面形も円形の桶型木棺が想定でき、大隅半島ではこの組み合わせが多いとされる（藤井2013）。本遺跡第2地点で検出した近世土坑墓も、同じ傾向にある。

2 遺物

(1) 陶磁器

肥前系の陶磁器には、16世紀末～17世紀前半の陶器碗・皿、17世紀後半～18世紀前半の陶器碗、18世紀代の磁器皿、18世紀中頃～19世紀前半の磁器碗・筒型碗がみられ、近世の全時期を通じて、肥前系陶磁器が流入している。

龍門司系の薩摩焼では、外底面まで施釉された古手の碗や、徳利、灯明皿が出土した。

苗代川系の薩摩焼には、18世紀前半以前の壺・甕類の底部、18世紀前半～19世紀にかけての壺、18世紀後半の鉢類などの他、仏具もみられる。17世紀後半～18世紀前半頃の徳利のなかで堂平産産の可能性をもつものや、18世紀後半～19世紀の土瓶に、注口内側が1つ穴のものがみられ、用途による使い分けがみられる。

(2) 寛永通寶

土坑墓5基から、六道銭34枚と包含層から出土した4枚の計38枚の寛永通寶が出土した。寛永通寶の法量による分類(高橋2001, 川根・石川・植木2005)を参考に、本報告掲載寛永通寶を分類した。

掲載古銭のうち、鑄字体からA:古寛永(1053, 1066～67, 1075, 1082, 1088), B:背文銭(1056, 1060～61, 1077, 1087)と判断される古銭11枚は、いずれも、この法量と合致している。E:背文銭1枚(1079)を除く、残る26枚の古銭を錢径・錢厚・重量で分類すると、Bと同時期のC:文無背銭は3枚(1054, 1058, 1069), D:元禄～正徳期の新寛永は19枚(1055, 1057, 1059, 1062～64, 1068, 1071～72, 1076, 1078, 1080～81, 1083～84, 1086, 1234～36)の22枚が合致する。鑄字では新寛永にみえる3枚(1065, 1070, 1085)は、錢径がAのみに合致する。また、1237は、錢径・重量がAに合致するが、各分類の法量を超える1.8mmの錢厚を測る。この4枚を除く出土古銭34枚は、17世紀半ば～後半の50年間に鑄造されたA・B・Cの型が14枚、18世紀前半頃の50年間に鑄造されたD・Eの型が20枚となる。

鉄製・真鍮製の寛永通寶が鑄造されるようになる近世後期の銭貨が見えず、土坑墓は18世紀前半～半ば頃の時期にとどまっている。近世陶磁器は、17世紀代は少数で、大半が18世紀代のものと考えられる。調査対象範囲では住居跡等の遺構が検出されていないが、今回発掘調査された遺構・遺物からは、18世紀代が調査対象範囲における集落の中心時代と考えられる。

第4節 永吉天神所遺跡周辺の歴史的環境

1 永吉天神所遺跡所在地について

(1) 櫛ヶ山(まてがやま)

本遺跡は、曾於郡大崎町永吉の小字天神の台地に所在するが、一帯は櫛ヶ山と呼ばれる。地名の由来は不詳だが、参考までに大修館書店版『大漢和辞典』で「櫛」の字義を調べると、一こしかけ、木の名のほかに、二ふち、文書の意味があり、参照語の「檔案」には、官署の案内書、官署の記録とある。地名に用いられるのは珍しく、同書には当地「櫛ヶ山」が特記される。字義との関連は確かめられないが、第1地点の古代集落には識字層の存在が指摘されている(埋調査セ2016)。また、第2地点F-44区土層断面における植物珪酸体分析では、IVa層時期にはシイ属などが生育する照葉樹林が広がっていたことが推定されるが、IIIa層時期にはイネ科植物の生育に適した定期的な刈り取りや火入れなどの人為的な植生干渉がなされていた可能性がある(埋調査セ2017)。櫛ヶ山の地名の由来として、前記の字義や、マテバシイ等の植生分布の可能性をあげておく。

(2) 天神

所在地の字「天神」については、周辺に天満宮に関するものは見当たらず、釈迦・観音・阿弥陀を神体とする前述の彦三所大権現が所在する(「大崎名勝誌」)。筑豊境の英彦山神宮は天孫が下った地とされ、アメノオシホミミノミコト・イザナギノミコト・イザナミノミコトを祭神とするが、その本地仏は釈迦・千手観音・阿弥陀如来である。天神には、いわゆる天満宮の天神の意のほか、天神地祇の天津神の意味の天神がある。櫛ヶ山の小字天神は、彦三所大権現の神体が垂迹した天津神に関連するものととらえておく。

(3) 永吉

大崎町永吉は、大崎町南部の持留川右岸を指すが、南北朝期の正平十四年(1359)鳥津氏久寄進状には「日向国教二郷永吉東方比志田内地頭屋敷二ヶ所」と見え、永吉に隣接または包含される比志田に地頭屋敷が所在している。比志田は現在の北大崎町菱田と思われ、近隣には領家、春日島などの近衛家領鳥津荘所縁の地名があった(「大崎町史」)。薩摩国では「永吉名」=「地頭名の各部散在名」と考えられる(水上1955)。鎌倉時代末に教仁院・教仁郷地方の地頭代官として志布志宝満寺に所領を寄進する源太資清は、北条残党等による建武元年(1334)「鳥津庄日向方南郷差坊娘精謀坂人等交名」の、鎌倉幕府最後の執権である赤橋守時家人の教仁郷源太(「薩藩日記雑録」)と考えられる(五味1967)。大崎町永吉は、南北朝以前に、鳥津庄日向方惣地頭である赤橋系北条氏の地頭名であった可能性がある。

(4) 教仁郷(くごう)

大崎町は、近代以前には大隅国ではなく、日向国諸県

郡教仁郷(教二郷)に属した。この状況は「建久園田帳」に日向国諸県郡の島津荘一円荘として教仁郷160町が見え、中世前期までさかのぼる。中世史料には、教仁郷内に蓬原・比志田・飯隈・益丸・永吉が見え、鹿兒島県志布志市と大崎町の境を南流する菱田川を境に、右岸は教仁郷、左岸は教仁院(教二院)に分かれていた。

東九州自動車道(志布志IC-鹿屋車良JCT間)建設に伴う発掘調査対象遺跡としては、見場遺跡・安良遺跡・小牧古墳群・次五遺跡・木森遺跡が教仁院、春日堀遺跡・平良上C遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・京の塚遺跡が教仁郷に該当する。

教仁院・教仁郷は、日向国の律令郡郷名に見えず(「倭名類聚抄」)、日向国の古代駅名に「教仁」がある(「延喜式」)が、古代駅路の西海道を推定経路から志布志沿岸は離れており、駅名「教仁」と、大崎町域の「教仁郷」を関連づけることは難しい。教仁郷は平安時代後期の郡郷制の改編を経て定着した郷名の可能性がある。全国的には、●●●●●郷●●●郷と、国郡郷名が一致する例が見えるが、その変化例として、「クニ」郷と考えられる。教仁郷が、日向国日向郡日向郷と称されていたとは考え難く、中世以降に地名が失われた大隅国大隅郡大隅郷が比定される(平田1993)。

本来、大隅国にあった教仁郷は、平安時代後期の郡郷制改編を経て、日向国諸県郡に移管された可能性がある。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、教仁郷・教仁院の弁済使等に薩摩平氏の教仁院・安楽氏が知られ、近隣の櫛間院(宮崎県串間市域)や大隅国肝属郡等の島津荘内の弁済使等と互いに姻戚関係を築いていた(「薩摩旧記雑録」「備忘録抄」「肝付系図」「櫛間院本主次第手継系図」)。教仁郷・教仁院が大隅国から日向国へ移管されたものであれば、その契機は、万寿三年(1026)に平季基によって立荘された島津荘の成立・拡大と関連するものと考えられる。

2 遺跡と文献資料から見る中世前期の志布志湾岸

中世前期には、薩摩平氏系の教仁院氏・安楽氏に代わり、教仁院に伴姓安楽氏、教仁郷には志布志市有明町蓬原を拠点に伴姓教仁郷氏など、肝付氏族が見える。中世遺構・遺物が豊富な川久保遺跡(鹿屋市車良町細山田)は肝付氏族北原氏の本貫地に隣接するが、北原氏は教仁郷氏から分出し、後に安楽氏から養子を迎えたと考えられ(「東車良町郷土史」)。菱田川から車良川の間で、教仁郷氏が活動していたと窺われる。日向・大隅両国の守護職と島津荘惣地頭職は、島津氏から北条氏一門に移り、教仁院宝満寺(志布志市)や柏原別府(肝属郡車東車良町)を通じて種子島に至る航路・港湾権益を北条氏が握る(松尾2012)とともに、北条氏島根時代らの在地権益への浸食がみられる。志布志湾岸一帯で活動した北条氏の地頭代

や被官らは、南九州外から進出した者(大隅惣地頭名越系北条氏の地頭代肥後氏・布施氏・門貫氏、鹿屋院地頭代津野氏、櫛間院地頭代と考えられる河野氏または阿野氏や野辺氏等)や、もともと島津荘弁済使などの在地勢力の庶流から被官化したと考えられる者(教仁郷源太、教仁郷弁済使宗頼、教仁院因幡馬入道道西)がみられ、在来の弁済使らとの争論が絶えない。

中世後期以降、近世に至る教仁郷氏は、源姓を名乗っている。肝付氏族の系図によっては、伴姓教仁郷初代兼綱が養子を得て、その子孫は代々「宗」を通字(「伊地知季安著作集 肝付系図」としており、源姓と考えられる教仁郷源太や弁済使宗頼は、この系統にあたるかもしれない。教仁郷氏の系譜の交替あるいは仮冒がみられ、肝付氏から離れていく。南北朝期には、本遺跡南方の胡麻ヶ崎城(曾於郡大崎町狩宿下)に後醍醐天皇近臣の千種忠顕の雑掌が入城したり、信濃国に由来すると考えられる楡井頼伸が志布志湾岸で活動したり、熊野水軍の南九州渡来などの争乱を経るが、その後は、南九州以外からの外來勢力の進入・定着はみられなくなる。広域流通品ではない紀伊産の土師質釜の出土上限を、高知県から南下させた本遺跡における出土例は、このような鎌倉・南北朝期の人の往来を念頭に検討する必要がある。後日の日貿易で堺を拠点に細川氏が活用する。紀伊半島から南九州に至る太平洋岸航路は、1340年代には既に存在していた(綿貫2010)。

本県や宮崎県では、湖州鏡の出土遺跡や奉納伝世された神社は、河川流域や周辺に水田をひかえた共通点があり、平安時代から鎌倉・室町時代にかけて、ある程度の政治力や経済力をもつ勢力の存在が想定でき、彼らが12世紀には末法思想を受容して湖州鏡を副葬したとされる(上村1994)。

また、紀伊産の土師質釜が出土した高知県上ノ村遺跡は、中世都市高岡町を支える13世紀の仁淀川下流域の川津機能を果たしていた(出原2010)。本遺跡では、第1地点の識字層と関わる古代村落、第2地点では、12世紀と考えられる中世土坑墓2号副葬の湖州六花鏡、鎌倉時代の太平洋岸の交易を推定できる紀伊産の土師質釜のほか、青磁・白磁・中国製壺や東海・播磨・備前産陶器の出土など、遠隔地との交流を行う政治・経済力を有する人々の存在が想定される。

近年の発掘調査の成果によって、従来不明瞭であった、大隅半島北部の中世の様相が、垣間見えてきている。郡元西原遺跡(宮崎県都城市)では、島津荘成立・拡大期の荘政所に関連すると想定される大溝が検出されている(現地説明会)。島津荘政所の荘務を預かる藤原富山氏の一族富山勾当安妻が百引村弁済使に補任(承安五年八月十四日付及び承安元年十二月日付「富山氏文書」(「薩摩旧記雑録」前編卷一)された地の新田遺跡(鹿屋市輝北

町百引]、その南東約6kmの天神段遺跡(大崎町野方)では、古代・中世の遺構・遺物が豊富に発見され、大隅半島の南北方向と志布志湾との交通上の要衝の遺跡として注目されている。

本遺跡は、新田遺跡から天神段遺跡を経て、県道64号線で志布志湾へ向かう途上の持留川の対岸に所在する。大隅半島で古代駅路の存在を想定することは難しいが、今後の志布志湾岸など大隅半島各地の発掘調査成果の増加とともに、文献史との整理検討を進める中で、伝路などの古代交通路や島津荘内の交通路・港津施設の復元が深化されることで、本遺跡の志布志湾岸での古代・中世史上の位置づけの理解が深まると考えられる。

主な整理・報告書作成作業協力者(敬称略 50音順)
池澤 俊幸、北野 隆亮、齋木 巖、佐藤 重型、
柴田 圭子、原田 昭一

引用・参考文献

- 有川孝行 2004 『油須木城跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集
- 池澤俊幸 2010 『南四国に搬入された中世土器・陶磁器と海運』『中世土佐の世界と一条氏』市村高男編
- 池澤俊幸 2013 『南四国・仁淀川流域の遺跡と水運』『中世土器の基礎研究』25 日本中世土器研究会
- 石野弥栄 2015 『鎌倉～南北朝河野氏の遠隔地所領支配』『中世河野氏権力の形成と展開』
- 出原三他 2010 『上ノ村遺跡1』(財)高知県文化財埋蔵文化財センター発掘調査報告書第107集
- 上床真 2004 『鹿児島県における中世煮炊具の様相』『研究紀要・年報 縄文の森から』第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 小野信彦 1990 『傘下遺跡』北方町文化財報告書第1集
- 鹿児島県教育委員会 1983 『成岡・西ノ平・上ノ原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第28集
- 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2017 『永吉天神段遺跡 第2地点-1 旧石器・縄文時代編』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002 『鍛冶屋馬場遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第39集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003 『橋元・城下遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第57集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2009 『上ノ原遺跡(第3地点)』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第140集
- 上村俊雄 1994 『南九州出土の湖洲鏡について』鹿児島大学法文学部紀要『人文科学論集』第39号
- 川根正教・石川功・植木真吾 2005 『寛永通寶銅銭の形態的特徴と金属成分分析』『日本考古学』第20号 日本考古学協会編
- 北野隆亮 2005 『和歌山平野における瓦器の分類と変遷—紀伊型瓦器機の認識とその評価—』『紀伊考古学研究』第8号
- 北野隆亮 2006 『紀伊型瓦器機の編年と分布』『中近世土器の基礎研究』第XX号 日本中世土器研究会
- 霧島市教育委員会 2006 『桑植氏館跡』II
- 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2016 『永吉天神段遺跡 第1地点』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(8)
- 五味克夫 1967 『島津庄日向方教二院と教二郷』『日本社会経済史研究』古代中世編 寶月圭吾先生還暦記念会編
- 五味克夫 1994 『志々木家文書の再考察』『鹿児島女子大学研究紀要』Vol.15-No.2
- 阪本敏行 2011 『熊野水軍 中世前期を中心として』『海の熊野』森話社 谷川健一・三石学編
- 櫻井準也・小中美幸 2016 『鍋披り葬研究の成果と新発見例』『日本考古学協会第82回総会 研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会
- 薩摩町教育委員会 2001 『寺屋敷遺跡・通山遺跡・宮ノ前遺跡・犬木屋遺跡』薩摩町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 高橋照彦 2001 『近世銭貨の生産と品質規格—寛永通寶と長崎貿易銭の法量計測的研究—』『奈良国立博物館研究紀要 園圃雑集』第2・3合併号
- 出口順一郎・堂込秀人 2003 『長田遺跡』有明町埋蔵文化財調査報告書(2)
- 徳永貞紹 2009 『肥前における中世前期の畿内系土製煮炊具』『新東見一代表選評記念論文集 南の縄文・地域文化論考』中巻 九州縄文研究会新東見一代表選評記念論文集刊行会
- 橋口亘 2006 『鹿児島県出土の備前焼』『備前焼フォーラム 備前焼・海・道・夢フォーラム 2006—備前焼の歴史と未来像をもとめて—』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館
- 平田信芳 1993 『古代の大隅地域—大隅郡の境域と日向への道—』『歴史の道調査報告書 第五集 大隅地域の道跡』鹿児島県教育委員会
- 藤井大祐 2013 『発掘調査事例からみた鹿児島県域の近世墓』『鹿児島考古』第43号 鹿児島県考古学会
- 松尾剛次 2012 『中世佛教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開—薩摩国奉平寺・日向国宝満寺・大隅国正国寺に注目して—』『山形大学人文学部研究年報』第9号
- 水上一久 1955 『南北朝内乱に関する歴史的考察—特に薩摩・大隅地方について—』『金沢大学法文学部論集哲学史学編』
- 穂貫友子 2010 『中世の太平洋海運』『海事博物館研究年報』38

写 真 图 版



溝状遺構3号とその周辺（北西から）



G・I-42・43区 遺物出土状況（北西から）



鉄製品（1029）出土状況（F-41区）



J・K-28~30区 遺物出土状況と溝状遺構8号（西から）



石鍋転用品（984）出土状況（E-32区）



掘立柱建物跡5号とその周辺（西から）



I・J-27~30区境 南面土層とその周辺（南から）



黒色土師器（381）出土状況（F-31区）



J・K-25・26区 中世遺構と近世墓群（東から）



青磁碗（581）出土状況（E-28区）



アカハヤブロック・礎出土状況（南東から）



土層（南西から）



南側の横穴（北から）



軽石出土状況（北東から）



完掘（北東から）



1号 (西から)



2号 (北西から)



3号 (北東から)



4号 (北東から)



5号 (北東から)



6号



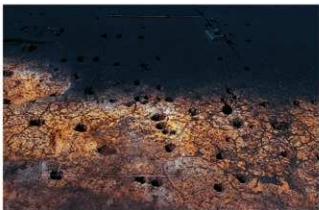
7号 (南から)



8号 (東から)



掘立柱建物跡9号（西から）



掘立柱建物跡10号（南東から）



土坑1号の検出状況（南西から）



土坑1号（南西から）



土坑2号（南東から）



土坑4号（北西から）



土坑3号の遺物出土状況（南東から）



土坑3号（西から）



5号（南東から）



6号（南西から）



7号（南東から）



8号（西から）



9号の土層（西から）



9号（西から）



10・11号（西から）



12号（南から）